

と乾燥するのが早く腐ることも発芽することもないとのことである。

果實が十分に乾燥すると二つに割つて數日間乾かすのが普通であるが、ソロモン群島のやうな多雨地方では一度燻してから乾かす。次に核を堅い殻からナイフでほじくり出して袋につめ込む。

椰子の實は一年に二作で、一個の重さが約三疋で、一房に五六個、一本の樹に百乃至二百位實り、十本の樹から約二、〇〇〇個くらの果實が得られ、約一噸のコブラが收穫される。コブラの相場は時々變動があつて、シドニー市場では一噸一二磅から二〇磅の間を上下してゐた。

椰子油を取つた後の油粕は家畜肥滿飼料として貴重である。

第五章 農業と農産品加工業

農作物概説

畜産物に次いで農作物も亦濠洲の一大富源である。濠洲農業の特質は粗放性と植民地性にあるが、これは自然的及び社會的原因によつてかくならざるを得ないのである。

現在農業上に利用してゐる總面積は四五、〇〇〇、〇〇〇乃至四六、〇〇〇、〇〇〇エーカー(一エーカーは、四段二十四歩餘)で、内主要農作物の作付面積はその二分の一、即ち二三、〇〇〇、〇〇〇エーカー餘である。

第三九表 主要農作物作付面積及び生産金額と比率表(一九三七—八年度)

種別	作付面積(單位千エ)	單位	生産量	生産金額(單位千磅)	同上記率
小麦	一三、七三五	チブツセル	一八七、二五六	三七、〇〇〇	三九・六九
乾草	二、九八二	噸	三、四二四	一三、六二九	一四・六二
果實	二七七	噸	—	九、二〇四	九・八七
甘蔗	三五八	千噸	八一〇	九、〇六五	九・七二
葡萄	一二五	噸	五〇五	四、八六五	五・二二
綠林	一、六四〇	噸	—	三、〇四三	三・二六
燕麥	一、四〇八	千ブツセル	一七、一六五	二、五三七	二・七二
馬鈴薯	一一四	千噸	三四五	二、四四二	二・六二
大豆	五二五	千ブツセル	一〇、八〇二	二、三二一	二・四〇
玉蜀黍	三二〇	噸	六、八一七	一、七六一	一・八九
煙草	一一	千封度	五、九八〇	五一三	〇・五五
米	二四	千ブツセル	二、二六九	四五九	〇・四九
其他	四三三	噸	—	六、四九〇	六・九五
計	二一、九五二	噸	—	九三、二二九	一〇〇・〇〇

(註) 豆類、玉葱、甜菜糖、ホップ、棉花等も産するが、いづれも生産量が極めて少いから、これ等を總べて

其他に合算した。

第二次世界大戦が産業に及ぼした影響 一九三八年から一九三九年に至る間の歐洲政治状態の悪化に鑑み、戦争勃発の場合における食糧その他の生産物の供給に關して濠洲とニュージールランドはそれぞれ英本國と協定を結ぶに至つたが、この協定の主眼は英本國のみにこの兩國より食糧を供給することにあつた。

かくて第二次歐洲大戦勃発するや、濠洲聯邦政府は一九三九年九月二十一日に發布した「小麥徵發に關する國家保安法」を制定し、商務大臣監督の下に麥類及びそれに関連した物品一切の管理をなさしめ、また生産者救済策、需要調節等に努力した。

英國の食糧問題と濠洲及びニュージールランド 第一次世界大戦に於いては、ドイツは日・英・米・佛・伊五ヶ國の海軍によつて通商路を破壊され糧道を絶たれるに及んでつひに敗戦の憂き目を見たのであるが、今次大戦においては英國がそれと同様な運命に陥らんとしてゐるのである。主として米英のみの海軍力によつて太平、太西兩洋を護らなければならないのに、英國太平洋艦隊並に蘭印艦隊、濠洲艦隊等はその大部分が潰滅し、今や英國は毫も昔日の倂を存しない微弱な海軍力によつて自國を護り、併せてその通商擁護の任に當らなければならなくなつた。

ドイツによつて歐洲諸國よりの食糧供給を完全に封鎖せられた英國は、今や南米大陸、アフリカ、印度、濠洲及びニュージールランド等からその食糧を輸送しなければならない。しかも西南太平洋には強力な日本海軍が控へてゐる。自給をなし得ない英國の食糧問題は正しく危殆に瀕し、英國民の焦慮のほどは想像するに難くない。

今英本國の開戦當時における主要食糧品の自給状態を示せば左の通りである。

第四〇表 英本國の食糧自給率（一九三九年）

品目	單位	消費總額	國內生産額	消費總額ニ對スル比率
生牛乳	百萬ガロン	九一八	九一八	一〇〇
馬鈴薯	千石	四、五七六	四、三九五	九六
ナズ	同	一九九	六二	三一
砂糖	同	一、九三五	五〇六	二六
魚類	同	九七四	八六一	八八
鶏卵	百萬個	七、一八二	四、六六八	六五
肉類	千噸	三、〇八六	一、五二九	五〇
煉乳其他	同	三五九	一六九	四七
飼料穀類	同	九、七九六	三、二三二	三三
果實	同	二、三八〇	六〇一	二五
穀類	同	四、四一八	五七五	一三
バター・ラード	同	九四七	一〇七	一一
マーガリン	同	一、八四八	七八	四
豆 其他	同	二八三	〇	〇
茶・コーヒー・ココア	同	〇	〇	〇

農業と農産品加工業

前表で見ると、英本國の食糧自給率は世界にその比を見なほど貧弱である。而して輸入食糧品中最も重要な小麥の五割五分、バター、チーズの七割五分、肉類の二割餘は何れも濠洲及びニュージーランドから供給を受けてゐたのであつた。殊にバター及びチーズはデンマークその他のスカンジナビア諸國及びスイス、オランダ、伊太利等の重要輸出國からの輸入が杜絶し、アメリカは多く生産してゐるが、自國の消費を辛うじて支へるに過ぎない状態であるから、英國は自國の生産に頼る以外に途が無くなつてゐるのである。

濠洲及びニュージーランド兩國の農産物の大東亞に於ける重要性 最近までこの兩國が大東亞圈内において果しつゝあつた役割は、その主要生産物たる農産物の供給であつて、羊毛、小麥、小麥粉、バター、チーズ、煉粉、乳、肉類、獸脂、皮革等いづれも大東亞圈内に於ける重要な必需物質で、しかもこれ等は兩國に於いては生産過剩物資であつた。このうち、酪農品の大東亞圈内における需給關係を見るに、わが國を除いてはヒリツピン蘭印、マライ、佛印、泰國、ビルマ等いづれも殆んどその全部を諸外國殊に濠洲及びニュージーランドに依存してゐたのであつた。

第一節 小 麥

小麥が農作物中第一位 小麥は濠洲農産物中で群を抜いて最も主要なものである。その耕作地全部の三分の二以上を占め、その生産額は實に莫大なもので、國內の需要を充した上に多額を世界市場に送つてゐた。

最初小麥はただ海岸地方にのみ耕作されてゐたが、試作の結果二〇インチ乃至四〇インチの降雨量のある地方

でも好成績を収めることが知れ、現在では南部温帯地域にも廣く耕作されてゐる。

第四一表 小麥作付面積及び生産量表（一九三九年）

州 別	作付面積(單位千エーカー) (一九三八年—一九三九年)	同上平均(一九二九—三八年)	生産量(單位千ブツセル) (一九三八年—一九三九年)	同上平均(一九二九—三八年)
ニュー・サウス・ウエールズ	四、五六八	四、二四六	五九、一二四	五四、八七一
西オーストラリア	三、四一二	三、一五一	三六、七二二	三五、五〇七
南オーストラリア	三、〇八四	三、五六三	三一、七三七	三四、二一五
ヴィクトリア	二、七四八	三、一〇〇	一八、一〇四	四一、二八八
クインズランド	四〇〇	二五四	八、四四八	三、五五一
タスマニア	一〇	一八	二四三	三九九
聯邦首都地域	二	二	五九	三九
計	一四、二二四	一四、三九四	一五四、四二九	一六九、八二九

第四二表 主要國一人當り小量消費麥(單位ブツセル)

國 名	食糧用	飼料用	計	國 名	食糧用	飼料用	計
アルゼンチン	五、四	〇、二	五、六	英國	四、八	一、〇	五、八
濠洲	四、九	一、三	六、二	カナダ	四、五	三、三	七、八
ニュージーランド	四、八	一、一	五、九	米	四、二	〇、六	四、八
農業と農産品加工業							一八五

小麥耕作地域 小麥耕作地域は降雨地帯と密接に關係してゐる。

ニュー・サウス・ウェールズ州に於いて最も適した小麥耕作地域の西部限界は降雨量平均二〇インチの地域と一致してゐる。暑い北部ではもつと雨量が必要であるが、南部のマレー河地域ではもつと少い雨量でもよい。

本州に於ける小麥耕作地は(一)河川地域(トウカムウオルからワガまで)、(二)西南傾斜地(ワガ、ヤング)、(三)中央西部傾斜地(フォース、クーナバラプラン)、(四)西部平野(ナロメイン)、(五)西北傾斜地(タムワース、モリー)、(六)中央高臺地(ゴールバーンからキャシリスマまで)、(七)北部高臺地(タムワースからドレークまで)の順である。

西部傾斜地と河川地域の東部とで小麥が大量に生産され、この二地域だけで本州全生産額の殆んど八割五分を占めてゐる。海岸では西部區域と東縁を除いた中央西部平野には小麥耕作地は非常に少い。西部平野で近年小麥の生産が膨脹したのはナロメイン周辺における生産増加によるのである。

一九〇四年以來、小麥を有利に耕作される地域は非常に増大した。春の降雨が小麥生熟に、西北部平野よりも一層適する河川地域に於いては殊にさうである。

北部地域の或部分は耕作に不適な石礫多き山岳地帯と乾いて固くなつて龜裂を生じ耕作機の使用を困難ならしむる黒土平野であるので、小麥耕作に不適當と思はれてゐる。河川流域の肥沃な土地では麥稈を生長させ過ぎる傾向があるので、良好な小麥耕作地からは除外されてゐる。しかしこの麥稈は秣としては優秀である。

銹菌症にかかり易いため近年小麥耕作が廢止されたと云つてもよい状態にある海岸地域を除いて、本州には小

麥耕作に適する地域は二〇、〇〇〇、〇〇〇乃至二五、〇〇〇、〇〇〇エーカーに及ぶと見積られてゐるが、現在實際に使用されてゐる地域は第四一表で示した通り、その五分の一にも足りない四、五六八、〇〇〇エーカーに過ぎない。

一エーカーの耕作地の平均生産高は、英國は三三アツセル、ドイツは三〇アツセル、カナダは二〇アツセル、濠洲は一二・三アツセルであるから、世界の主要小麥生産國に比すれば濠洲は遙に劣つてゐるので、將來改良の餘地は充分に残されてゐる。しかし濠洲小麥は質がよく、世界いづれの國のものよりも高價で取引されてゐる。ヴィクトリア州における小麥の最大耕作地は北及び西北、即ちウインメラ、マリー及び北部地方である。西北の十一郡、即ちロウワン、ボウラング、カラ・カラ(以上ウインメラ地方)、ウイリア、カーカールツク、タツチエラ(以上マリー地方)、ガンバウワー、グラッドストーン、ベンディゴ、ロドニー、モイラ(以上北部地方)がヴィクトリア州小麥耕作地の九割三分を占めてゐる。

本州では一エーカーにつき平均一三アツセルくらゐの生産高をあげてゐるから、ニュー・サウス・ウェールズ州よりは成績がよい。

近年ウインメラとマリー地方では牧羊と小麥耕作を兼業する傾向があるので、小麥生産高は減少した。

南オーストラリア州ではプリンダーズ山脈と二〇〇マイルにも大陸へ入り込んでゐる長い灣の影響を受けて、等兩線中に北方へ向つての膨出部がある。この地域のセント・ヴィンセント灣周圍の六郡、即ちデーリー、スタンリー、ヴィクトリア(いづれもウォラルー及びボート・ピリーの兩港が出口である)、ダルハウシー、フロー

ム(ボート・ビリーとボート・オーガスタの二港間にある)、ヨーク半島を含めたファーガッソン(エディスバ
ーグが主要港)には良質の多量の小麦を生産する。
スペイン半島を横切つてエイア半島の海岸でも多量の小麦が生産される。この地方の中心地はボート・リンカ
ーンである。

南オーストラリア州では降雨の四分の三は冬季にあつて、夏は暑くて乾燥してをり、數ヶ月間降雨のないことが
屢々ある。これ等の條件は小麦耕作に非常に好結果をもたらす。種は四月と五月(春季)に蒔かれ、夏季に入る
前に大方生長を終る。十、十一月の初夏の暑い天候は小麦を非常によく生熟させるので、光澤あつて先質した小
麦を生産するのが普通であるから、本州の小麦は乾燥してゐるのと、製粉の色と質のために世界市場で歓迎され
てゐる。

前に述べた通り、降雨が少ないので寒冷な地方を除いては、灌漑の助をからずしては大規模で夏季の作物を栽培
することは不利益であるから、農家は主に冬の作物と牧畜に力をそそいでゐる。

第二節 小麦耕作と降雨との關係

小麦耕作は降雨によるところが多であり、殊に小麦の熟する期間の九月、十月の降雨は最も大切である。

H・A・ハント氏の報告によると、次の地域には小麦季節(四月―十月)には一〇インチ以上の雨量がある。
ニュー・サウス・ウェールズ州一六三、七七二平方哩、西オーストラリア州九三、五〇〇平方哩、クインズラ

ンド州七九、二四七平方哩、ヴィクトリア州七四、六一六平方哩、南オーストラリア州四六、八八〇平方哩、タ
スマニア二六、二一五平方哩。

種々の理由で、この地域の半分は小麦耕作に不適と見ても、全面積五〇〇、〇〇〇平方哩が乾燥農業其他の方
法で耕作可能にされるかも知れない。

一九〇七年に於ける南オーストラリア州の典型的小麦耕作地方における降雨の記録は、雨の分配と小麦生産と
の關係についての觀念を與へるであらう。

一月	〇・〇〇インチ
二月	〇・九三インチ
三月	〇・二九インチ
四月	三・〇七インチ(播種)
五月	一・〇六インチ(播種)
六月	一・三六インチ
七月	二・八八
八月	二・七九
九月	〇・七〇
十月	一・三三

小麦生育期間の全雨量一二・〇八インチ

十一月一・九八〃 (收穫)

十二月〇・六七〃

計 一七・〇六〃

このやうな條件の下では、科學的原則に従つて耕作された土地から、過去數年間、農業家は一エーカーにつき三〇乃至四〇ブツセルの收穫を得た。

乾燥した夏季の天候後、例へば一月に南オーストラリア州に來た濠洲以外の國からの旅行者は同州の早魃して荒涼たる様子を現出してゐる土地を見て、若し彼が南オーストラリア州の記録を熟知してゐないなら同州の小麥耕作地としての可能性を疑ふであらう。

一八三八年の昔、キャブテン・スタートはアデレード平野で農業を營まんと企ては不幸な結果に終るだらうと公然と移住者に警告した。しかし、この同じ土地が現今では小麥耕作地は一エーカー平均一五磅、その他の非常に大部分の果物、野菜等の栽培に適する土地は一エーカー四〇磅以上で取引されてゐるのを見たら、スタートも驚嘆の眼を見はるであらう。

近年小麥耕作地が減少したがこれには二つの原因がある。第一に、従前北部地方の大地域は小麥耕作に使用されてゐたが、この地方の多くが牧畜に層よく適することが知られて牧羊と酪農に使用されるに至つたのと、第二に、農業家は不十分に準備された大地域よりは耕された小地域に耕作する方が利益のあることを知つたからである。

ある。

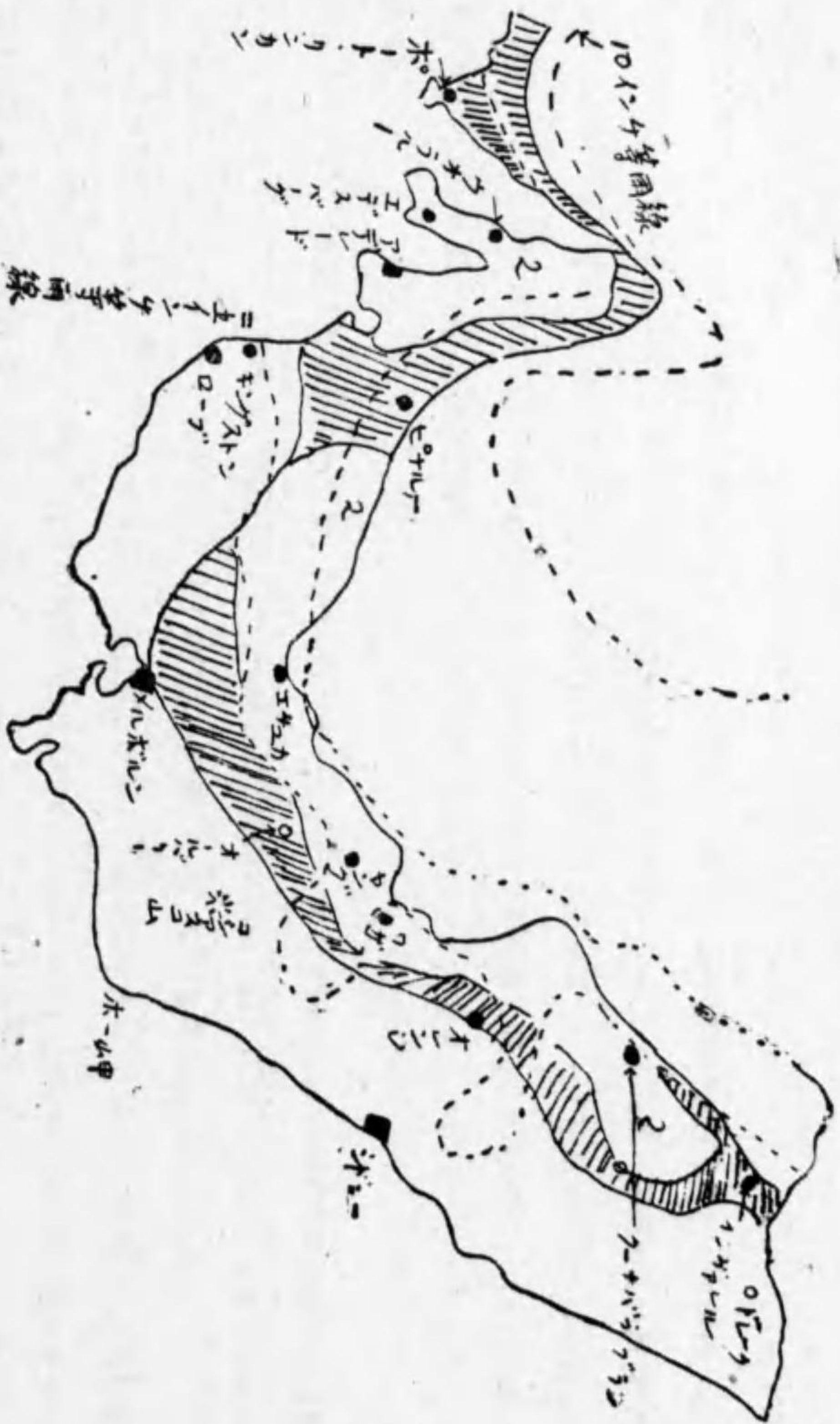
乾燥した地域では、農業家は一年目は牧畜をし、二年目は休閑し、三年目に小麥を耕作すると云つた風に、三年の輪作をやつて二冬の降雨を一季節の小麥耕作に當ててゐる。

小麥收穫後、次の十八ヶ月間は家畜を刈株と牧草とで飼育し、その後は初冬に土地を耕し、雨を深く地中に透入させて水が流れて水分が失はれることを防ぐ。その後、土地中の濕氣の蒸發を遅らせるために、その次の春と夏との間は地表面を滑らかにして置き、その次の冬にかく準備して置いた土地に小麥を蒔くのである。

アメリカ合衆國に於けると同じく濠洲に於いても小麥地域の限界は次第に西方に動いてゐて、パリンジャツク灌漑は河川地域に小麥耕作を擴張してをり、南オーストラリア州のペンナルとエイア半島には小麥耕作大地域がある。

西オーストラリア州の森林地帯が開墾されたなら良質の小麥を生産するに至るであらう。

小麥國としての印度と濠洲とを比較して見ると、印度での主要小麥耕作地域は一〇乃至四〇インチ等雨線の間で華氏五五度と六五度の冬季等温線内にある。濠洲でこれに相當する地域はダーリング河上流とその支流を含む地方に亘り、殆んど南回歸線まで及んでゐる。それで灌漑施設を完備すれば、この地域も印度と同じ穀倉に變へ得るのである。しかるにこの地域を含むクインズランド州では、現在なほ小麥生産が少いのであるから、小麥耕作の將來は頗る大である。



第一三圖 ニュー・サウス・ウェールズ州及びクイーンズランド州の小麥耕作地帯
 〰 小麥地帯 〰 主要小麥地帯

第三節 牧草 乾草 果實

牧草と乾草 濠洲の牧畜が急激に發展した主なる原因は、この大陸が他の大陸から隔離されてゐるため輸入動物に對する檢疫を嚴重にすることが出来るので、害鳥獸の移入と害虫の發生を防止し得ること、自然の牧草に恵まれてゐること及び人工牧草をも成功裡に栽培し得ることにあるのであつて、牧草は牧畜國濠洲に取つては缺くべからざるものである。

乾草は、冬季牧草の成長が衰へた時と夏季の乾燥と暑熱のために牧草が枯れた場合に、家畜に飼料として與へるものであるから、重要な商業價值を持つてゐるわけである。そして濠洲の乾草とは小麥莖、燕麥莖及びブルーサンを主體とし、その他の乾した草を含めたものを云ふのである。

果實 濠洲は南北に亘つて廣大な地域を有し、熱帯、亞熱帯、濕帯を含んでゐるので、各種の果物の栽培に適し、パイナップル、パパイヤ、マンゴー等の熱帯果物から温帯中でも比較的寒い地方に産する苺、ラズベリー、葡萄の類、林檎、柑橘類も多く産するのである。南部の温帯地方は林檎、桃、葡萄、柑橘類その他の果物の産地として有名であり、殊にタスマニア林檎と云へば世界に廣くその名を知られ、首府ホバート附近は立派な果實と野菜とを多産する。西オーストラリア州の西南隅のスオン・ランドもまた林檎その他の果實の名産地である。南オーストラリア州の首府アデレード附近もまた果樹園に富み、林檎、梨、オレンジ、レモン、桃、巴旦杏、苺等殆んどあらゆる温帯果物を豊富に産する。

第四三表 果樹植付面積(一九三七—八年單位千エーカー)

種	ニュー・サウス・ウエールズ	ヴィクトリア	タスマニア	タインズランド
林檎	一八、一七三	二八、九〇七	二四、四四一	五、六二九
柑類	二七、六一七	六、二二五	一	四、七三三
桃	八、三九七	一四、三四六	八〇	一、三八四
バナナ	一四、七一一	一	一	八、一七四
梨	四、〇一三	一二、六二三	二、三七〇	三一九
西洋李	五、四九八	三、九七七	四六六	一、二二三
杏	二、〇〇三	四、四七二	一、三四八	二八二
バナナツプル	二二九	一	一	六、五四九
櫻實	三、五八七	一、三八九	九八	八
胡桃類	九〇六	五八〇	一	一〇二
其他	二、一五六	二、五四八	二、八七四	二、七四三
計	八七、二九三	七五、六六七	三一、六七七	三一、一三六
南オーストラリア	一〇、五〇七	一二、九三三	五七	一〇〇、六四七
西オーストラリア	五、〇六七	三、七七四	一	四七、四一六
聯邦首都地域	一、八五六	一、一〇〇	六	二七、一六九
合計				

第四四表 果實生産高表(一九三七—八年)

種	數量單位	數	量	金額(磅)
バナナ	打	二四六	一	二二、一三四
梨	箱	一、〇二九	五	二二、一五四
西洋李	箱	一、一〇七	一二	一四、七二七
杏	箱	六八四	六	一一、九六二
バナナツプル	箱	一	一	六、七八九
櫻實	箱	五六	三	六、一七四
胡桃類	箱	三五〇	三	四、四九九
其他	箱	六八六	六	一一、四五〇
計		二一、九七六	九八	二七七、一一一
林檎	ブツセル	一〇、九五八、八六八		二、八二六、四五一
柑類	同	五、一〇六、〇六一		一、七一七、二七〇
バナナ	同	二、六三〇、六二四		一、四五五、三五五
桃	同	二、七三六、二八七		七九五、四五八
梨	同	二、五九五、九五四		六七五、八八七
杏	同	一、三三四、八三六		三七八、四六〇
西洋李	同	一、〇七七、〇八二		三三三、〇四一
バナナツプル	同	一、三六一、四九三		二七五、九〇二

濠洲の資源と植民問題

櫻	實	ブツセル	二二二、五二七	一九六
胡桃	類	封度	二、〇三七、六二五	一八二、七五六
其他				五七、九二七
計				五〇五、七六六
				九、二〇四、二七三

第四節 砂糖

砂糖は大部分蔗糖で甜菜糖は極少量である。甘蔗は主要農産物で、生産全額は九、〇〇〇、〇〇〇磅以上であつて、作付面積は三五八、〇〇〇エーカーを占め全耕地の一割六分に當る。

甘蔗は熱い地方にのみ産するので、クインズランドとニュー・サウス・ウェールズ兩州以外には産せず、しかも前者は全耕地の九割四分を占めてゐる。

第四五表 甘蔗作付面積(單位エーカー)

年 度	ニュー・サウス・ウェールズ	クインズランド	合 計
一九三七—八	一〇、七一六	一〇、一三七	二四五、一三一
一九二九—八	八、七三九	八、八五一	二二五、七〇九
三八年平均			八二、一六二
			二三四、四四八
			九一、〇一三
			三二五、四六一

第四六表 甘蔗、砂糖生産高表(單位噸)

年 度	ニュー・サウス・ウェールズ	クインズランド	合 計
一九三七—八	三六一、七二四	四七、〇七七	五、一三二、八八六
一九二九—八	二二二、四七三	二七、五一〇	四、三〇一、四〇〇
三八年平均			六〇一、〇四五
			四、五二三、八七三
			六二八、五五五

甜菜糖の産額は極めて微々たるもので、その栽培はヴィクトリア州に限られ、一九三七—八年に於いては作付面積四、〇四六エーカー、收穫高四八、五九四噸で、砂糖の産額は五、六二五噸に過ぎなかつた。

濠洲國內の砂糖消費高は一九三七—八年度に終る五ヶ年間平均三五六、四八三噸で、一人當り一一八封度、精糖として一一三封度であるから、日本の三三封度の約三倍半に當る。

嘗てニュー・サウス・ウェールズ州でも甜菜糖の生産が試みられたことがあるが、良結果が得られなかつたので、現在同州では甜菜は栽培されてゐない。

甘蔗は熱帯地域及び熱帯地域附近で最もよく生育するものであるから、世界の主産地はキューバ、ジャワ、ハワイ、ヒリッピン等である。しかし濠洲では熱帯地域の南にも廣大な甘蔗耕作地がある。また濠洲領のフィジー島では甘蔗が最も重要な作物である。良好な土地と充分な雨量を與へれば、廣範圍の温度が甘蔗栽培に可能であることが濠洲に於いて明かにされてゐる。即ちニュー・サウス・ウェールズ州のクラレンス河から北部濠洲のク

ツクタウンまでの廣範圍に亘つて製糖業が行はれてゐるが、この地域の一年平均温度は華氏六〇度乃至八〇度である。

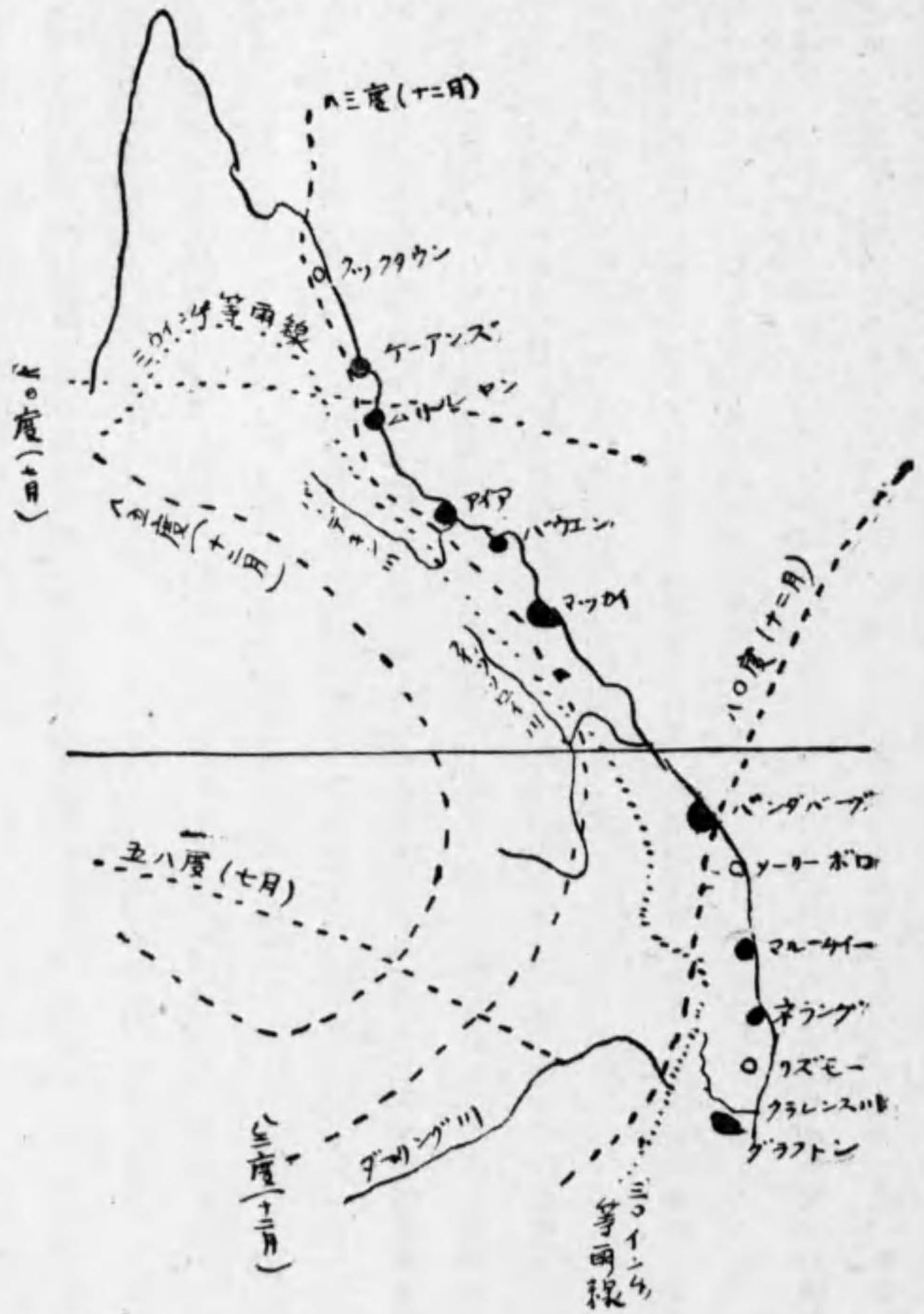
ニュー・サウス・ウェールズ州に於いては、甘蔗栽培は北部海岸の三郡（ラウス、クラレンス、リッチモンド）に限られ、グラフトンとリズモーがその中心地である。

一八九五年には同州の甘蔗作付面積は約三三、〇〇〇であつたが、その後牧畜業の増大、高賃銀、砂糖税の變更の原因で、作付面積は次第に減少し、一九二二年には一四、〇〇〇エーカーとなつた。しかしその後未開地の開墾で最近では第四五表で示した通り二〇、八五三エーカーに増加した。

同州では南洋諸島原住民カナカ人を非常に多數に使用したことはなく、製糖業に關する聯邦政府の法律が通過した一九〇一年に於いては有色人労働者の數は多くはなく、同年の國勢調査によれば印度人二三九名とカナカ人二九一名が甘蔗栽培地に働いてゐただけであつた。

しかし、濠洲における主要甘蔗栽培州は濠洲全生産高の九割三分強を占めるクインズランド州であるから、以下同州を基準として述べることにする。

クインズランド州に於ける主な製糖中心地はバンダバーグ、マツカイ、ケーアンズである。（第一四圖参照）クインズランド州全部の甘蔗作付面積は、一九二二―一三年には一四一、六五二エーカー、即ちニュー・サウス・ウェールズ州の作付面積の十倍であつたが、その後益々増加し、一九三七―三八年には三三七、三三四エーカー、即ちニュー・サウス・ウェールズ州の十六倍餘に達した。この作付面積は玉蜀黍の作付面積よりは多く、



第一四圖 砂糖地域

小麦作付面積より僅に少いだけである。しかも砂糖の価格は小麦の七倍である。

甘蔗栽培情況 濠洲では甘蔗は主として沿海地域の肥沃な河川盆地で栽培される。まづ密林を伐り拂ひ或は焼き拂つて、その開墾地に數個の芽を持った短い節を植えつけるのであるが、この芽は約一年半で立派な甘蔗に成長する。熱い北部地方では數年間植えかへることなく、これ等の甘蔗を切り取り、その後の切り株から新芽を出させるが、南部地方では三年乃至四年目毎に新しく植えなくてはならない。

バンダバーグ周辺のやうな乾燥した地域では灌漑の助をかりるのであつて、二〇呎内外の水分含有層に達する掘抜井戸によつて噴水させ、その水を耕作地中に配布するのである。

以前はカナカ人等の有色人労働者を使用して大耕作地組織で栽培してゐたが、この大耕作地は近年澤山の小耕作地に細分された。これは「白濠主義」の政策が實施されてから、低賃銀の有色人労働者を使用することを禁ぜられ、全部白人労働によらなければならなくなつたので、細分した各耕作地の作物をそのまま別々に工場主に賣り渡す方が大に利益であるからである。

甘蔗は工場渡しで一噸約一六シリングで賣買されてゐた。全部白人労働によつて栽培された甘蔗に對しては、政府は一噸につき四シリング乃至六シリングの奨励金を耕作主に下附してゐた。

現今濠洲には約五〇の製糖工場があるが、八〇工場あつた一八八一年におけるよりも多量の砂糖を生産してゐる。これは小工場が合同して大工場となつたからである。政府は小栽培者を補助するために、彼等の農園を抵當に低利資金を貸しつけ、各地方に中央合同製糖工場を設立させた。これ等の工場建設費は、小は一季節中に二、

〇〇〇噸の砂糖を製造することの出来る工場の二一、〇〇〇磅から、大は五、〇〇〇噸製造出来る工場の六〇、〇〇〇磅までであつた。

第一四圖で明かなる如く、五八度の冬季等温線が南部境界(グラフトン)を決定し、八三度の夏季等温線が海岸に作物を限定してゐるが、これは降雨が寒冷な高い海岸地帯と密接に關係があるからである。

製糖業の將來性 第一四圖を見ると、甘蔗栽培地は非常に離れて散在してゐる中心地の周圍に群集してゐることが明瞭である。これ等隔離してゐる地域間の土地には、地味及び雨量が既に耕作されてゐる地方と同じ條件下にあるながら労働問題のため未だ利用されてゐないところが多々あるのであるから、これ等の地方が利用されるに至つた時、製糖業の前途には大なる將來が横はつてゐる。

また北部地域とカーペンタリア灣沿岸には甘蔗栽培に適する廣大な地域が未開發のままに放置されてゐる。この地域と同量の降雨量(五〇インチ乃至七五インチ)と同温度(冬季七五度夏季八五度)を有するキューバは世界第四位の甘蔗栽培國である。もつと近いところにも製糖國ジャワがある。濠洲のこの地方が製糖地域とならない理由は毫もないのである。しかし經濟的に不健全な白濠主義の政策が修正されない限り、キューバ或はジャワと同じ面積の濠洲熱帯地域は遊んでゐるであらう。百萬人を直接に養ひ、それによつて興る工業によつて數千人の白人を間接に養ふことの出来る地域を濠洲人はかくの如く遊ばしてゐるのである。彼等の「強慾婆主義」「秣桶中の犬主義」もまた甚しいと云はざるを得ない。

製糖と有色人労働 一九〇一年誕生した濠洲聯邦政府の初代の首相エドマンド・パートンは保護政策を政綱と

し、第一議會に上呈された二議案はバートンが唱へる「白人濠洲」を實現させるためのものであつた。一は有色人種移民の禁止、一はクインズランド州の甘蔗栽培地からカナカ人を驅逐する目的のものであつた。

かくてバートン内閣は南洋諸島原住民に關する法律を通過させた。有色人労働者取引の大弊害は改善された州立法によつて大に緩和されてゐるが、その労働が文化の要求に基いて輸入されることが多ければ多い程、カナカ人労働の必要がクインズランド州の産業界に恒久性を占める危険が増大するので、聯邦政府は思ひ切つてそれを阻止する手段を講じた。これに對して甘蔗栽培業者たちは、甘蔗は黒人労働によつてのみ栽培され得るのだと主張し、黒人労働を使用しなければ製糖業は崩潰するとまで叫んだ。しかし政府は輸入砂糖に重い輸入税を課して濠洲市場を自國業者に獨占させ、且つまた白人労働のみによつて製糖業を經營する者には補助金を支給するなどの方法によつて彼等を擁護したので、製糖業崩潰の豫言は的中せず、却つて製糖業は繁榮し、甘蔗栽培地は増加して砂糖は増産を見るに至つた。しかしこれが砂糖消費者の痛手となつたことは勿論である。

このカナカ人送還政策はその當時猛烈な攻撃を受けたが、結局政府はその反對を押し切つてカナカ人を甘蔗栽培地から驅逐したのであつた。

第五節 製粉 醸造 紡績 織物 編物

製粉 製粉業も濠洲における重要産業の一である。小麦粉の原料たる小麦に就いては本章第二節に於いて既に述べた通りであるが、製粉業は小麦の主要生産州ニュー・サウス・ウェールズ州が首位で、ヴィクトリア州がこ

れに次いでゐる。この兩州は歴史的にも古く且つ現在に於いても最も盛んである。

第四七表 製粉工場數、従業員數及び生産額表（一九三七—三八年度）

州名	工場數	従業員數	生産額(單位磅)
ニュー・サウス・ウェールズ	五二	一、二〇五	六、三九六、六二九
ヴィクトリア	三八	一、一〇一	五、四〇九、六二九
西オーストラリア	二一	三八〇	一、六八六、四二四
南オーストラリア	三八	四四六	一、五三二、六三二
クインズランド	一〇	三三九	一、三〇三、六四八
タスマニア	九	一一七	三四〇、二六八
計	一六八	三、五九七	一六、六六八、七四九

第四八表 小麦粉生産高表(單位噸)

州名	一九三四—五年	一九三五—六年	一九三六—七年	一九三七—八年
ニュー・サウス・ウェールズ	五五五、七七九	五二三、二八一	四六四、四九八	四七六、八八一
ヴィクトリア	四三七、二六二	四三五、三四〇	四二〇、三六四	四二四、三〇二
西オーストラリア	一二四、一三〇	一一八、三四〇	一二二、七二三	一三五、四七二
南オーストラリア	一三六、七一六	一二四、〇二一	一一九、一九二	一二三、八七八

農業と農産品加工業

クインズランド	八六、二四六	八六、一四二	八二、四二三	八一、二四二
タスマニア	一九、二六〇	二〇、四九二	一九、五七九	一九、一五五
計	一、三五八、七八七	一、三〇七、六一六	一、二二八、七七八	一、二五〇、九三〇

第四九表 小麥粉年平均生産、國內消費及び輸出高表（一九三二—三七年間ノ一ケ年平均）

全生産高	國內消費高	工場手持高	輸出高	同比率
一、二九〇、〇〇〇	六七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六一〇、〇〇〇	四七・〇

醸造業 醸造業では麥酒が首位を占めてゐる。濠洲人が最も多く飲むのは麥酒であつて、濠洲で醸造された麥酒は國內の需要を充たし、なほ海外へも輸出されてゐる。

葡萄酒も近年漸く生産高を増して來た。極少量ではあるが海外へも輸出してゐる。右の外、ウイスキー、ラム、ブランデーも生産するがその量は極少量で、これ等は皆輸入されてゐる。

第五〇表 麥酒及び葡萄酒醸造高表

州名	麥酒工場數	麥酒生産高(磅)	葡萄酒(エーカー)	葡萄酒生産高(ガロン)
ニュー・サウス・ウェールズ	六	三、三一、五一二	一六、五四二	二、九四四、四九四
ヴィクトリア	九	二、八九一、六〇四	四一、八九五	一、八一八、九一七
クインズランド	六	八〇六、〇四一	二、五〇一	二九、一二一
南オーストラリア	六	五二七、一三七	五六、一二二	一五、〇二六、五〇二

西オーストラリア	六	七七四、一〇六	六、一〇五	三四八、九六〇
タスマニア	四	二一六、〇七〇	—	—
計	三七	八、五二六、四七〇	一二三、一六五	二〇、一六七、九九四

紡績織物編物工業 紡績、織物及び編物工業はいづれも幼稚である。

一九三八年度の棉花國內生産高は九、六五四俵で、消費高は三〇、〇〇〇俵であるから、不足分は海外から輸入したのである。

北部濠洲には棉花栽培に好適な廣大な地域がありながら、労働賃銀其他の労働問題のために未開發のままの状態であることは甘蔗の場合に於けると同様である。しかし棉花は國防上重要物資であるので、今次大戦勃發以來その栽培に一層の努力が拂はれ、最近では國內生産高が三〇、〇〇〇俵に達したと云はれてゐるが、一方海外よりの輸入も激減してゐるから、紡績も舊態の域を餘り脱してゐないと見るのが至當であつて、綿糸は綿布、絹布と共に依然として他國に依存せざるべからざる状態にあり、紡績工業、織物工業共に將來の發展を待つより外に途はない。

ただ莫大小編物工業だけは比較的發達してゐる工業の一で、その生産は國內の需要を十分に充してゐる。これは羊毛の生産高が莫大なお蔭である。

一九三七—三八年度の統計によると莫大小製造工場數は三〇六あつて、ヴィクトリア州が斷然他州を抜いて首位にある。同州の工場數は二一六、即ち濠洲の總工場數の七割を占め、生産高は五、六五〇、〇〇〇磅で、全濠

洲の總生産高八、五三〇、〇〇〇磅の六割六分に當る。

この工業に使用された原料は一九三七—三八年度に於いては左の通りであつた。

綿絲	六、二二〇、六四二封度
羊毛	五、八四九、一二四同
人絹絲	五、五八二、二七六同
生絲	一、六八八、三六六同

右のうち自給出来るものは羊毛だけで、綿絲は一部だけ國內で生産されるが生絲は殆んど全部日本から輸入され、人絹絲も英本國、オランダ、イタリー、日本等から輸入されてゐたのであるから、海外よりの原料輸入の途を絶たれた今日においては、多くは羊毛を原料とするもののみが行はれてゐることであらう。

第六章 鑛業と重工業

第一節 鑛業概説

鑛産物も濠洲の資源 鑛業は今日では原始産業中の牧畜業、牧畜業、農業に次いで第三位にあつて以前ほど盛大ではないが、濠洲を急激に發展させたものは金の發見であり、その他の鑛物と共にまだこの廣大な未踏の地域内に埋藏されてゐるものが多量にあるに相違ないから、現在及び將來において濠洲の資源の重要部分を占めるも

のと見るのが至當であらう。ただ現在までは人口の過少と高賃銀のため充分な發達を遂げてゐないのである。濠洲が大東亞共榮圏内に入り、右二つの理由が消滅した暁には、驚異的飛躍を見ることは疑ふ餘地がない。

濠洲の鑛業を充分詳細に述べんとすれば、金屬鑛業の一般を述べるだけでも一章を費してもなほ足りりとしなから、最初に典型的のものだけを選んでその地質學的及び經濟學的環境についての必須要素を簡單に述べ、次に各鑛物について述べることにする。

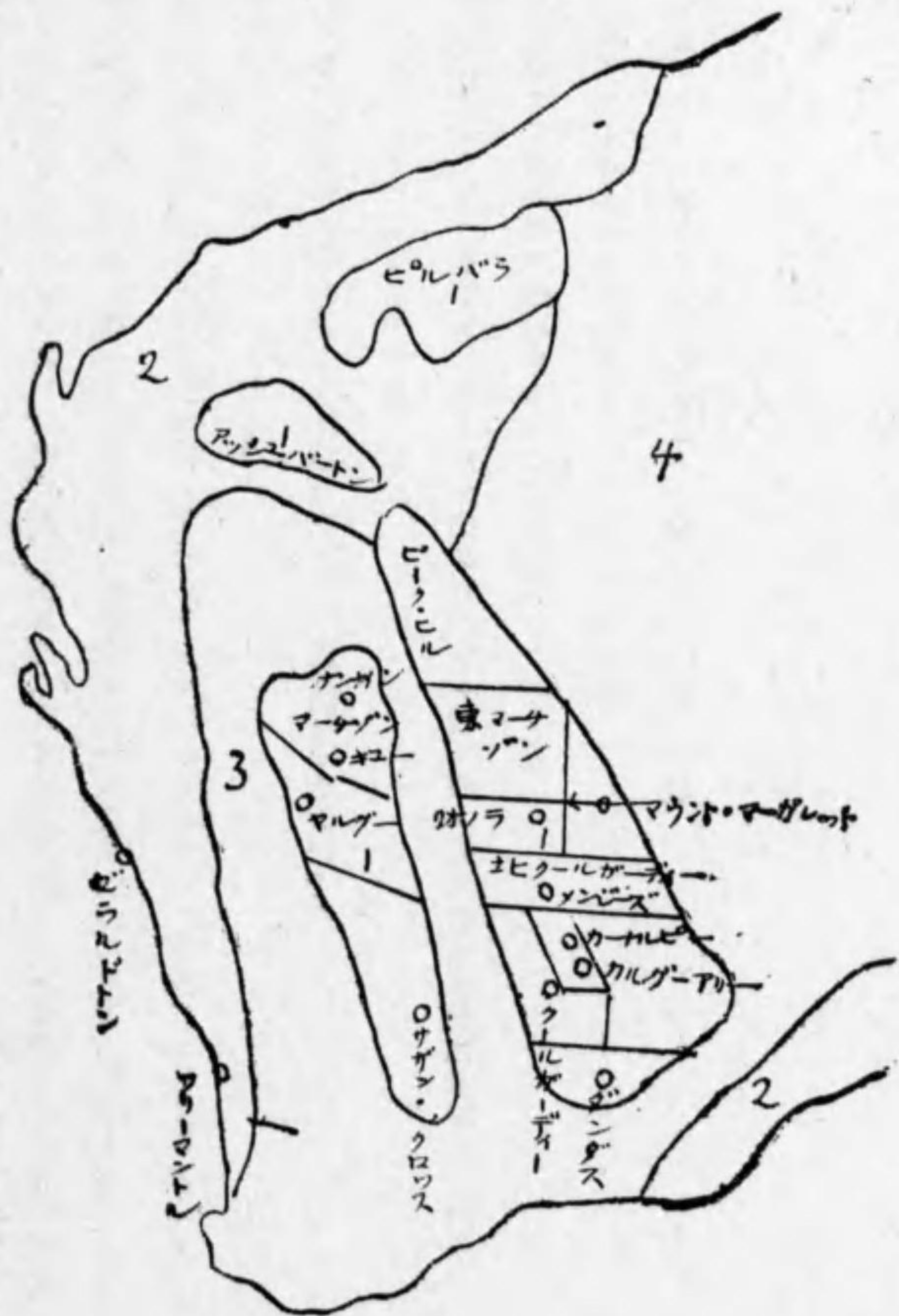
濠洲に於ける典型的の金屬鑛業地域は左の五つに大別してよいであらう。

- (一) 西オーストラリア州金山地域
- (二) ニュー・サウス・ウェールズ州ブロークンヒル銀・鉛・亞鉛・鑛山地域
- (三) ヴイクトリア州バララット金山地域
- (四) ヴイクトリア州ボセイドン沖積層金山地域
- (五) ニュー・サウス・ウェールズ州コウパー銅山地域

第一節 西オーストラリア州金山地域

西オーストラリア州の地質調査會の調査によると、同州は極めて大部分非常に古い岩石（多分太古代のもの）から成つてゐる。岩石が非常に古いので化石は餘り含まれてをらず、よし含まれてゐても認識出来ないほど變化してゐる。花崗岩と片磨岩類岩の大地域もある。この原始時代の「斷層塊」はその西北と南をその後の堆積物に

よつて縁取られてゐるが、この堆積物はその化石から判断して確に「斷層塊」よりは新しいものであるから、



第一五圖 西オーストラリア州含金地帯
 1 含金地帯 2 古生代沈積層等
 3 片麻岩層及び花崗岩層

太古代後のものと云つてよからう。

この非常に古い一聯の岩層を超えたとほぼ北北西から南南東へ走つてゐる可なり區劃の明瞭な二地帯がある。これ等の一部は角閃片岩のやうな黒色の薄片岩から成つてゐる。もつと東の地帯はクールガーディー平野を含み北の方ナラギンのビルバラ平野まで及んでゐる。(第一五圖参照)
 約二〇マイルの幅のある西部地帯はサザン・クロッスからキューまで及んでをり、多分もつと北の海岸の方へまで達してゐることであらう。

これ等の二地帯には多數の含金岩礁があるが、西部は區劃が不明瞭である。リオーラ金山に就ての公報によれば二つの主なる岩石型がある。一つは花崗岩斑岩で多量の比率の珪土を含み種々の變化した生産物となつてゐるが、普通には含金岩とは見えない。も一つは閃絲岩で、その中に主な合金岩礁が見出される絲岩片岩が含まれてゐる。

西オーストラリア州の岩礁の多くでは金は稍々異例な形で見出される。そもそも金は殆んど純粹か或は銀と混つて見出されるのが普通であるが、西オーストラリアでは砒石と硫黄と類似のテルリウムと混つて見出される。カルゲーアリーの鑛脈は殆んど垂直の帶狀層となつた一連の片岩から成つてゐて、これ等の堆積物は普通扁豆状をなし、往々非常に長く、或ものは半マイル以上に達してゐる。概して鑛物含有層ははつきりと區劃のついた壁は持たないで、極めて徐々に周圍の岩石中へ入り込んでゐるやうである。鑛脈はあらゆる方向に分岐してゐる網の目のやうな石英によつて透入されてゐることが往々あつて、岩石が嘗て非常な動力を受けたことのある事實

を證明する證據が澤山ある。この動力を受けた結果、岩石に薄弱な線を生じ、その線に沿うて鑛物を含有する液體が比較的容易に通路を見出したのである。

鑛物體の幅は所々で八〇呎に達し、金はテルル化物のやうにまた含金磁黄鐵鑛のやうに游離して出る。この游離して出る金はそれがテルリウムをもつてゐる鑛物の酸化から引き出されたことを示すやうな性質を呈してゐる。

しかし最初に發見されたのは堆積物であつて、この地方は沖積平野として取扱はれた。

一八九二年、ベリー及びフォードの兩人はサザン・クロッス（一八八八年發見さる）から東に向つて調査旅行に出掛けクルガーデイーに達した。ここでフォードが半オンスほどの金塊を拾ひ上げ、その日の中に兩人で二〇オンス以上の金を發見した。數週間後の或日彼等は有名な鑛脈を發見し、同夕刻にはその鑛脈の頂から五〇〇オンス以上の金を採取したとの記録が残つてゐる。

カルグーアリーは一八九三年六月にフラニガンとハンナンの兩人によつて發見され、忽ちにしてその界限で多量の沖積金が採取され



第十六圖 西オーストラリア州リオーラ金山断面圖
1 近代層 2 閃綠岩 3 花崗岩
4 綠岩、片岩等

澤山の豊富な鑛脈が發見された。一八九五年一月にはカルグーアリー界限では二、五〇〇名の採金者が「乾燥吹き分け」（通風によつて金と砂とを分ける方法）によつて採金に従事してゐた。

採金熱が盛んであつた期間、即ち最初の發見された年から一九〇四年までの採金額は左表の通りである。

第五一表 西オーストラリア州に於ける主要金山よりの採金額表（一九〇四年まで、單位オンス）

東クルーガデーイー C	五、八四六、九四九	東マーチゾン	四四〇、八二九
東マーチゾン	一、〇六七、四七三	ダンダス C	二五七、三六七
マウント・マーガレット C	九一六、七四五	イルガロン	二四一、八九六
北クルーガデーイー C	九一三、六九四	ブロード・アロウ C	二三六、二六七
クルーガデーイー C	七二四、二五六	ビクタ・ヒル	一八八、八四六
東北クルーガデーイー C	五九七、一二二	ビルバラ	一一九、三八三

（註）Cはクルーガデーイー地帯

即ち西オーストラリア州の全産額は一一、五五〇、八二七オンスで、價額約五〇、〇〇〇、〇〇〇磅であつて、その殆んど全部が一八九二年以後に採取されたものであつた。なほ一九一一年に於ける主なる金山は東クルーガデーイー（採金額七七六、四九三オンス）、東マーチゾン（採金額一〇二、三九一オンス）、マウント・マーガレット（採金額一五二、四七四オンス）、マーチゾン（採金額一一九、六五三オンス）であつた。

第二節 ブロークン・ヒル銀、鉛、亜鉛鑛山地域

この有名な鑛山はニュー・サウス・ウェールズ州内にあるのであるが、總ての交通は南オーストラリア州を通じて行はれてゐる。南オーストラリア州のスペンサー灣からは僅に約二〇〇マイルしか距れてゐないのに、ニュー・サウス・ウェールズ州の首都シドニーからは五〇〇マイル以上の距離があり、しかもこの五〇〇マイルの間の大部分は乾燥した荒蕪地帯で交通に頗る不便なのである。

この鑛業地は一八八三年に初めて標杭を建てられ、その當時は鑛業株は一〇〇磅以下の相場であつたが、六年後には二、五〇〇、〇〇〇磅に暴騰した。この事實をみれば、この鑛山がいかに豊富な鑛物を藏してゐるかは頗る明瞭である。

この地方の岩石は高度に變化した石板と片麻岩とからなつてゐて、これは近年フリンダーズ山脈のカンブリア系岩石と同類のものと認定された。鑛脈そのものはマンガン含有岩(崩壊岩)の山嶺として立つてゐる。それは地層の振曲によつて構成された鞍狀孔を占め、その露出鑛脈はその長さの約一哩半ばかりの間、その山嶺の最高部分を構成してゐる。鑛脈は頂上から下方及び外方へと分岐してゐる二本の脚をもつた鞍狀鑛脈の如き状態を呈してゐる。しかしグレゴリー教授は一定の鞍狀鑛脈説には疑義を挟み、それを寧ろ各種の分裂脈と見てゐる。

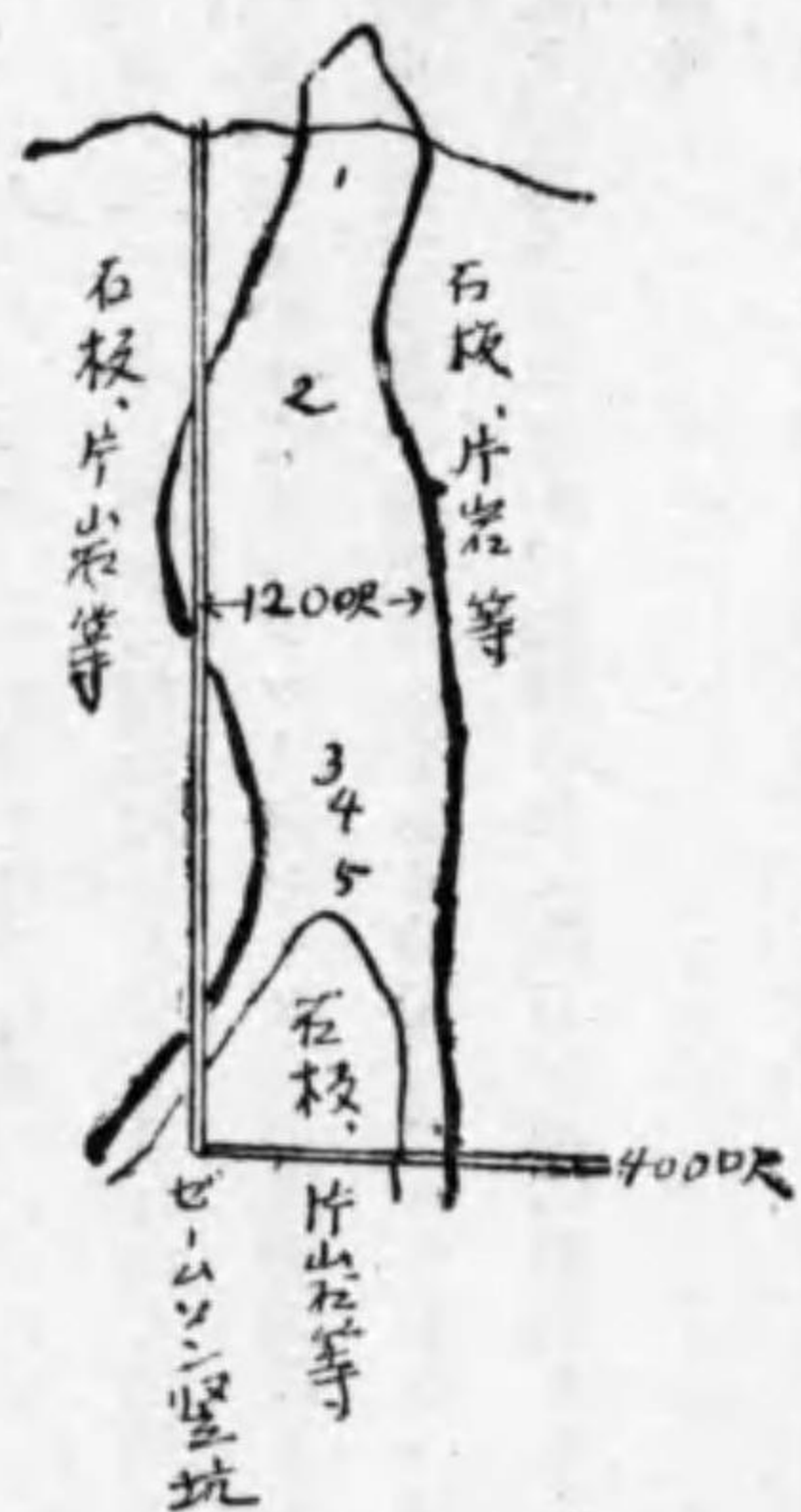
勿論「鞍狀鑛脈説」の重要性は、下部地層に於ける同時發生の褶曲によつて同様な地層が金屬含有體を構成したかも知れない下部水平面にも同様な堆積物が存在する可能性にある。かくの如き頻發はヴィクトリア州のベン

ティゴ金鑛脈に於いて既に證明済みである。ベンティゴ金山では褶曲の頂上に位する鑛物の豊富な「頭部」が一つ一つ重なりあつて、よく確定した水平面に横はつてゐる。しかしブロークン・ヒル鞍は決してヴィクトリア州の鞍狀鑛脈のやうに決定してゐないかも知れない。

ブロークン・ヒル鑛山は表面に豊富な鑛石體のある好個の例であつて、深處に行くに従つて價值が増加するところが多いといふ鑛業家の信念を裏切るものである。

一八八三年に初めて鑛物發掘が始められた時には錫を採取するのが目的であつた。しかるに間もなく、これ等の土地が「鹽化銀」の小塊を含み、五割五分の銀を産出することが發見された。上部水平面の鑛石は主として陶土(高嶺土)その他珪土質のものと一緒に白鉛含有鑛から成り、一噸につき五オンス乃至三〇〇オンスの銀を産

出する。



第一七圖 ブロークン・ヒル 鑛山断面圖

- 1 崩壊岩石
- 2 銀
- 3 鉛
- 4 亜鉛
- 5 硫化物

この地帯では空氣酸化と溶解による少價値物質とで起る鑛石體の變化のために、金屬が一層集中されて下部水平面に於けるよりも一層容易に採取される。「酸化地帯」下の鑛石體は榴柘石含有の珪土含有土石、即ち「脈石」をもつた鉛と亜鉛の硫化

物よりなることが発見された。ここでは鑛石の質が變つてゐて、亞鉛が二八の比率に達し他の如何なる成分よりも比率が高い。今や豊富な鑛石は取りつくされたも同然の状態となり、銀の採取も利益が少なくなつたので、有利な亞鉛採取といふことがブローケン・ヒルの重要問題となつてゐる。

閃亞鉛鑛は多量の鐵を含んでゐるので、ウェザーリル分離器で電磁石によつて亞鉛を採取することが可能であることが発見されたが、細碎された鑛石が油に附着することによつて分離される「浮泛法」が現在では採用されてゐる。

ブローク・ヒル鑛山は錫鑛山として出發し、次いで銀鑛山となり、次に鉛鑛山となり、現在は亞鉛鑛山になつてゐると云つても過言ではあるまい。

ブローケン・ヒルの人口は一九一一年には約三一、〇〇〇名に達し、約二〇年間に於ける鑛物の總生産額は約三八、〇〇〇、〇〇〇磅の巨額に上つた。

ブローケン・ヒルは年雨量僅に七・九インチの不毛地帯であるから農業は不可能である。この地方の一部では牧畜が行はれてゐるが、その地域は常に乾燥した状態にあるので、政府の報告によると「大羊群を飼育せざる限り牧羊で利益を擧げることとは不可能であり、西部の牧羊家は不時の用に備へて減債資金を充分に用意して置く必要がある。」従つて牧羊業は數人の大牧羊家の經營に限られてゐる。

しかし南オーストラリア政府は鑛山の重要性を認め、急速に鐵道を延長して斯業に關聯した凡ての産業を手中に収めた。約二三〇哩の鐵道は鑛石と天然のままの金屬をポート・ビリーへ運んでゐる。

ブローケン・ヒルからウイルクニアを経由し、大部分平坦な西部平野を横切つて三〇〇マイルの距離をコウバ―まで鐵道が敷設されてブローケン・ヒルとシドニーを結ぶことになれば、シドニーからメルボルン經由してアデレードへの約四〇時間の現在の旅程とは競争出來ないまでも、シドニーからアデレードへの新直通線が出來、土地開發に貢献するところが大であらう。

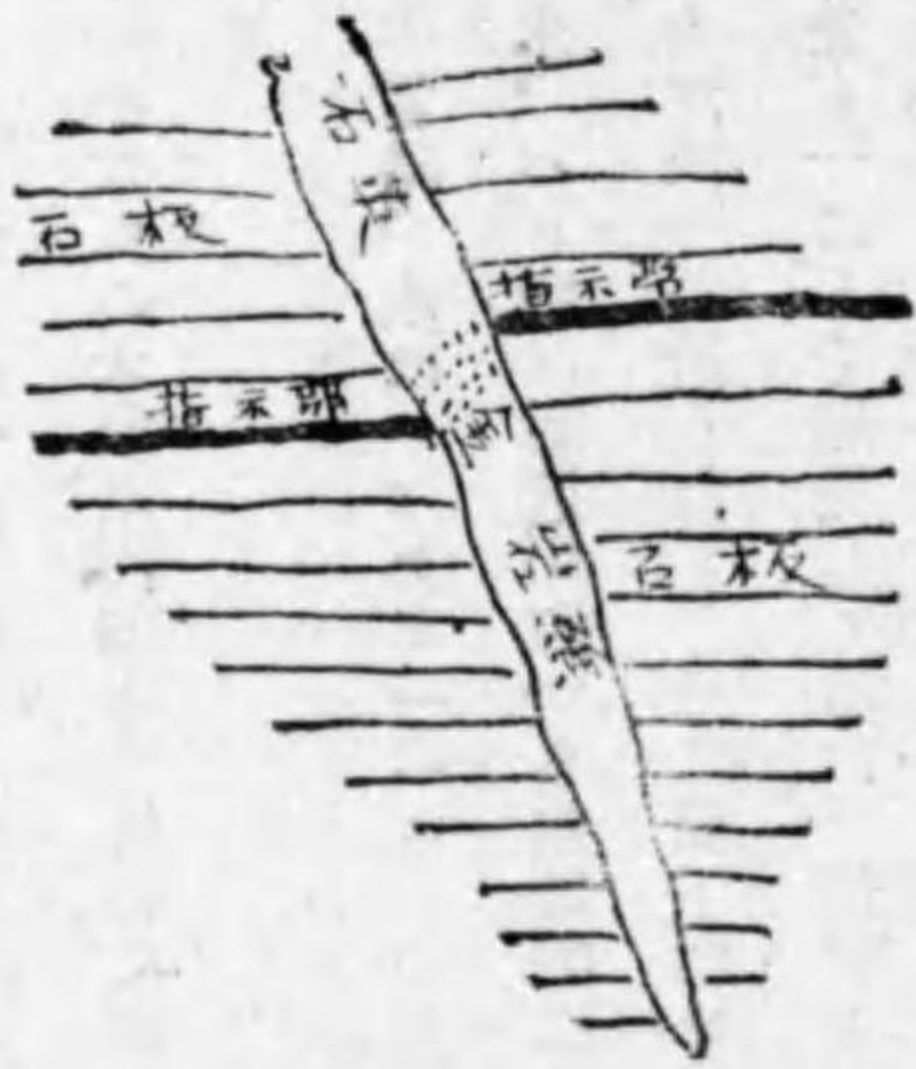
第三節 バララット金山地域

グイクトリア州に於ける非常に興味ある金山がバララットとベンデイゴの二つの都邑を圍んでゐる。それ等の金山の現在に於ける經濟的重要性を別として、これ等の地域が、濠洲へ最初に眞の移民をもたらした一八五〇年代の黃金熱の中心地であつたといふ點が頗るわれわれの注意を惹くのである。

この地方はシルリア系石板からなつてゐて、樹木がまばらに生えてゐる起伏高地である。これ等の石板は非常に褶曲し且つ陥落し、谷間に於いては風化して生じた沖積粘土で覆はれてゐる。これ等の石板中に多數の石英脈が滲透してゐるが、それ等は疑ひもなく冷却した地下水に珪土が堆積して出來たものである。これ等の脈は金を含んでをり、またその金の一部が磨り取られて岩の表面の窩ボウツトに粘土と共に堆積してゐる。従つてこの地帯では金は二つの状態で産出される。石板岩の層中に突入してゐる多量の石英脈中に包含されて、鑛脈内の堅坑が穿たれてゐるところまでの總ての深度に於いて見出されるものと、母岩即ち石英「脈石」から洗ひ出されてもつと淺い堆積物の中にある沖積金が即ちそれである。

バララットの「指示」鑛脈は鑛脈金の一好例である。同時にボセイドンの採金は沖積層作業についての觀念を與へる。バララットは法外に好運な鑛山市である。同市は英國の中央部平野と同量の二七インチの雨量を有し、一、四〇〇呎の高處にあつて非常に健康地であり、しかもこの地方は農業にも適して馬鈴薯、大麥、燕麥等の農産物を豊富に生産するので、鑛山都市としては最上のものである。しかし何と云つても金が最も重要な産物で、既に一〇〇、〇〇〇、〇〇〇磅以上の金が採取されてゐる。

現今では最大の金塊の多くが発見された沖積金山地は餘り重要ではなくなり、金の大部分は鑛脈から採取されてゐる。堅坑のうちには二、〇〇〇呎の深さのものもあつて、石英鑛脈の出口をつくるために所々に横坑道が掘られてゐる。大多數の金山に於ける一つの特性は「指示」の存在である。最も重要なものは石板と入り亂れて僅に八分の一インチの厚さの幾分か黄鐵鑛を含むことが屢々ある炭素含有頁岩の帯である。石板が多少垂直状になつてゐるのは地層が非常に褶曲されたからによるのであつて、石英鑛脈は多くの場合多少石板を直角に切る水平板を構成してゐる。これは火山岩脈と結合してゐて、屢々「革上^レ衣^ト」と呼ばれてゐる革状の粘土層で結着されてゐる。石英鑛脈が指示物によつて交叉されてゐるところに貴重な「窩」と「寶庫」とがあるのである。ここでは石英は極めて豊富で、金が表面できらきら光つてゐるのが直ぐに見られる。しかもこの現象は普通の金山では決して見られない光景である。石板に於ける黒い層（指示物）は長い距離の間その跡を辿るので、坑夫に對して重要な案内者の役をつとめてゐる。これ等の指示物が澤山あるので、バララットの採金業は一般の金坑山に於ける場合よりも確實性があり、冒險的事業たることを少くしてゐるのである。



第一八圖 バララット金山断面圖

金の存在は、一部は金を運ぶ溶液に「指示」帯が眞逆様に降下する作用によるもので、この溶液が現在石英鑛脈によつて占められてゐる龜裂に沿うて滲透したのである。金は多くの金屬や金屬含有物のみならず炭素含有物の上にも溶液から堆積することが實驗によつて示されたが、これは種々の金抽出法に利益ある事實である。

第一八圖は、石板が龜裂を生じて一方に置き換へられた斷層を石英脈が占めてゐることを示すものである。含金液が脆弱な古い線に沿うて流れることは自然であるから、これは非常に普通に起る現象である。

第四節 ボセイドン沖積層金山地域

ボセイドンはベンデイゴの西二〇マイルのロドン河附近に位してゐる。採金熱に浮かされた人々が蟻の甘きに集まる如く、この地方に押しかけた一八五〇年代の所謂「殺到」時代には、この地方で一個三、〇〇〇磅以上の價值ある大金塊が數個得られたことがあるが、現今ではそんな発見は決して普通ではない。

ここへ最初に行つた幸運な採金者は附近の町村から來た農夫であつた。採金作業が實際に行はれた舞臺は草のまばらに生えてゐた牧場であつた。採金者はそこに生えてゐた貧弱なユーカリ樹の下に天幕を張つて寢食し、そ

の界限を探し廻つた。

一九〇六年頃、一調査家は鑛脈に平行したコースに沿うて地錐穴を掘り、終に元來嶺を排水してゐた地下岩石水道を發見し、そこに願下地の杭を打つて表面から一、二呎の固い赤粘土中から數千磅の價値ある金を掘り出した。これを耳にした人々は直ちに彼の借有地に出来るだけ近く願下地を得て採金に従事した。偶々地下水道即ち古河床の線に掘り當てたものは立派にその勞力と費用に酬られたが、一呎離れたところを掘つた者は殆んど何物をも得なかつた。

「古河床」は半マイル以内のところ急に六〇呎の深さになつて、そこでは金は餘程小さな塊となりしかも多くは産出されなかつた。粘土を注意深く掘り、車に積んでロンドン河まで一哩或はそれ以上運んで行き、そこで寧ろ原始的な丸い木製攪拌器中で洗つて採金した。粘土は次第に河に流れ去り金だけが攪拌器の底に残る方法であつた。

その當時、水は一バケツ一ペニーの高價であつたが、食料品及び日用品は二軒の店から普通の値段で買ふことが出来、バン屋は附近の町から規則的にこの採金地を訪れた。

「古河床」に沿つたところに願下地を持つてゐる者は富を作ることが出来たが、その他の多くのものは「ゆつくり急ぐ」ことで満足してゐた。代表者が願下地にをることを法律で定められた時、これ等の不運な採金者達は役人の見廻り時間の午前十一時から正午までの間、自己の願下地に番人を置いて土地を取り上げられることを防いだ。

第五節 コウバー銅山地域

ブローケン・ヒルの貴重な銀、鉛、亞鉛鑛の發見がニュー・サウス・ウェールズ州の極西部に利益ある居住地を開かしむるに至つたと全く同じやうに、コウバーに於ける銅の出現は、同州の西部中央を開かすに大に與るところがあつた。

コウバーは（東部高地を構成する）古生代岩が、その側面を蔽ふてゐる後年の堆積物から出てゐるところに位してゐる。この地方は高地に類似してはゐるが、重要な山の一つもない比較的平坦な平野であるから高地の一部ではない。

雨量は一五インチ以下で地味は瘦せてゐるので、植物は主として孤立したユーカリ樹や矮小ゴム灌木ばかりである。この不毛な地域が濠洲に於ける最も重要な鑛業中心地の一つとなつたのは全く貴重な鑛物を包蔵してゐるからである。この地域にはコウバー、ナイマジヤーその他多數の銅山の外にマウント・ボビー（恐らくニュー・サウス・ウェールズ州で最も重要な金山であらう）のやうな多くの金山も近年開かれてかなり盛んに金が採取されてゐた。

シドニーから出てゐる鐵道の西部幹線はパークまで通じてゐるが、その途中のナインガンから分れてコウバー及びその附近へ行つてゐる支線は幹線以上に運輸を行つてゐる。

鑛鑪用の燃料を非常に多く要するので、周圍數マイルに亘つて大樹は皆伐り倒されたため、この地方は落草

たる光景を呈してゐる。しかしよい季節には小麦が耕作されることがある。著者はこの界限で草は一本も見なかつたが、小麦畑の青々とした光景を目にしたことを今も明瞭に思ひ出す。

この地方に銅が発見されるに至つた端緒は一八六九年土着井戸に緑と青の斑點を見出したことに基因する。鐵道まで二五〇マイル以上馬車で鑛石を運ばなければならなかつたにも拘らず、株主に高率な配當がなされた事實から推測されるやうに、非常に豊富な鑛石が発掘されたのである。

數千噸の鑛石がバークまで馬車で送られ、そこから汽船でダーリング・マレー河を下つてアデレードまで運ばれてゐる。それで最初コウバーはブローケン・ヒル同様に商業的には同じ州の首府シドニーよりも他州の首府アデレードに近かつた。しかし現在ではシドニーからの鐵道がコウバーの少し先まで開通してゐる。コウバー鑛鑛會社はコウバーから三五〇マイル距つたシドニー附近のリスゴウに精鍊所をもつてゐるので、西部幹線ではコウバーからの運輸が非常に盛んになつてゐる。

コウバー銅山でも他の銅山やブローケン・ヒル鑛山に於けると等しく、鑛石存在の性質は深度によつて變つてゐる。鑛石體を包んでゐる壁は變化した石板(多分シルリア紀のものであらう)からなつてをり、深い水平面では露出部が指示してゐるよりも餘程廣くなつてゐる。上部は多少鐵を含んだ鑛土(脈石)を持つ白鉛含有銅からなつてゐて、それから二五〇呎下ると白鉛含有鑛石と酸化物が變化しない硫化物と混つてをり、六〇〇呎以上の一番下では、階段狀に掘鑿された鑛坑は黃銅鑛の固い塊中に掘られてゐる。これ等人工的洞穴の一つは長さ三七〇呎、高さ二五呎、幅六〇呎もあるが、材木等で支持しなくても比較的安全である。支柱がなくても鑛石その

ものが支持してゐるのである。

第六節 金

各州繁榮の基礎をなせし産金業 濠洲は世界産金國の一つに數へられ、金が濠洲の一大資源であつた時代があつた。一八五一年以來金の産出は頗る多額に上つて鑛産物の首位を占め、移民の大多數を採金に吸収したために他の産業は悉く等閑視せられ、殊に農業は殆んど價值なしと考へられた時期がある。

金は各州で發見せられ、最初の發見の日から一九〇五年までに四六〇、〇〇〇、〇〇〇磅を産出した。各州の現代の繁榮はひとへに金發見のお蔭である。一九〇五年の産額は一、九八三、〇〇〇オンス、価格は約一六、〇〇〇、〇〇〇磅で、世界全産額の四分の一に上つた。産額が頂點に達して文字通り黄金時代を現出したのは一九〇一年から一九一〇年に至る十年間で、平均年産額は約三、三四三、〇〇〇オンスで、當時實際に採金に従事してゐる者だけでも五八、〇〇〇人、その他取引、運輸等に従事した者の數を加へたら遙かに大きな數になる。しかしこの「黄金熱」も漸次冷却し、一九一〇年頃を頂點としてその後は産額も急激に減少し、一九二九年には僅か四二七、〇〇〇オンス産出しただけであつた。その後また金の價格が騰貴したので收支償はないため閉鎖してあつた金山が再開され、一九三七年には年産額一、三八一、一三五オンスに上つたが、現在ではその大部分は取り盡されて、世界總産額の四分にも足らず、産業としての重要性では石炭、鉛、銅、錫の次に位する程度である。濠洲の金は十九世紀末には花崗岩地帯に發見されたものが多かつたが、現今では深所の石英炭層から採取して

る。またニュー・サウス・ウェールズ州あたりでは沖積層や河川から砂金を採集してゐる。

第五二表 各州金産産 表(単位オンス)

州名	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
西オーストラリア	六三七、二〇七	六五一、三三八	六四九、〇四四	八四六、二〇八	一、〇〇〇、六四七
ヴィクトリア	五八、一八三	七〇、一九六	八七、六〇九	一一七、五九六	一四五、七九九
ニュー・サウス・ウェールズ	二九、二五二	三六、一二三	五〇、一〇二	六〇、七三九	六八、六〇七
クイーンズランド	九一、九九七	一一五、四七一	一〇二、九九〇	一一一、一七四	一二七、二八一
タスマニア	六、六七三	五、六二二	八、三四三	一七、六〇〇	二〇、二七六
南オーストラリア	六、三六一	六、八七〇	七、三三三	七、六八一	六、九六二
北部地域	六五四	一、八七〇	五、〇六六	一一、九九八	一一、五六三
計	八三〇、三六七	八八七、四九〇	九一〇、四九二	一、一八三、九九六	一、三八一、一三五

第五三表 世界主要國金産出高表(一九二八―三七年の十ヶ年平均、単位オンス)

南阿聯邦	一〇、九二五、七六〇	北米	二、八七〇、九七六	濠洲	七八五、四二四
ソ聯	二、八八三、八六二	カナダ	二、六七六、四三四	日本	五二七、九八二

著名な金山 ヴィクトリア州の首都メルボルンの西南に歴史的に有名な金山が二つある。バララット金山とベ

ンデイゴ金山が即ちそれである。この附近は前にも述べた通り、シルリア紀の石板岩より成る樹木の少い丘陵が起伏してをり、谷間では風化して生じた沖積層の粘土で覆はれてゐる。

西オーストラリア州に於いて現在金山として活動を續けてゐるのは東カルグーアリー、東マーチゾン、マウン・ト・マーガレット及びマーチゾン金山等が主たるものであるが、これ等とても昔の俵はなく漸次産額が減少してゐる。

第七節 金の發見と濠洲の發展

金發見の歴史 濠洲は植民地開設後も、その位置の關係上から久しい間世界の視聽外に置かれてゐたが、金の發見されるに及んであの有名な最初の移民殺到が始まり、この植民地に對する興味は油然として各方面に湧き上つた。

一八五一年は實に濠洲の歴史的轉換期であつた。その年に金が發見されるや、一攫千金を夢見て世界各國から殺倒する移民の數は實に従前の入國者の數を遙かに凌駕した。夢やロマンスの頁にのみ見た多額の金が一時に發見されたので、黄金熱に浮かされた人々を満載した船は遠くヨーロッパやアメリカからも續々と濠洲へ殺倒したのである。

濠洲に金のあることはずつと以前から知られてゐた。植民の極めて初期から各所で金が發見されたといふ噂が時々あつた。一八二三年には一測量技師がバサースト附近のフィッシュ河で偶然金を發見し、一八三九年にはボー

ランドの科學者がジプスランドへ行く途中で金の微粒を發見し、一八四〇年一人の老羊飼はウエリントン盆地附近で少量の金を得、一八四八年にはスミスといふ男がブルー山脈の西部で金を發見した。

一八四九年多數の濠洲人が米國のカリフォルニアに金探しに出掛けたが、その中にニュー・サウス・ウェールズ州バサースト附近生れのハーグリーヴズといふ男がゐた。彼はカリフォルニア最良の金山地方がバサースト附近に酷似してゐることにふと氣がついて濠洲に舞ひ戻り、金探しに没頭して一八五一年二月バサーストから程遠からぬルイス・ボンズとサマーヒル・クリークで尋ねる金にめぐり會つた。彼は政府から一〇、〇〇〇磅を貰つてこの金の所在地を政府に告げた。一八五一年五月にはサマーヒル・クリークには四百名の採金夫がゐるが、その數は間もなく數千名に増加した。これが一八四八年及び一八四九年のカリフォルニアへの殺到に匹敵する程の殺到を濠洲にもたらした端緒である。

黄金植民地ヴィクトリア ニュー・サウス・ウェールズ州に於ける黄金熱はやがてヴィクトリア州へも蔓延しつつ一八五一年八月メルボルン附近のアンダースンス・クリークや、メルボルンから二十五哩のブレンティその他の地方でも小發見があつた。しかし同年九月バニヨンとバララットで發見されたものは從來のものよりも非常に豊富なもので、このためヴィクトリアは一躍黄金植民地となつた。實際、バララットや、フォレスト・クリークや、アレグザンダー山や、ベンデイゴの金山に較べてはニュー・サウス・ウェールズ州の金山は影の薄いものであつた。

當時ヴィクトリア州に於ける金産額は實に莫大なもので、一八五二年には二、七三八、四八四オンス、一八五

三年には三、一五〇、〇二一オンスに達した。勿論これ以外に記録洩れのものも多量にあつたことは確かである。金の引力は實に恐ろしいもので、この黄金狂時代の最初の二、三年間濠洲各植民地に於ける社會上、産業上、商業上の混亂は言語に絶する程であつた。濠洲各植民地からは勿論遠くヨーロッパ、アメリカ、支那等からのヴィクトリアへの移民も激増し、メルボルンに殺到する數は毎週平均二千人に及び、金發見後一年間で同市の人口は二倍に増加した。こんな状態であつたので、一八五一年七月ヴィクトリアの植民地はニュー・サウス・ウェールズ州から分離して獨立州となつた。その後のヴィクトリア州の發展は驚異的のもので、一八五二年から一八五六年までの五年間に人口は四倍以上の三三六、九五七人に激増した。しかもこの植民地に入りこんだ二五〇、〇〇〇名は若い男子であつたのだ。

金發見が社會に及ぼした影響 有史以來、それ以前にもそれ以後にも、當時のヴィクトリア州の黄金景氣に匹敵するものはないのである。一八五一年から一八六〇年に至る十年間の産額は二二、九三一、七一八オンスの多額に上つた。バララットでは十人の坑夫が僅か二日間で一〇、〇〇〇磅の價格の金を得たこともあつた。鐵は錆び、世話するもののない羊は野原を徘徊し、海員は下船し、商人は店を閉ぢ、官吏も警官もその職を捨て、教師は教壇を飛び降り、牧師まで法衣を脱ぎ捨てて金探しに血眼になつた。當時メルボルン市中には警官はたつた三人しかゐなかつたといふ程で、遠い山奥で金塊を探し當て、それを持ち歸る途中で餓死した男が頻々とあつたといふ話も傳はつてゐる。

その反面には金探しに失敗して生活の資に窮する境遇に陥つた者も少くなく、金山地方の物價は暴騰して金を

探すよりも飲食物を賣る方が遙かに確實な利益を擧げるやうになり、飲料水の代價が金のそれに匹敵するといふ珍現象を呈したこともある。當時社會状態は實に混沌たるもので、殆んど無政府状態に近く無頼漢や強盜は到るところに出没した。ロルフ・ボールドウツドの「武裝強盜」"Robbery under Arms," by Rolf Boldrewood, (1888) は當時の状態を如實に描寫してゐる。

砂漠中の大金山 その後、濠洲の黄金熱は次第に冷却したが、一八九二年に西オーストラリア州の荒野に金が發見されるに及んで従來等閑視せられてゐた同州への殺到が再び始まり、世界に電撃を與へた。同州カルグーアリーでは、たつた一人で普通の斧を用ひて二、三時間に五〇〇オンスの金を採掘した者があり、數時間で二〇、〇〇〇磅の金持になつた者もあつた。

この金山のある西オーストラリア州西部高原地方は、見渡す限り山もなければ草木も見えず、水もなく、只鑛山師と坑夫の家のみが立ち列んでゐるだけで、實に荒涼たる姿を現出してゐる。嘗ては多量の金を出し、今も濠洲の金總産額の八割を産出してゐるのである。黄金熱が高潮に達した當時飲料水が金の價格ほどに暴騰したことはグイクトリア州に於けると同じであつた。

濠洲は今日までに夢やロマンスの頁に見たものに匹敵するほど多額の金を産出してゐるのであるから、一九〇三年の八、七七〇、七一九封度をレコードとして濠洲の産金額は年々衰退の一路を辿つてはゐるが、まだ積極的に開發されてゐるのではなく未踏査の地が廣いのであるから、今後とても従前以上の多額の金が産出されないと誰が斷言出來よう。

大沙漠といふ大海の中に發見された黄金島カルグーアリーは、將來無限の「金のなる木」を生長させるかも知れないし、未踏の中部及び北部濠洲に第二、第三の「バララット」「ベンデイゴ」「カルグーアリー」が發見されないとも限らない。

第八節 銀鉛 亞鉛 銅

銀 鉛及び亞鉛 銀は各州に於いて單獨或は他の鑛石中に發見されたが、最も多量に發見されたのは銀含有鉛鑛中であつて、銀、鉛及び亞鉛は互に關聯してゐる。

濠洲全土に於ける銀の總産額は一四、二九三、二三八オンス（一九三七年）であつて、世界總産額の約五分に當り、メキシコ、米國、カナダ、ベルギーに次いで世界第五位である。

亞鉛の總産額は九四、三三三噸で、世界總産額の約八分に當り、米國、ベルギー、ドイツに次いで第四位である。

主なる銀鑛はニュー・サウス・ウェールズ州にあつて、他の州のものはこれに比較すると取るに足りない。ニュー・サウス・ウェールズ州の銀鑛は非常に價值のあるもので、一八八三年に發見されたブローケン・ヒル鑛區は二、五〇〇平方哩に亘り、世界主要銀鑛の一つとまで發達した。この鑛區はニュー・サウス・ウェールズ州の西部、南オーストラリア州との境界線に近いところにあつて、鉛、亞鉛と共に多量に銀を産出する。

首都シドニーからこの地方に達するには無住の砂漠地帯約五〇〇哩を横切らねばならぬが、南オーストラリア

州の首都アデレードとは僅々二〇〇マイル足らずの鐵路によつて連絡してゐて、交通はすべてこの鐵道によつてなされてゐることは既に述べた通りである。

雨の少い奥地の大陸的な氣候の中に、不毛の地に圍まれながら三萬餘の市民は豊富な鑛脈を擁して孜々として働いてゐる。しかし時々勞働爭議のあることは有名である。このブローケン・ヒル鑛脈は從來發見された中では世界最大のもので、幅は場所によつて違ふが、一〇呎から二〇〇呎まで、長さは數百マイルに亘つてゐるものと推定されてゐる。鑛脈は前カンブリア紀の變質の著しい片磨岩中にあり、表層には錫と銀を、下層には鉛と亞鉛とを含んでゐる。

過去四十年間の統計によると、この地方の降雨量は年七・九インチで、最高氣温華氏一一六度、最低二八度五分であつて、農耕には全く適しない不毛の地である。市民の食料水も郊外に築造された大貯水池から供給されてゐる。しかしアデレードから鐵道によつて生活必需品は豊富に送られてゐる。

鑛區は市街の一端にあつて、平地の表面から直ちに九一五メートル内外の地底に下る堅坑がある。山地でない砂漠上の大鑛山は珍しいものである。

この鑛物の産額に於いて第二位に位するものは、クインズランド州のマウント・アイザ鑛山、第三位はタスマニア州のマウント・ローズベリー鑛山であつて、ここからは金をも産出する。

第五四表 銀及び亞鉛生産金額と銀、鉛、亞鉛生産高表(一九三七年度)

州名	銀及び亞鉛生産金額(單位磅)	銀生産高(單位オンス)	鉛生産高(單位噸)	亞鉛生産高(單位噸)
ニュー・サウス・ウェールズ	四、三一〇、六一三	九、七八〇、四九九	一八四、八二二	四三、二五四
クインズランド	一、一七二、五三一	三、二六四、九九四	三八、四七三	二七、五九八
タスマニア	三〇八、二六二	一、〇六〇、七八五	九、一一七	二三、四八一
西オーストラリア	二七、八四四	一八〇、五六二	六、一三六	—
ヴィクトリア	四九一	五、四四三	—	—
南オーストラリア	三七一	九五五	—	—
北部地域	三二八	—	—	—
計	五、八二〇、四四〇	一四、二九三、二三八	—	九四、三三三

銅 銅の生産は貧弱で、總産額は僅に二萬噸餘であつて世界總生産額の一分に過ぎない。銅は各州から多少は産出されるが、タスマニアが最も多く、同州のマウント・ライエルからその八割弱を生産し、濠洲全産額のほぼ三分の二を占めてゐる。次はクインズランド州で、クロンカリー、ハーバートン、マウント・モーガンの三銅山が主要なものであり、第三位はニュー・サウス・ウェールズ州、第四位は南オーストラリア州であるが、この州は移民開設の初期、種々の難局に直面してゐた時に銅が發見されて州の繁榮に著しい貢献をしたことがある。

従來銅鑛業は餘り重要な鑛業とはなつてゐなかつたが、第二次歐洲戰爭勃發以來、軍需資材としての必要上、

一九四〇年頃から盛んに採取されるやうになつた。適當な燃料の供給が十分行はれ、労働賃金が低減し、運輸の便が容易になればまだまだ發達する可能性はある。

一八六九年ニュー・サウス・ウェールズ州の中央部のコウバー金山附近に豊富な銅鑛が発見せられ、年雨量僅に十五インチ以下で地味劣悪な荒野が急激に發展してコウバー町を出現させた。爾來銅の産額は驚くべき高に達し、第一次世界戦争の頃にはこの銅山は非常に活動してゐたが、戦争が終るとこの一時盛名を歌はれた有名な銅山も高率勞銀のために採算が取れず廢坑となつて殘骸を横へてゐたが、今次戦争でまた活氣を呈するやうになつたことであらう。

第五五表 銅生産額及び生産高表（一九三七年）

州名	生産額(單位磅)	生産高(單位噸)
タスマニア	七五九、三三二	一一、四二〇
クインズランド	三〇八、九六八	五、一四九
ニュー・サウス・ウェールズ	七二、四〇六	三、六二七
南オーストラリア	二一、六二〇	三四〇
西オーストラリア	九八六	一
北部地域	五五	一
計	一、一六三、三六七	二一、五三六

第九節 鐵

鐵の問題 現在鐵を最も多量に産出するのは南オーストラリア州のアイアン・ノツプである。近年濠洲西部のヤンビ海峽の鐵鑛脈開發が提唱された。一九三七年には日本の資本家は濠洲に一會社を設立してこの鑛脈を開發し、採取した鐵鑛を日本に送らうとの計畫を立てた。しかし海外に輸出するほど多量の鐵の資源が果して濠洲にありや否やとの問題に對する關心が濠洲人間にも起り、濠洲聯邦政府は直ちに調査に着手した。その調査報告は左の通りである。

「高級にして採鑛容易なる大鐵鑛脈は濠洲中にただ二個所、即ちヤンビ海峽（西オーストラリア州）とアイアン・ノツプ（南オーストラリア州）のみなり。前者には一〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸、後者には一五〇、〇〇〇、〇〇〇噸の埋藏量あるものと推定さる。この噸數は多額に見ゆれども、現在の世界の鐵鑛脈と比較すれば決して多額なものにあらず。利用され得ると推定される如上の噸數は、濠洲の現状をもつても六、七十年以上の需要を充すに足らず、しかもこの推定噸數は過大視せられてをるかも知れず、かかる場合は濠洲に取りては重大問題なり、加ふるに燃料の豊富とその供給のよろしきを得ば濠洲製鐵業には急激なる進歩の可能性あるを思ふ時に結果は眞に憂慮すべきものあり。従つて濠洲政府が鐵鑛石並びに製鐵に必要な燃料保存といふ國家的重大問題に眞剣なる考慮を拂はれんことを小官は切に希望するものなり。（中略）小官はこの二鑛脈の無統制開發を制限し或は禁止することを提言す。」

この報告に基いて、濠洲政府は濠洲内に於ける他の鐵鑛脈が調査されるまでこの鑛脈の開発を禁止することに決定した。

以上述べたやうなわけで、濠洲全土に亘つて鐵があるにも拘らず一九四〇年までは鐵鑛業は餘り發達してゐなかつた。しかし第二次歐洲戰開始以來、焦眉の急に迫られて銅と同じく盛んに採掘されるやうになつたが、何分にも人力の不足と賃銀が高率なため、はかばかしくは行はれてゐなかつた。

鐵鑛區及び埋藏量 ニュー・サウス・ウェールズ州に於ける最も大なる鐵鑛脈はミタゴング、ウオララウオン、グ、ライルストン地方にあつて、鐵五、八五三、〇〇〇噸を含む一二、九四四、〇〇〇噸の鑛石があると推定されてゐる。

タスマニアには一七、〇〇〇、〇〇〇噸の鑛石ありと推定される大鑛山があるとのことであるが、現在までのところでは銅製鍊の副産物としてマウント・ライエルで黃鐵鑛を産出してをり、その産額は一九三七年には四萬噸に上つてゐる。

西オーストラリア州のヤンビー海峽の鑛山は今次の戰爭前までは採掘されてゐなかつたが、この州には磁鐵鑛及び赤鐵鑛が共に非常に多量にあるから、低賃銀で作業されたならば有望な事業とならう。

南オーストラリア州のアイアン・ノツプ及びミドルバンクにおける鐵鑛石産出高は年約一、八五〇、〇〇〇噸で、全濠洲の需要を充してゐるから、現在ではこの州だけが鐵産出州と云つてよからう。

スペイン半島の西岸ワイヤラ港から三三哩奥地に入つたところに九〇〇エーカーに亘るアイアン・ノツプ、ミ

ドルバンク地域がある。これを鑛區別に見ると左の通りである。

アイアン・ノツプは最初に採掘されたところで極めて優秀な赤鐵鑛を産出する。戰前までは特殊の用途に優秀な鐵鑛を要する場合のみに採掘されてゐた。

アイアン・モナークは戰前までに採掘された鐵鑛の殆んど大部分を産出したところで、地平上六四〇呎、鑛床は直徑一哩半の圓を徑なし、埋藏量は地平上一億噸以上あり、マンガン含有量高三割、鐵分六割乃至七割の赤鐵鑛が戰前までに約二〇、〇〇〇、〇〇〇噸採掘され、地下一〇〇呎まで掘つてゐるが、一五〇呎まで掘り下げれば更に一〇三、〇〇〇、〇〇〇噸採掘可能と推定されてゐる。

アイアン・バロン・グループの赤鐵鑛埋藏量は前者に劣らぬが、品質が幾分劣ると云はれてゐる。アイアン・ナイト・グループはまだ調査が充分行はれてゐないが、全部露天掘で山頂から切崩し式に採掘されてゐる、濠洲重工業の基礎をなすものである。

一九三八年度の濠洲全體の鐵製品製造高は、鉄鐵九二九、六七六噸、鋼塊一、一五九、〇七五噸、鋼製レール棒、部分品九〇六、四二六で、いづれも逐年増加してゐる。

第十節 錫

錫はニュー・サウス・ウェールズ州に最も多く産し、同州の錫鑛脈は極北部のティンガ、ニュー・イングランド、エマヴィル及びテンタフィールド地方にあり、バリアノ山脈その他の地方でも發見された。

タスマニアでは東北部で発見され、一時は盛んに採掘された。
 クインズランドの主要鑛脈はハーバートン地方のアナン河とブルームフィールド河の流域にあるクツクタウン及びニュー・サウス・ウエールズ州との州界にあるスタンソープにある。ハーバートンとスタンソープは同州全産額の四分の三を産出する。

ヴィクトリア州及び西オーストラリア州の北部地域からも産出するが、その量は非常に少く、南オーストラリア州の錫鑛業も微々たるものである。

第五六表 錫生産高表（一九三七年度、單位磅）

ニュー・サウス・ウエールズ	三三六、六二八	西オーストラリア	一一、四二一
タスマニア	二六〇、六七二	北部地域	七、二〇五
クインズランド	二〇二、六一四	計	八六三、六六八
ヴィクトリア	四四、一二七		

以上挙げたものが今日濠洲に於ける主要な鑛物となつてゐるのであるが、廣大な未踏地域が残されてゐるのであるから、よく調査したらまだまだ澤山あるに相違ない。

第十一節 アンチモニー 蒼鉛 マンガン プラチナ イリドスミン其他

アンチモニー アンチモニーは濠洲全土に廣く分布してゐて、時々金と一緒に発見される。

ニュー・サウス・ウエールズ州における主産地はアーミデル附近のヒルグロヴで、有名なエリーノラ鑛區がここにある。この鑛石からは金も採取される。

ヴィクトリア州では一時盛んに採掘されたが、價格が低廉なものと勞銀が高いためにやはり收支償はず、近年は停止されてゐた。

クインズランド州では一八九一年を最高潮時としてヴィクトリア州と同じ運命に陥つた。

西オーストラリア州のルーバーン附近では立派な輝安鑛の鑛脈が発見されたが、まだ大規模の採掘には至つてゐない。

蒼鉛 蒼鉛は濠洲全土にあることが知られてゐるが、現今採掘に従事してゐるものはニュー・サウス・ウエールズ、クインズランド、南オーストラリアの三州とタスマニア島だけである。普通には錫その他の鑛石と混つて発見される。

ニュー・サウス・ウエールズ州の主要鑛區はニュー・イングランド地方のキングスゲートにあつて、ここでは概して、モリブデンや金と一緒に出る。

マンガン プラチナ イリドスミン其他 マンガンもニュー・サウス・ウエールズ、クインズランド、西オーストラリアの三州で発見されたから恐らく他の州にもあるであらうが、第二次世界大戦前までは濠洲市場の需要が極度に少かつたのでまだ利用されてゐなかつた。

ブラチナとイリドスミンもニュー・サウス・ウェールズ州で発見されたが、極く少量である。稀有なテルル結もニュー・サウス・ウェールズ州のビンガラ、その他北部地方並びに西部のタラナ地方で発見されたが、まだ極く少量であるから採算は取れない。

水銀はニュー・サウス・ウェールズ州のビンガラ、ソルフエリノ、ヤルジルバー、クーマとクインズランド州の或地方で発見された。

チタン石はダイヤモンドと一緒にニュー・サウス・ウェールズ州の沖積堆積物の間で発見された。

ウルフラム鑛はニュー・サウス・ウェールズ、ヴィクトリア、クインズランドの三州とタスマニア島で、重石はクインズランド州で、モリブデンは錫、蒼鉛と共にクインズランド州、ニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州で発見された。

ニッケルはニューカレドニア島には非常に多量にあるが、濠洲本土ではクインズランド州とタスマニア島以外の地ではまだ見出されてゐない。

コバルトはニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州、南オーストラリア州にあるが、市場が狭いので大規模の生産にはまだ着手せられてゐない。ニュー・サウス・ウェールズ州のバサースト地方のマンガン中には往々少量を含有してゐる。

その他クロム鐵鑛はニュー・サウス・ウェールズ州の北部地方とタスマニア島で、砒石はニュー・サウス・ウェールズ州とヴィクトリア州とで発見された。

明礬の大層がニュー・サウス・ウェールズ州のステイフンス港から三〇哩のブラチラ村にある。

陶土、耐火粘土、煉瓦粘土は各州に普遍的にある。

石棉(アスベスト)はニュー・サウス・ウェールズ州のガンダガイ、バサースト、ブローケン・ヒル地方にあり、殊にブローケン・ヒル地方には多量にある。またかなり良質のものが西オーストラリア州で発見された。

発見された寶石の種類 各種の寶石が全土の各地で発見されたが、秩序立つた捜査は主としてダイヤモンドと蛋白石になされてゐるだけである。ニュー・サウス・ウェールズ州で発見された最良のダイヤモンドは、南アフリカ産のものより質が堅く色は白く、ブラジル産のものと同等であるとされてゐるが、まだ大きいものは産出されない。蛋白石も最良のものがニュー・サウス・ウェールズ州のウイルクニア附近で得られた。

その他青玉石、翠綠玉、紅玉、紫水晶、石榴石、金綠玉、玉髓、紅瑪瑙、貓睛石、貴橄欖石、黃玉、黃色水晶、縞瑪瑙、ジルコン、トルコ玉等が各所で発見された。

青玉は各州で得られたが、ヴィクトリア州のビーチワース附近が主産地である。

黃玉と紫水晶はニュー・サウス・ウェールズ州、紅玉はニュー・サウス・ウェールズ州及びクインズランド州、トルコ玉はヴィクトリア州のウォンガラタ附近、金綠玉はニュー・サウス・ウェールズ州、紅尖晶石はニュー・サウス・ウェールズ州とヴィクトリア州、白黃玉は各州、玉髓はニュー・サウス・ウェールズ州、貓睛石、紅瑪瑙、縞瑪瑙もニュー・サウス・ウェールズ州で入手された。

其他の鑛物 以上あげたものの外に今日までに発見された鑛物名を産出金額の多いものから順に挙げると、タ

ングステン、鹽、石膏、石灰石、マグネシウム等である。

石油 近年燃料油發見の踏査が盛んに行はれてをり、聯邦政府は五五、〇〇〇濠洲磅を投じて鑽孔機三臺を購入し、民間にも貸し下げ、踏査費の半額を負担したりして獎勵してゐる。企業家は政府から多額の補助金を得てクインズランド州のハトン・クリークや、西オーストラリア州のキンバリー地方で試掘を行つてゐた。

戦前までのところでは企業的成功は收めてゐなかつたが、踏査の結果、ヴィクトリア州のジブスランド地域の二地方の如き有望な地方があることが確められてゐた。

また濠洲聯邦領バビユア（ニューギニア）と統治領ニューギニアから商業的價值のある多量のオイルを得ることが諸會社によつて考慮され、最近に至つて資本金一、〇〇〇、〇〇〇〇濠洲磅の英米濠合同會社を設立しこれ等の地方を踏査するところまで發展してゐた。

かく政府が獎勵してゐるにも拘らず、現在までのところでは僅かにニュー・サウス・ウェールズ州のニューネスの燭炭坑區（セトルハイランド）が發見されたからのもので、この燭炭から燃料油を得るために聯邦政府並びに州政府補助の下に一會社が設立された。

第十二節 主なる鑛山所在地

現在の主なる鑛山を列挙すれば左の通りである。

金 西オーストラリア州——東クールガーディー、オウラ、バンダ、マーチズン、マウント・マーガレット。

南オーストラリア州——タークーラ。

北部地域——バイン・クリーク及びタナミ。

ヴィクトリア州——バララット、ベンデイゴ、アララット、チルターン、メーリーバラ、ウォルハラ。

ニター・サウス・ウェールズ州——コウバー、キャンベレゴ、ヒルグローヴ、アラルーエン、ウエリントン。

クインズランド州——チャーターヌ・タワーズ、マウント・モーガン、ジンビー、レーヴンスウッド、クロンカリー。

タスマニア州——ビーコンスフィールド。

銀 鉛 亜鉛 ニュー・サウス・ウェールズ州——ブローケン・ヒル、エランデリー。

クインズランド州——チラゴウ。

西オーストラリア州——レーヴンスツープ、マウント・マルコム。

南オーストラリア州——ウオラルー、ムンタ、エルタ。

ヴィクトリア州——ウォルハラ。

ニュー・サウス・ウェールズ州——コウバー、カイロウ、キャンガイ。

クインズランド州——クロンカリー、マウント・モーガン、チラゴウ。

タスマニア州——マウント・ライエル、マウント・バルフォア。

鑛業と重工業

濠洲の資源と植民問題

錫

西オーストラリア州——グリーンアツセス。

北部地域——マウスト・トツド。

ニュー・サウス・ウェールズ州——テインガ、エマヴィル、アードルサン、

クインズランド州——ハーバートン、チラゴウ。

タスマニア州——マウント・ビスチヨツブ。

鐵

南オーストラリア州——アイアン・ノツブ。

蛋白石

ニュー・サウス・ウェールズ州——クリツフス、ライトニング、リツジ。

クインズランド州——オウバルトン。

鹽

南オーストラリア州——フアウラー湖。

第十三節 石 炭

石炭の分布 濠洲には礦物燃料は豊富にある。石炭は良質ではないが産出額が多く、ニュー・サウス・ウェールズ州を第一位としてヴィクトリア州、クインズランド州、西オーストラリア州、タスマニア州がこれに次ぎ、現在では濠洲全體を通じて顯著な黒炭坑區が五つ、褐炭坑區が二つあり、黒炭はニュー・サウス・ウェールズ州の主要な資源となつてをり、褐炭は主にヴィクトリア州にある。その他の州でも近年石炭採掘は急激に發達しつゝある。

第五七表 黒炭産額表

州 名	一九三四年		一九三五年	
	産出量(單位噸)	金額(單位磅)	産出量(單位噸)	金額(單位磅)
ニュー・サウス・ウェールズ	七、八七一、一八〇	四、五四一、九二三	八、六九八、五七九	四、八八七、三四一
クインズランド	九五六、五五八	七五二、三〇三	一、〇五一、九七八	八四三、〇三四
西オーストラリア	五〇〇、三四三	二七八、七〇四	五三七、一八八	三一八、〇一三
ヴィクトリア	三五六、九五八	二一五、四一三	四七六、四七五	二八二、二五三
タスマニア	一一三、六三三	八一、二六二	一二三、七一四	八六、二〇四
計	九、八〇〇、六七二	五、八六九、六〇五	一〇、八八七、九五四	六、四一六、八四五
州 名	一九三六年		一九三七年	
産出量(單位噸)	金額(單位磅)	産出量(單位噸)	金額(單位磅)	
ニュー・サウス・ウェールズ	九、一九九、四六六	五、一二六、八五〇	一〇、〇五一、五一九	五、八二三、四六九
クインズランド	一、〇四六、八七九	八五七、七三二	一、一二〇、一七九	九三四、一〇七
西オーストラリア	五六五、〇七五	三三一、五六五	五五三、五一〇	三四〇、四四四
ヴィクトリア	四二六、七二五	二五三、八三五	二五七、九四五	一七一、三六九
タスマニア	一三二、二六四	九二、二六九	九一、一二一	六六、八八三
計	一一、三七〇、四〇九	六、六六三、二五一	一二、〇七四、二七四	七、二三六、二七二

第五八表 褐炭産額表（ウイクトリア州のみ）

年 度	産出量（單位噸）	金額（單位磅）
一九三四年	二、六一七、五三四	二六四、一九二
一九三五年	二、二二二、五一五	三一七、四四四
一九三六年	三、〇四四、八九七	三二三、九一四
一九三七年	三、三九三、九一九	三二五、九五〇

右の表で見るやうに産額は年々増加してゐる。

ニュー・サウス・ウェールズ州 ニュー・サウス・ウェールズ州の炭坑區は、北部、南部、西部の三地區にあり、北方地區の主なるものはハンター河地區のもので、ニューカースル附近の炭坑は産額が非常に多い。これはニューカースル・リスゴウ・ブライ石炭層であつて、それに關聯してゐる層と共に二五、〇〇〇平方哩の地域を占め、年々約二、五〇〇、〇〇〇磅の石炭を産出する。英本國でもニューカースル地方は昔から石炭を豊富に産出し、「石炭をニューカースルに運ぶ」といふ文句は「無駄なことをする」といふ意の熟語となつてゐる程である。それでハンター河附近の地に豊富な炭坑區が発見された時、英本國の地名を取つて「ニューカースル」と命名したのである。以つてこの地方からいかに豊富に石炭が産出するかは容易に想像されるであらう。殊にこの地方は海に近く運輸の便もよいので、濠洲一の炭坑區となつてゐる。この炭坑區は濠洲移民地開設の最初から採掘されてゐて、現在の年産額は約一〇、〇〇〇、〇〇〇噸で、濠洲全土の金産額の總價格以上に當る。

この炭層はニューカースルを基點として、西はリスゴウ、南はブライまで擴がつて、巨大な黒い皿を作つてゐるやうである。

クラーク、エサリツジ、デーヴィッド三氏は頗る精確な地質學的歸納によつて、この炭層は首都シドニーの地下數千呎のところにも見出されるだらうと推論してゐる。

一八九〇年、北シドニーに於いて穿孔器が地下に突き込まれ、二、八〇一呎で石炭層に突き當つた。その後一炭坑會社が設立され、シドニー港沿岸のバルメーンに二つの堅坑を掘つて以來、最大の外洋航路汽船がシドニーの炭坑埠頭から石炭を積み入れることが出来るやうになつた。またシドニーの南のヘレンスバラでも、この同じ炭層が八五〇呎のところまで採炭されてゐた。

この炭層の西部地區は大西部鐵道に沿つた山岳地帯で遠くダボウまで及んでゐる。この炭田に於いてはホークスベリー河に注いでゐる諸川によつて掘られた深い密谷の中に石炭層が露出してゐる。ここではミタゴングの河川谷に穿たれた横坑（通例山の面に開いてゐる多少水平の坑道）が第一熔鐵所に石炭を供給してゐる。分水嶺の西側ではリスゴウに於て石炭が表面に現はれ、ここに濠洲における主なる製造工業中心地の一を生み出すに至つた。即ちここには濠洲唯一の大熔鐵爐（一九〇七年建設のサンドフォーズ熔鐵爐）があり、數ヶ所の冶金工場は主として製鋼工業と關聯してゐる。

南部地區は、シドニー市南方の海岸地方のイラワラ地區と高地のベリマ地區とである。この南部地區に於けるブライ及びそれに關聯した炭坑では、石炭は海岸山脈の側に露出してゐて廣い帯として見られ、稍々西南のキャ

ムデン地方にも相当量の石炭を産出する。

ニュー・サウス・ウェールズ州の石炭層の全地域は二三、九五〇平方哩と見積られてをり、層の厚さは所によりちがつてゐるが、ハンター河のグレッタ坑区のもの厚さ平均四一呎の純石炭層で、一エーカーの地下にある量は六三、七〇〇噸と見積られ、濠洲中最も豊富なもの一つに數へられてゐる。

ニュー・サウス・ウェールズ政府の地質學技師 E・F・ビットマン氏は同州の石炭資源を次のやうに推算してゐる。

上部炭層の生産地域 (ニューカスル・ブライ)	一五、八〇〇平方哩
北部下部炭層の生産地域 (グレッタ)	二五〇平方哩
南部下部炭層の生産地域 (クライド)	五〇〇平方哩

計

一六、五五〇平方哩

採炭される最高の厚みは約一二〇呎である。一六、五五〇平方哩の全地域の採取される石炭の厚みが平均一〇呎と假定して、利用し得べき石炭は一一五、三四六、八八〇、〇〇〇噸であると同氏は推算してゐるが、これは英國の炭田の含有量以上である。(E・F・ビットマン著「ニュー・サウス・ウェールズ州の礦物資源」参照)

クインズランド州の地質學者ジャック博士は同州の石炭層は無盡藏といつてもよいくらゐると云つてゐる。

この州の炭坑經營は確立してゐて着々と發展してゐる。しかし良好な炭坑は海岸から遠いので運輸が不便でありニューカースルの石炭とは到底競争が出来ない。従つて現在では地方消費にのみ當ててゐるといふ實狀である

が、將來性のあることは確實である。

クインズランド州 濠洲の石炭含有地層は東海岸に沿ふて存するが、本州のものもさうである。

北クインズランド州北部にはクックタウンの背後のオウキー・クリークとリットル・リヴァー及びタウンズヴィルとの三ヶ所に小炭層があるが、これ等は現今では全く重要性がない。

同州中部にはドーソン河の未開發大炭層がある。この石炭の一部は概して密度があり、水分や蒸發物の含有量が少いので炭質が優良である。或るものは殆んど無煙炭に近い。同州中部で現在採炭されてゐる炭坑はロッキハンプトンからロングリーチに通ずる鐵道沿線と、奥地ではタラーメントくらゐのものである。

クインズランド州南部のイプスウィッチ附近にある炭層は二疊イモカール紀と石炭紀混合地層であるが、本州に於ける最も重要なものであり濠洲に於いても有數の炭層であつて、首都ブリスベン及びその他の市場へ石炭を供給してゐる。イプスウィッチが可なり盛大な工業中心地となつてゐるのもこれがためである。この炭層の南部延長はニュー・サウス・ウェールズ州との境界まで行つてゐて、數ヶ所に炭層が見出されるが、餘り大なる價値はなくイプスウィッチのものとは到底比較にならない。

西オーストラリア州 **ウイクトリア州** **タスマニア州** **南オーストラリア州** 遠く一八四六年に西オーストラ

リア州のアーウィン河の盆地で、普通質の石炭が発見された。最近の調査によれば、同州の石炭層はアーウィン河から北に走つてガスコイン河までの約三百哩と、恐らくはキンバリー地方までも連續してゐるだらうとのことである。同州に於ける最も重要な発見は首都パースの南方即ち同州の西南隅バンベリー附近のコリー河床でな



第一九圖 主要炭坑圖

○ 炭坑中心地 ● 二疊紀・石炭紀混合層

れたものであつて、この石炭は可なり豊富で、少くとも二五〇、〇〇〇、〇〇〇噸はあるだらうと推定されてゐる。しかしこれは古昔「斷層塊」から割り穿たれた炭層中にあるのであつて、コリー石炭は「母なる大地の攪亂」によつて改善されてはをらず、非常に濕氣を含み幾分か石炭の燃滓のやうである。褶曲が起つたところではニュー・サウス・ウエールズ州のアツシユフォード炭やクインズランド州のドーソン河炭の一部のやうに、密度があつて水分や蒸發物質の含有量が少く炭質優良なのが普通である。

ヴィクトリア州での石炭発見は近年に屬するが、現在は多量に採掘されてゐる。パタソン岬附近のジブスランドとレース・クリークと、首都メルボルンの東八八哩のモウエルとに褐炭坑がある。モウエル炭層は巨大な第三紀炭床で、ここにある褐炭層は厚さ一〇〇呎のものが數層あり、七〇〇呎に達するものも一層ある。この褐炭は碎け易く且つ濕氣を含んでゐるので、一度乾燥した後に煉瓦狀片塊に壓搾して即ち「煉製」される。タスマニア島には中世代石炭層が東部のフィンガルにあつて盛大に經營され、同州の石炭産額の九割を産出してゐる。同州にはまた北部のマーシー河附近と南部のポート・サイグネットにも炭坑があるが、共に重要なものではない。

南オーストラリア州ではオーガスタ港の北部レースクリークに小炭坑があつて、炭層は非常に厚いが濕氣を多量に含む低質炭である。

第五九表 炭層表 (一部ハンドニー大學工學會ニ於ケルデーヴィッド教授ノ講演ニ基イテ作製)

地 區	時 代	炭 質	可 能 性
ニュー・サウス・ウエールズ	二疊紀・石炭紀混合	非常ニ良質、汽船用	多量輸出サレ、最良ノコークヲ與
ニューカースル	同	家庭用、瓦斯用等ニ	海岸ヨリ百哩離レテキルカラ輸出
リスゴウ	同	適ス	サレズ、冶金ニ用ヒラル
ブ	同	優良炭	コークト輸出ニ使用サル
アツシユフォード	同		北部鐵道ニ使用サル

礦業と重工業

クインズランド	二層石炭紀混合	優良	輸出ト地方用途ニ非常ニ有望ナリ 一呎ト四呎半ノ二層アリクイン ズランド州全部ニ供給ス
ドールソン	三層紀	總テノ用途ニ使用サル	
イブスウイツチ			
西オーストラリア		水分ヲ含ミ、乾燥スレバ 碎ケ易シ	西オーストラリア州ニ供給ス
コリ		總テノ用途ニ使用サル	
タスマニア	同		タスマニア州ニ供給ス
フィンガル	同		
ヴァイクトリア	同	劣等	
ジブスランド	同	四九呎ノ柔カキ石炭	四百哩ノ奥地ニアリ非常ニ燃滓狀
レリス・クリータ	同	非常ニ水分ヲ含ミ、非 常ニ脆シ	乾燥後煉瓦狀ニ煉製シテ使用ス
モリエル	第三紀		

第十四節 重工業

製鐵、製銅及び非鐵金屬工業 一九三九年九月對獨宣戰と共に濠洲經濟は戰時體制下に置かれ、製造工業も漸次軍需工業に轉換し、官民共に軍需工場新設にも懸命となつてゐた。

濠洲は今次世界大戰の進展につれて自國防衛に汲々とし軍需品の生産に躍氣となり、その原始産業、製造工業



第二〇圖 金山以外の鐵山地域表

□ 銀・鉛 ● 銅 ● 石炭 王鐵 十 錫

共に専ら戰時色に彩られ、重工業が急激に發展して來たのは當然であるが、重工業の基礎は既に第一次歐洲大戰を契機として築かれたのであつて、その後、斯業は年々飛躍的發展を遂げた。

製鐵製銅業は Broken Hill Proprietary (B. H. P. と略稱す) の獨占事業であつて、その生産は、今次世界大戰以前において既に全濠洲の鐵鋼需要に應ずるまでに發達してゐた。同社は一九一四年ニュー・サウス・ウェールズ州の石炭産地ニューカースルに製鐵工場を創設したが、偶々第一次歐洲大戰が勃發したので事業は着々と發展し、一九一七年に

は造船用を主とした鐵板の製造を開始して一三、〇〇〇噸を生産した。一九一八年には他の小會社を買収して、鉄鐵一週間の生産高三、〇一四噸、一九三五年にはニューカースル工場だけで週生産高鉄鐵一四、〇八〇噸、鋼鐵二二、〇〇〇噸を生産するに至つた。なほ同社は一九三五年、濠洲鐵鋼會社 (Australian Iron & Steel Ltd.)

をも併合し、ここに名實共に南半球における重工業の王座を占むるに至つた。

またニューカースル製鋼工場内には骸炭製造爐をも設けて、副産物のベンゾールだけでも日産六、〇〇〇ガロンを生産してゐた。

ニューカースル工場は、一九三五年六月現在の調査では熔鑛爐三基を備へて、一週間銑鐵一四、〇八〇噸を生産し、平爐は一〇臺あつて、鋼鐵の週生産量は二二、〇〇〇噸であつた。また各種鋼鐵生産加工工場を製品別に所産してをり、ニューカースル對岸のワラタでは、一九四〇年以來聯邦製板工場が不銹耐熱鋼板の生産に着手してゐた。

ボート・ケンブラの濠洲製鋼工場は熔鑛爐二臺を備へ、銑鐵の週生産高は一三、三〇〇噸、平爐は四臺で、鋼鐵の週生産高は一、〇〇〇噸であつたが、その後十臺内外に増加したらしい。この工場もニューカースル工場と同様、各種鋼材生産加工工場を所有してゐた。

これ等二大製鐵工場地帯では鐵加工工業が急激に發達しつつあつたから、今次大戰勃發以來大拍車をかけて製鐵製鋼に大重になつてゐることは少しも疑ふ餘地はない。

濠洲では古くからブローケン・ヒルを主要生産地として、その他の地方でも鉛、亜鉛、銀等の非鐵鑛石類が多量に産出されてゐたが、國內では熔鑛並びに精鍊加工技術が發達せず、金以外の鑛石は海外へ輸出するといふ状態であつたが、一九〇五年、南オーストラリア州のスペンサー灣に臨むボート・ヒリーに Zinc Co-operation が設立され、ブローケン・ヒルの鉛鑛はここへ送られて熔鑛が開始され、一九一五年に同會社は B. H. P. に合併

し、現在では世界的な鉛精鍊工場となつてゐる。また亞鉛鑛はタスマニアのリズドンにある B. H. P. の傍系會社 Electrolytic Zinc 工場に送られて電解精鍊されてゐた。

銅は含有度は低いが豊富な鑛區がタスマニアにあるので、同州にあるマウント・ライエル會社が銅の電解を行つてゐた。またクインズランド州のマウント・モドガンやチルラルゴウ地方でも銅の精鍊が行はれてゐた。

濠洲では近年同國で電解された銅で銅管、銅線等を製造してをり、アルミニウム、眞鍮、ニッケル銅、銅板等の製造も行はれてゐたが、まだ幼稚なものであつた。しかし今次大戰勃發後は目覺しい發展を遂げてゐるものと見るのが至當であらう。

船舶 車輛 機械 電機 從來大規模造船所はなかつたが、現今では時局柄、英、米の技術家を招聘して船舶の建造に全力を盡してゐるであらう。

今次大戰前までは、主なる造船所としては聯邦政府所管のコツカトウ島造船所、ニュー・サウス・ウェールズ州所管のウォルツシユ島造船所、民間經營のモーツ・ドック・エンジニアリング會社の三つがあつた。

コツカトウ造船所は濠洲海軍の根據地であるシドニー港内のコツカトウ島にある濠洲最大のもので、今日までに巡洋艦、驅逐艦、空母艦、沿岸防備艦等を初め、スループ船、石炭輸送船、冷凍貨物船、浚渫船その他小船舶多數を建造してゐる。

ウォルツシユ島造船所はニューカースル市の對岸にあつて一四五エーカーに及ぶ工場を所有し、六千噸級船舶の建造設備がある外、一萬五千噸級の浮ドックを備へてゐた。

モーツ造船所はシドニー港内のウエーター・ヅュー灣にあつて乾ドック、浮ドックを二個宛所有してゐたが、收容船舶噸數は一、五〇〇噸までの小型のものであつた。今次大戦前、南オーストラリア州のワイヤラに一萬五千噸級船舶の造船所が建設中であつたが、勿論もう完成してゐるであらう。

鐵道車輛、電車等の製造は、國內自給の域に達してゐた。

自動車の製造は一八九九年に發動機と車體を製造したといふ記録はあるが、實際に自動車工業が発達し始めたのは一九一七年以來のことであつて、アデレードのホールデン・フロスト会社が自動車の製造を始め、後年同社は米國のゼナル・アンド・モーターズと提携してゼナル・モーターズ・ホールデン會社を設立し、二、〇〇〇、〇〇〇磅を投じてシドニー、メルボルン、ブリスベン、パース等の各州首都に分工場を設立し、専ら自動車の組立や車體の製造をしてゐたが、近年モーターをも製造するやうになつてゐた。

今次大戦前までは自動車工業はまだ一貫した自給自足の工業にまでは完成してをらず、専ら組立てと車體製造に止り、特殊高級車や英國製自動車は完成車を輸入してゐた。

組立と車體製造工業を最も盛んにやつてゐたのはゼナル、モーターズとフォード工場で、シドニー、メルボルン、パース、ジロング等に立派な工場をもつてゐた。前述のアデレードにあるホールデン工場は車體製造工場中の最大のもので、主としてシボレーの車體を製造し、工員四千人、日産最大製造能力二百臺、實産百五十臺くらゐであつた。そして濠洲全體としての車體年産は約十萬臺であつた。

航空機製造工業は G. M. H. (General Motor Holden) 會社が B. H. P. と提携して聯邦航空機製作會社

を設立し、濠洲最大の飛行機製造所をメルボルンに建てた。同社は今次大戦勃發後、直ちにノース・アメリカン、ロッキード航空機會社と契約を結んで航空機製作權を買收し、またブラット・ホイットニー會社からワスプ發動機の製造機械をも購入して濠洲國産機を大量に生産するやうになつてゐた。濠洲も今や死活問題に直面してゐるので航空機製作には全能力を傾注してをり、米英の技術家を招聘して航空機を多量製造してゐる。

農具機械製造工業は一八四三年に始まり、濠洲の機械工業の發展に貢献するところ多大であつた。製造工場の主なるものは五十七あつて、農具機械の年産額は二百萬磅に上つてゐた。五十七工場中最大のものはいクトリア州のサンシャインにあるサンシャイン・ハーヴェスター (Sunshine Harvester) 工場で、南半球中でも最大工場である。さすがは農牧國濠洲だけはある。

電機器具製造工業は、濠洲における電力需要が急増したのと電氣機械の外國からの輸入が激減したために急速な發展となり、生産額も非常に多くなつてゐた。

今次大戦以前の軍需工業狀況 濠洲が今次大戦勃發以來、自國防衛のためとまた英本國の兵器廠の役目をつとめるためとでも、軍需工場の擴充と新設に躍氣となつてゐることは明かであるが、大東亞戰勃發以後の資料は入手が不可能であるから、それ以前の資料に基いて述べることにする。

濠洲で製造されてゐた兵器は對戰車砲、高射砲、臼砲又は塹壕砲、ビツカー式機關銃、ブレン銃、小銃、輕戰車、彈丸、爆藥爆彈等の中小型火器及び彈丸が主で、大型の大砲や重戰車はまだ製作不能であつた。しかし現在では英米の技術も入つて來て、自動車、航空機、艦船と共に大型大砲や重戰車も製作されてゐるものと見るべき

である。

一九三八年六月末現在における所謂準戦時の軍需工場施設を見ると、大略左の通りである。

(一) 火薬工場はヴィクトリア州のマリビアンングにあつて、各種の火薬を製造してをり、投資額一〇八萬磅
従業員四八八名であつた。同工場は一九一一年に設立されたものである。

(二) 小兵器製造工場はニュー・サウス・ウェールズ州リスゴウにあつて小銃並に機關銃を製造してをり、投
資額九萬一萬磅、従業員三八五名であつた。同工場は一九一二年に創立された。

(三) 武器火薬製造工場はヴィクトリア州のメルボルン市にあつて拳銃、小銃、大砲の導火管や雷管や空軍用
爆弾を製造してをり、投資額百二十四萬磅、従業員八四五名であつた。

以上挙げたものの外に前記のマリビアンングには兵器検査所、兵器研究所があつて、投資額は十五萬一千磅、
従業員九三名であつた。

大戦勃發後の狀況 濠洲は大戦勃發後、國防強化、外資節約のために自給自足策をたて、只管その實現に大重
となつてゐる。

まづその軍需豫算を見るに一九四〇—四一年度は一九三八—三九年度の十七倍近くになつてゐる。

一九四一年十月二日發行のニュー・ヨーク・タイムスによると、濠洲の軍事豫算は左の通りである。」

第六〇表 濠洲の軍事豫算と實際表 (單位百萬磅)

年次	豫算	實際	年次	豫算	實際
一九三八—三九年度	七、五	—	一九四〇—四一年度	一八六、〇	九九、〇
一九三九—四〇年度	五五・二	七三・〇			

一九四〇—四一年度の國民所得は九億磅、歳入豫算は三億磅と計上されてゐるから、軍事豫算は國民所得の二割以上、歳入豫算の六割二分に當つてゐるのである。これによつて平素は國防を英本國に絶対依存して暢氣に構へてゐた濠洲人も現在いかに眞劍になつてゐるかは極めて明瞭である。そしてこの尨大なる軍事費のうちには勿論、皇軍の將兵とちがつて高給を貪る濠洲將兵その他の俸給や給料が含まれてゐるが、相當な部分が軍事工場の擴張、新設及び兵器彈藥に當てられてゐるのである。軍需工場數と従業員數の激増は、軍需工業の飛躍的發展を裏書してゐる。

第六一表 軍需工業従業員數

一九一四—一八年 二、七〇〇 一九四〇—年七月 一六、〇〇〇 一九四一年二月 一五〇、〇〇〇

第六二表 軍需工場數

年次	軍需機械製造工場數	工作機械計器等製造工場數	軍需機械製造工場數	工作機械計器等製造工場數	
一九三九年九月	三	八	一九四〇年十一月	二八	八五
鐵業と重工業				二五五	

今次大戦の花形である軍用飛行機の生産を見るに、英獨開戦と共に濠洲空軍の練習機タイガー・モス型を製作することになつて飛行機製作に一步を踏み出し、その後所謂濠洲型のタイガー・モス型機やウィラウエー型機その他の型の爆撃機や戦闘機を多數製作した。

最初エンジンは凡て英本國から輸入されてゐたが、事態の推移と共にそれが不可能となり、その供給を米國に仰いでゐた。しかし濠洲政府は機體は勿論エンジンも國內で製作することを決意し、設計及び技術を米英から輸入し鋭意航空機の増産を計つてゐて、エンジンは「ジブシー・メージャー・四リンダー」よりも強力な「ジブシリ・シックス・エンジン」の製作もしてゐた。

一九四二年には飛行機製作従業員一萬五千人、月産百五十臺乃至二百臺と推定されてゐた。しかし濠洲における重大な缺陷は精密工作機の缺乏、熟練工の不足及び輕金屬の入手難等であつたが、これ等は現在では米英から輸入されて航空機製作は異常な發展を遂げてゐることは確實である。

造船業もまた著しく發展し一九三九年初に可決された海軍擴充計畫は急速に實現されつつあつて、開戦前には造船所は三つあつても、實際に活動してゐたのは一箇所の造船所に過ぎなかつたが、戦争第二年目には七箇所の造船所が操業し、その後更に造船所を増設して、一九四〇年九月建造中のものは巡洋艦五〇隻、掃海艇一〇隻、驅逐艦數隻であつて、一九四一年二月末には政府は商船製造費として六百萬磅の支出を可決した。

第七章 林 業

第一節 濠洲の山水景觀と草木景觀

濠洲では植物や山水によつて形成された景觀で特に目を惹くほど美しいものは少い。これはニュージーランドと大に趣を異にする點である。しかし濠洲にもその土地特有の魅力がないでもない。

山岳は殆んど一つの小丘の連続と見るべきものであつて、ただ二、三箇所に山脈があるのみで、それとても變化に富む點においては世界いづれの國の山にも遠く及ばない。高山峻峰は殆んど皆風雨に削られて山骨稜々沃土流れてうづ高い砂漠の間に聳立してゐる。

日蔭の峡谷には亞熱帶植物とも見える大木が降雪地域にも繁茂してゐる。羽毛狀の優美で大きな葉が嚴かに明るい雪の中に覗き出でその美觀を誇つてゐるかと思ふと、一方ではその傍に殆んど悉く緑の夏衣裳を脱ぎ捨てた大木が孤影悄然として屹立してゐる。

濠洲の山脈は前にも述べたやうに海岸線に沿ふて走つてゐて、海岸線に沿ふた平野の單調を破りその盆地に都市の建設を可能ならしめてゐるのである。そして奥地は平坦な窪地をなしてをり、この窪地がまた實に荒涼たるものではあるが、悽愴な荒野に特有な魅力がないでもない。乾燥期中、自然界は荒廢の極點に達する。草は悉く枯れて黄色となり、これが「私の成れの果て」といつたやうなみすばらしい藝となる。地獄の釜から出て來たや

うな風が吹きまくり花は全く影をひそめる。しかし雨季には豪雨沛然として來り、謂はば一夜にして草木は青々と蘇生する。

一言にして云へばこれが濠洲の眞の姿である。

第二節 濠洲の生物の起源

濠洲の生物の起源 濠洲大陸は生物が著しく原始的な點で他の大陸と異つてゐる。古い地質時代から他と隔絶した島大陸であつたため、生物界を攪亂するやうな事件がなく進化が遅々たるものだつたためである。しかも世界のいづれの地方にも絶滅してゐる異常な原始的動植物が生殖してゐる點から見ると、その隔離は世界開闢の極めて初期においてなされたものであることは明かである。

一七八八年英國の移民が初めて足を踏み入れたのは、この世から失はれてゐた世界であつた。爾來、人間以下すべての原始的土着の動物は侵入者と負け戦をやつて來たのである。植物界においては移住者は大地域に亘つて原住民を壓倒し、現今では抜くべからざる一大勢力を形成してゐる。イギリス人移民以來、あらゆるものの種子が輸入され、それ等は現在盛んに繁殖してゐる。原住の人間も大陸の大部分に亘つて絶滅したといつてもよい程で、現在の割合をもつてすれば、乾燥して不毛な極めて邊鄙な奥地を除いては純粹原住民族は全然姿を没するものも遠くはあるまい。或種の動植物も同じ運命を辿つて絶滅に瀕してをり、このまま放任して置けば早晚優勝劣敗の原則の下に、原住民と同じ運命に陥るおそれは十分ある。

濠洲の動植物の起原は世界の學者の興味の対象となつてゐて、生物學上及び地質學上の多くの證據から、印度の南部擴張、南アフリカの東部擴張、濠洲の印度洋への西部擴張が指摘されてゐる。西オーストラリア及び南アフリカには雙子葉植物が比較的が多いので、まづ第一にこれらの原始的植物の共通根源が聯想されたのである。H・O・フォーブス博士は南極の方へ擴がつてゐる土地全部に生存する鳥類、脊椎動物、無脊椎動物並びに或部門の植物を指摘して、これ等の動植物は皆南極地帯と命令されてゐる一大陸から來たものであるとの學説を唱へた。また近代の科學者の唱道してゐる説は左の通りである。

現今氷の張りつめてゐる南極地方は初期の第三紀時代においては温和な氣候の土地であつて、南極大陸或は群島が横たはつてゐて、現在の南アメリカに相當する地域から動植物が移り、幾分變化した後にはタスマニアを通つて濠洲本土に渡り、現在の濠洲動植物に發達したのである。この説は南アメリカにおいてタスマニアの有袋狼の祖先であると推定されてゐる原始的型の有袋類の化石が發見されたことによつて相當支持されてをり、南米の共和國エクアドルに現存してゐる有袋類屬との間の興味ある連繫も最近に於ける一つの發見である。

タスマニアに有袋類が最も多いといふ事實はここから有袋類が濠洲に移つたといふ證據である。この南極的動物は生物の全然ない沙漠に移つたものでは勿論ないから、この動物が移住する前に濠洲には多種類の植物と主に無脊椎動物の少數の種類がゐたことは疑ひない。

また一方では、トレス海峡中の島は北部濠洲のヨーク岬半島の延長が磨削されて出來た遺物であることは既に定説であるが、この海峡の出來る以前に澤山のニューギニアの動植物が北から濠洲に入り、現今のクインズラン

ド州の山脈の太平洋側の斜面に沿つて生存に好適な土壤と氣候とを求めて南下したのである。これ等移殖植物中には野生バナナ、胡椒、オレンジ、マンゴスチン、石南屬植物、寄生蘭、棕櫚等が主なもので、哺乳動物では蝙蝠、鼠、鳥類では火食鳥、極樂鳥、爬虫類では鰐、木蛇等が代表的のものである。

第三節 樹木の種類と特異な植物

濠洲の樹木には幾百種の種類はあるが、そのうちでもゴム樹（ユーカリ）とアカシヤは殆んど到るところに繁茂して濠洲特異の相を表はしてゐる。殊にユーカリの一〇〇米に達する亭々たる威容は濠洲大陸を象徴するものと云つてよい。濠洲特産ともいふべきこのユーカリ樹は巨木から灌木に至るまであつて、その數三百種以上もあると云はれてゐる。この樹の幹は白く、青々たる葉は両面が同じの槍鋒狀葉で柳の葉に似てゐる。花は緑色か白色で小さいのが普通であるが、中には葉が密生し、花は美しく、土地が生産し得る最も美しきものの中に數へられるものもある。花は芳香を放ち蜜蜂の非常に好むもので、白い花は數千の蜜蜂群を誘致する。花が甘味を有するばかりでなく蜜に醫藥的價值を添へてゐるのも一大特色である。それで矮生のゴム樹だけが生長してゐる不毛地帯も養蜂家には大切である。これ等の花は早朝と夕方には芳香を周圍數哩に漂はせる。たまに見る赤い花は色彩濃厚で大きな總をなし、裝飾用として廣く珍重されてゐる。これ等の花の咲くのが冬であるのも亦濠洲植物の特異性であらう。若木の時は簇葉が比較的密に繁茂してゐて優美であるが、頂部を切らないと老樹になつた時に葉が疎らに亂れて生じて憔悴した巨人の姿を現出するのが普通で、これが濠洲の景觀に特異性を與へるのであ

る。地方名は主に樹皮の性質によつてつけられ、樹皮の滑らかな樹はゴム樹（灰色ゴム樹、青色ゴム樹、赤色ゴム樹、斑點ゴム樹等）、樹皮に波條あるものは鐵樹皮、樹皮が纖維狀のものは纖維樹皮と呼ばれてゐる。

元來は温帶植物で、温帶に於いて最もよく成長し可なり多量の降雨を要するものであるが、その多くの種類は他の樹木の成長しない乾燥地帯にも繁茂する。例へば南オーストラリア州のトレンス湖の東北にある不毛な乾燥地帯でも矮生のマルガスが生えてゐる砂礫荒地がある。「砂糖ゴム樹」の深い根が濕氣ある下層土に届くことの出来るところでは、あちらこちらに長い一線のユーカリ叢林がある。

ユーカリ樹中の或ものは非常な堅木で、四十三年間海中に没して實驗した結果全然腐蝕してをらず、海虫の害も蒙つてゐなかつたことが實證された。

この種の樹木から抽出されるユーカリブトールと稱する精油はメンソレータムの一成分として混用される。

以上述べた通り、この樹は藥油に富んでゐる上に芳香があり、成長が速かで材質が優秀で木材として貴重な價値があり、おまけに美觀を呈するので近年カリフォルニア、南アフリカ、イタリア、ニュージーランド等の世界各地に盛んに移植されてゐる。

テレベン樹は材木中で最も船喰虫の害を蒙らない材木であることが證明され、波止場建造材料として用ひられる。

西オーストラリアには一四、〇〇〇平方哩に亘る廣大な堅木樹林があつて、耐久性のあるジャラー樹が多く繁茂してゐる。この樹も殆んど船喰虫の害を蒙ることなく風雨にさうし或は地中に埋め或は潜水艦に用ゐて殆ん

ど五十年間變化せずのことが證明された。

堅材の大部分はユーカリ樹で、その主なるものは、アイアン・バーク、灰色ゴム、青色ゴム、赤ゴム、斑點
 ゴム、タロウ・ウッド、黒樹、テレベン、ジャラー、ストリンギー・バーク、白マホガニー、赤マホガニ
 ー、ターペンタイン、マウンテン・アツシユ、赤ボツクス、ヤラー、カリ、チユアート等である。
 中間材とはその堅度、強力等において堅材と軟材の中間に位するもので、その主なるものは赤杉、白杉、
 メーブル、白樺、黒樺、絹樺、等である。

軟材はその種類極めて少く、市場で取引されてゐるものは植民地松とサイプレス松の二種だけである。

濠洲の樹木からは色々の特殊林産物が生産されるが、その主なるものはユーカリ油、精油、白檀油、ワニス、
 ラツカー、タンニン等である。

アカシヤ樹の多くはその葉が牛馬羊等の飼料として大切である。

雙子葉植物は濠洲特殊のものではないが、濠洲風景の非常な特徴であつて世界中最古の開花樹の中に數へられ
 てゐる。葉が堅く乾いて木質であるのと裂開性の果實を結ぶので容易に區別される。ニュージールランドや、ニュ
 ー・カレドニヤや、チリー等にもあるが、濠洲の西南地方では非常によく繁茂する。

モートン灣の松は巨木の一つに數へられるもので、ヨーロッパではずっと昔になくなつてをり、材木としての
 效用は大きい。

バンヤ・バンヤはその果實が原住民の常食となる。

高地や海岸地方にある草樹は形状は特異で、長い針金狀の葉がステッキくらの大きさの幹の周圍に叢生
 してゐる。この樹の高さは十呎乃至十二呎で、穂狀のものに白い花が密に咲く。枝がなく生長の遅々たることは
 棕櫚と同じであるが、棕櫚よりは細くもつと美麗である。樹質が堅いので細工物に使用されてゐる。ニュー・サ
 ウス・ウエールズ州の南方海岸地方に群生してゐる。

西北地方では喬木は影を没し、砂原には灌木が生ひ茂り、ありとあらゆる形態と色彩をもつた小さい花が燃え
 出でゐる。西部海岸には非常に特異な小さい灌木がある。例へば樹幹は眞黒でただ頂上に細長い葉が生じてゐる
 だけで、それが下に垂れてをり原住民の着けてゐる腰布よりも完全な腰布狀をなしてゐるので普通に「黒人」
 と呼ばれてゐるものがある。山腹に繁茂し醜い姿の中にも一種の魅力を備へてをり、市場價值はないが荒涼たる
 不毛の荒野の單調を破つて一種の風致を添へてゐる。

琉球や臺灣等に生長する蛇木に類する大羊齒は濠洲の山野到るところに自生し、わが國に生える蛇木とちがつ
 て廣大な地域に亘つて群生してゐるさまは實に壯大無比である。

また紅白の睡蓮が美しく咲き亂れてゐる池の面から群をなして飛び立つ紅鶴が、周圍の樹にとまつて時ならぬ
 花を咲かすのも北部地域や西オーストラリア州及びクインズランド州北部地方における一偉觀である。

濠洲には奇異な植物が非常に澤山ある。植物學者の説によると濠洲の植物は濠洲特有のものであつて、これら
 原始的植物は世界の他の國々にあつてはただ化石として存在するのみで、過去において嘗てその國に存在してゐ
 たことを示すにとどまつてゐる。ペーコンは「神は最初に花園を造り給うた」と云つてゐるが、その最初の花園

はこの濠洲であつたらう。大別して三千種の植物がまた幾種にも分れてゐて千差萬別の觀を呈してゐる。概して濠洲の花は明瞭と云ふよりも寧ろぼんやりとした色彩を帯びてをり、また奇異な形態をなしてゐることがその特徴である。

「焰木」はイラワラ風景に非常に特異な風致を與へてゐる。壯麗な花ワラタはカンガルと共に濠洲の象徴で共に種々の圖案に用ひられる。原住民はこの花の含んでゐる蜜を好んで吸ふ。

野の花ワツトルは濠洲の國花ともいふべきもので、密集して咲く黄色い花である。九月一日のワツトル・デーには老幼男女の多くはワツトルの花を胸につけ、食卓にもこの花を飾る。

第四節 植物の分布

概観 濠洲は熱帯、亞熱帯、濕帯に亘つてゐるので、無数の種類の草木が繁茂してゐることは容易に想像がつくであらう。しかし山岳は一體に高くないから、日本の高山に見るやうな植物の垂直分布の有様を示す林相の變化などは少しも現はれてゐない。

概括的に云ふと、植物は氣温と雨量とによつて明瞭な分布區域を作り、北部の高温多雨な地方には熱帯林があり、蛇木のやうな樹木性の大羊齒や椰子その他熱帯マライ地方に繁茂するものと同様な熱帯性樹木が鬱蒼として茂り、荊棘がその下にまはつて密林を形成してゐる。次に東部高地、南オーストラリア高地、西南隅高地等降

水量の適度な地方では樹木は森林を形成せず、下草も少なくなつて廣く展開された草原が現はれて來る。更に雨量の少い内陸に入れば樹木は漸次減じて大草原が連なり、更に奥地に入れば西南高地に連なつて砂漠地帯を現出するので、この乾燥地帯では、草木はますます疎で、僅にスピニフエックスと稱する特殊な草が點在するだけで足りないのがある。

東北海岸は他の地方よりも植物が多いが、これは一部は天然の狀況が然らしむるによるのであらうが、また一部はメラネシアの植物が多數この地方に移殖したのにもよるのであらう。クインズランド州北部海岸の植物は海峡を距てた對岸のニューギニア海岸の植物と殆んど同じである。しかしこれらの植物は沿海地方に限られてゐて乾燥した奥地までは及んでゐない。

主山脈を越えて奥地へ入ると純粹な濠洲植物が見られる。或地方においては木材用森林は實に鬱蒼として繁茂し晝なほ暗い程であり、濠洲の「暗黒林」と稱するも當を失してゐない状態を現出してゐる。ヴィクトリア州のジブスランドは世界最高の樹木の繁茂するところと云はれてゐる。そこでは巨木が美しい森林を形成してゐて、見ざるものは語る資格なしで「百聞一見に如かず」の情景を呈してゐる。

地域的分布状態 熱帯森林が濠洲の熱帯地域たる北部即ち北部の河川に沿ひ、殊にクインズランド州の東北海岸に繁茂してゐるのは當然である。ゼラルドン附近は濠洲中で降雨の最も多いところであるから野葡萄、ラズベリー類等の莖竿を有する植物や、熱帯地方産の葛、葛等の纏繞植物が繁茂してゐるので、立つて歩くよりは四つ這ひで「くぐつて」行く方が容易なことは私が親しく經驗したところである。この地域の森林は大部分が軟樹か

らなつてゐる濠洲特産のユーカリ樹は比較的少く、「軟樹叢林」として知られてゐる稍々同質の樹木からなる離在林（主體林から離れてゐるもの）が遙か南部のニュー・サウス・ウェールズ州の東北部まで及んでゐる。これ等熱帯森林は降雨量三〇インチ以上の海岸沿ひの熱帯地域中に不規則に散在して、その面積は未だ精確には測定されてゐない。

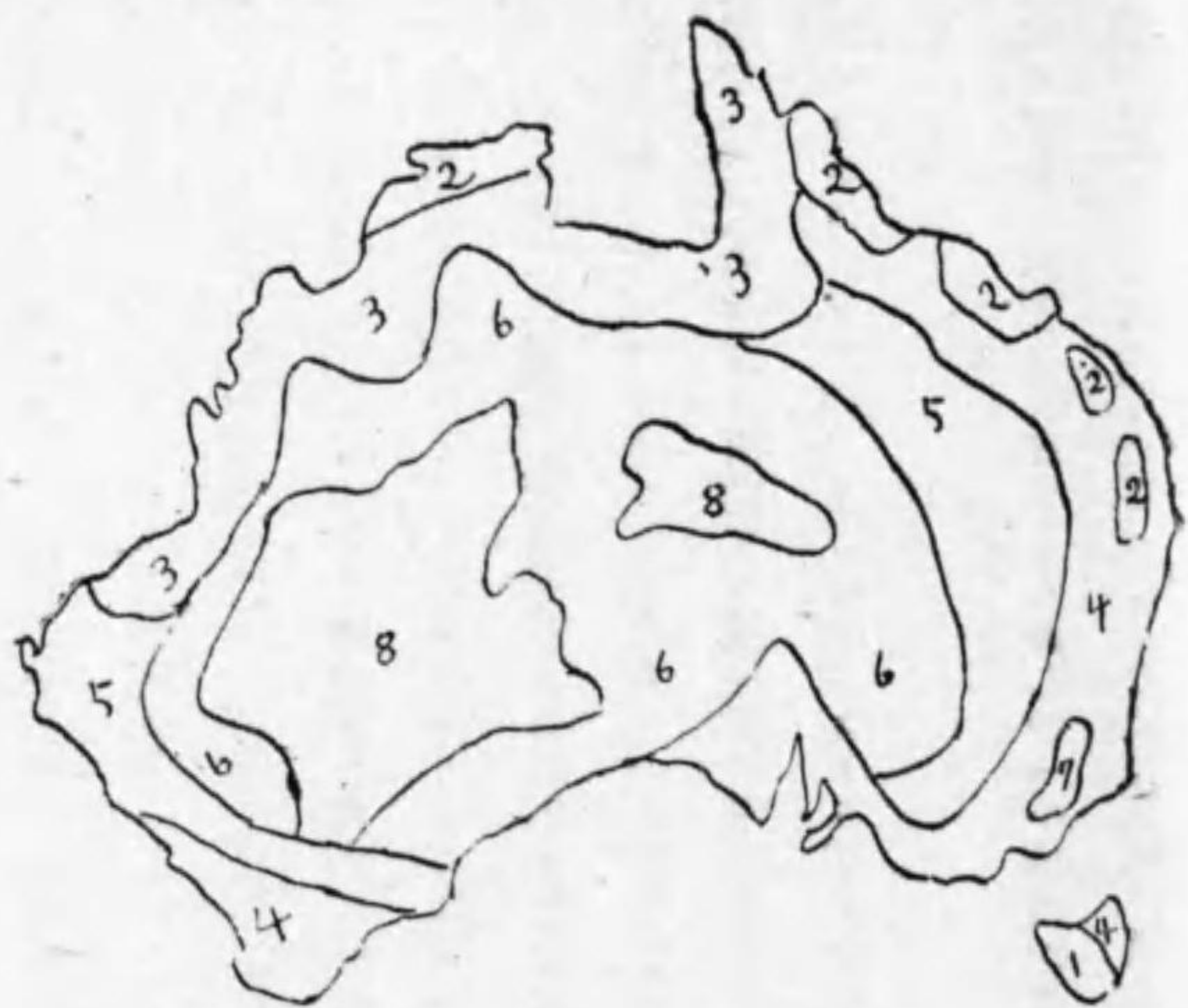
ユーカリ樹の大森林は大陸の西南隅と東部の降雨多量な海岸地方にある。或地方ではジブスランドにおけるが如く鬱蒼たる森林となつてゐるが、一般には少し許り下生への灌木叢をもつた廣闊な林野を形成してゐる。そのためこれ等の地方では草が可なりよく繁茂して牧畜には極めて適してゐる。

これ等の森林は日本やヨーロッパで見るとやうな日光が地面を照らすことのない松柏の密林や簇葉が蔭を作つて文字通り晝なほ暗い檜林やぶな林とは非常にちがつてゐる。かく云へばとてユーカリ樹が木蔭を與へないといふのではない。ユーカリ樹のうちには非常に廣い葉を持つた種類のものも澤山あつて、疲れた身に憩ふ木蔭を與へるものもある。

乾燥地帯に近づくにつれて大樹は層一層孤立し、水流に沿ふた地方だけにゴム樹が、云はば前衛のやうに、立ち列んでゐるが、これは河が降雨と同じ役をつとめてゐるからである。

河川から離れるにつれて知らず識らずの間に、いつしか森林は林野となり林野は草原と變る。

第二〇圖において草原の外部地帯及び森林地帯として分類されてゐる地域は降雨の關する限り農業に適した地域である。實際、樹木地帯は多くの場合草原よりも農業に適してゐる。従つて最良の農業地は“ring-barking”



第二一圖 植物分布地域

- 1 温帯密林
- 2 マライ植物性の熱帯林
- 3 樹木稀に散在せる大草原（草と熱帯樹木繁茂す）
- 4 ユーカリ樹林
- 5 大草原
- 6 矮生灌木、アカシア、草、土着飼料灌木
- 7 高山地帯常ヒース、苔、矮生ゴム樹
- 8 不毛沙漠、スピニフェクス、マルガ等

（樹幹に環狀の切り目をつけて樹皮を剝くこと）と“burning-off”（焼き拂ひ）の洗禮を受けた開墾地である。かくの如く樹木を枯死させたり焼き拂つたりすることは勿體ないことであるが、農耕の準備としては必要上止むを得ないことである。

農業家の長年の經驗によると、南部では年雨量一五インチ以下の地域でも穀類栽培が可能であるが北部での農業可能區域は乾燥中心地より遙かに離れてゐる。しかし

濠洲の熱帯地域では海岸線に沿つた狭い縁以外では農業は營まれてゐない。

東部の一〇インチ等雨線内の地域は低地大草原（ステップ）と高地ステップとに分れてゐて、前者はエア湖盆地を含み、大部分不毛な石原か或は鹽分含有灌木が幾らか生えてゐる瘠瘠質土壤（砂又はその他の不純物と混

合した粘土)から成つてゐる。後者即ち地高ステップは中部濠洲の高地を含み、そのところどころに草が繁茂してゐる。[マルガ] (Mullga) と呼ばれるアカシア属の叢林がある。

樹木が稀に散在する大草原や無樹木の大草原の大部分とマルガ叢林のある或部分とは、十分な牧場を各家畜に與へれば牧畜に適してゐる。しかし乾燥期には一〇インチ等雨線内の家畜食物の供給は非常に不十分になるからもつと乾燥してゐない地方に家畜を全部移す必要がある。

草原地帯と準沙漠 アメリカでは降雨量一二インチ以下の地方にデザート (Desert) といふ語を用ひてゐる。

雨量一〇インチ以下の土地でも牧畜は可能であるから、濠洲の一〇インチ等雨線内に横はる地域にもこの語を用ひてよからう)との間に土産の鹽分含有灌木や青色灌木が繁茂してゐる。これ等は兩方とも濠洲の年雨量一〇インチ以下の地方の特産で、その多肉多汁の葉は青みがかった特殊な灰色をしてをり、羊が好んで食べるものである。この地帯には單調な荒野が散在してゐるだけで、風は平行に列んでゐる峰に砂を吹きつけ、生えてゐる植物は針金のやうな「マルガ」と刺ある「ハネカヤ」(Porcupine Grass) だけである。この地域には牧畜の可能性は全然ない。この地方を横断する探検者が用ひるだけの水と家畜飼料のあるのは冬季だけである。しかし北部地域と西オーストラリア間、及び南オーストラリアのハーゴットとクインズランド州間には永續的な家畜通路が作られてゐる。

高度が植物に影響を及ぼすこと甚しい一小地域が濠洲にある。大陸の東南に聳ゆる濠洲アルプスに於いては土地が樹木線以上に上つてゐて、ここでは雪が解けると高山植物が現はれる。しかし頑丈な「山ゴム樹」は五、〇

〇〇呎のところまで生えてゐるので、高山地域は極めて小さく經濟的には殆んど影響を及ぼしてゐない。

第五節 森林地帯

森林地帯の大別 概して云ふと温帯北部の雨量三〇インチ以上の地域と熱帯に屬する雨量七〇インチ以上の地域とが主な森林地帯で、これを更に細別すると左の通りである。

- (一) 西オーストラリア州西南海岸地方の北部の南緯三〇度の地點まで達してゐる地域。
- (二) ヴィクトリア州南部オットウエイ地方、同州東部一帯及びマレー河岸森林地帯。
- (三) ニュー・サウス・ウェールズ州とヴィクトリア州との州境山岳地帯。
- (四) ニュー・サウス・ウェールズ州とクインズランド州の海岸地方。
- (五) マレー河北部地域からクインズランド州に到る大分水嶺の西部地帯。
- (六) タスマニアの西半部。

西オーストラリア州の西南海岸地方は美林をもつて覆はれ、産出する材木は皆普通ゴム樹と呼ばれてゐるユーカリ樹で、パースからオールバニーに至る線の西にある森林は八、〇〇〇、〇〇〇エーカーに亘り、年六〇、〇〇〇エーカーづつ伐採しても三十年間は繼續出来ると云はれてゐる。材質は頗る堅牢で良質なので鐵道枕木や道路舗装用として用途が非常に多い。同州の最南端のブラックウッド河とオールバニーとの中間地帯に密生するものは高さ九〇メートル、直徑五メートルに達する巨木も少くない。この外海岸地帯には高さ五二メートル内外に

達するユーカリ樹が生育し、ダーリング山脈の東腹にもユーカリ樹が繁茂してゐる。
ヴィクトリア州の東部高地と、山脈の斜面にはユーカリ樹、海岸山脈の走つてゐる濕潤な地帯にはアカシヤ
屬の樹木繁茂してゐる。

ニュー・サウス・ウエールズ州ではユーカリ屬の各種の樹木が廣く分布して生育してゐるが、ただ青ゴム樹、
ターペンタイン及びマホガニー等は海岸地帯に、白蟻の害を蒙ることのない軟木サイプレス・バインは西部高地
に繁茂してゐる。

クインズランド州では森林地帯は海岸地方に限られ、クツクタウンからタウンズヴィルに至る地域には松類杉
類、檜類の軟木と中間木、東部高地には堅木ユーカリ樹が繁茂してゐる。

タスマニア島の東部にもユーカリ樹の美林があるが、主なる森林地帯は西半部で、ここには中間木の樺や軟木
の松類が繁茂してゐる。

森林面積 森林面積に就ては正確な數字を得ることは困難であるが、大體原始林の面積は左の通りと推定され
てゐる。

第六三表 州別原始林面積と比率表（比率は州面積に對するもの單位一萬エーカー）

州名	面積	比率	州名	面積	比率
クインズランド	六〇〇	一・四〇	ニュー・サウス・ウエールズ	四〇〇	二・〇二
ヴィクトリア	五五〇	九・七八	西オーストラリア	三〇〇	〇・四八

タスマニア	五〇	二・九八	北部地域	未詳	未詳
南オーストラリア	五〇	〇・二一	計	一、九五〇	

第六四表 州別森林面積表（單位エーカー）

州名	官有林	民間林	合計
ニュー・サウス・ウエールズ	五、一八〇、〇〇二	一、三七一、七八三	六、五五一、七八五
ヴィクトリア	四、八一八、一八〇	未詳	※四、八一八、一八〇
クインズランド	二、八五九、三九四	三、三〇九、〇一五	六、一六八、四〇九
南オーストラリア	二六八、四三九	未詳	※ 二六八、四三九
西オーストラリア	三、一九六、九九九	二、一七一、九六一	五、三六八、九六〇
タスマニア	一、四六八、五三五	九五〇、〇〇〇	二、四一八、五三五
計	一七、七九一、五二九	七、八〇二、七五九	二五、五九四、三〇八

（註）※印は未詳分を除く

右二表中には北部地域が含まれてゐないから、これを加へればもつと増加する。

第六節 林業の發達せる主要州と林業の將來性

林業の發達せる主要なる州 今日までに商業的に林業が最も發達せる州は西オーストラリア州とニュー・サウ

ス・ウェールズ州で、前者は一年に五〇〇、〇〇〇磅以上の材木を輸出し、後者もその三分の一ばかりを輸出してゐるから、この二州を代表州としてもつと詳細に述べて見よう。

兩州から輸出される材木は殆んど皆ユーカリ樹であるが種類は全く異つてゐる。例へばニュー・サウス・ウェルズ州に於いてはアイアン・パーク、タロー樹、青ゴム樹が主要な樹木であるが、西オーストラリア州に於てはジャラー樹とカリ樹が主要樹木である。

西オーストラリア州の材木 本州でも他の地方に於けると等しく、樹木の分布は主に氣候に支配されてゐる。本州の森林地帯は東は沙漠によつて境され、北に擴がつて南緯三〇度のアーウィン河附近まで達してゐる。三〇、〇〇〇平方哩に亘る廣大な堅木樹林より成つてゐる。この森林地帯ではジャラー樹とカリ樹が最も重要なものであるが、その他にも非常に價値ある種々の樹木が繁茂してゐる。例へば海岸に沿つてテュアート樹の繁茂した狭い地帯であるが、この樹木は高さ一六〇呎、根元近くの直徑七呎ある。この樹は渦卷いた木目をしてゐる堅牢なので、框製作に特に適してゐる。

ジャラー樹の大森林帯は首都バースと南岸のオールバニーとを結ぶ線の西方、主にダーリング山脈の東側にあつて、その地域は八、〇〇〇、〇〇〇エーカーと見積られ、毎年約六〇、〇〇〇エーカーくらゐづつ伐採されてゐるから約三十年間の供給は充分と見積られてゐる。ジャラー樹はカリ樹のほど大木ではないが、最も美しく且つ耐久性ある樹木の一つである。この樹は殆んど船喰蟲の害を蒙むことなく、風雨にさらしにし或は地中に埋めても、或は潜水艦に用ゐても殆んど五十年變化せずゐることが證明された。鋪道用、鐵道枕木並に薪材として

て恐らく他に比類のないほど優秀なので、輸出材木中遙かに他を抜いて王座を占めてゐる。

カリ樹森林は本州の南部ブラックウッド河とオールバニーにあつて、最良の森林はウォレン河盆地に一、〇〇〇、〇〇〇エーカーの地域を占めてゐる。この樹は高さ二〇〇呎、根元の直徑一〇呎に達し、樹質は非常に堅牢で弾力性があるので橋梁、柱、軸等に好適である。

ダーリング山脈の東側にウオンドゥー樹とヨークゴム樹との貴重な二森林がある。これ等の樹木は前述の樹木よりは小さく、高さ七五呎、直徑二〇インチくらゐであるが兩方とも非常な堅木で、前者は主として鑛山の支柱に用ひられ、兩方とも一般の車輛製造に適する。

第六五表 西オーストラリア州に於ける各樹木の面積表(單位エーカー)

樹木名	面積	樹木名	面積
ジャラー	八、〇〇〇、〇〇〇	テュアート	二〇〇、〇〇〇
ウオンドゥー	七、〇〇〇、〇〇〇	ヨークゴム其他	四、〇〇〇、〇〇〇
カリ	一、二〇〇、〇〇〇		

同州の森林管理委員は、同州の森林價格を一二四、〇〇〇、〇〇〇磅と見積つてゐる。

ニュー・サウス・ウェールズ州の材木 本州の森林地域の地文學は他のいづれの州よりも明瞭にされてゐる。本州の森林地帯も降雨量によるところが極めて大である。一〇インチ等雨線は森林地帯の西の限界を定め、二

○インチ等雨線は高地森林の西部限界を決定してゐる。

北部ではニュー・イングランド高臺地の東側に特に興味ある灌木叢林地帯がある。しかし本州に於いては各種の樹木がそれぞれ全然一地方に限られてゐるのではない。アイアンバークは森林地帯の北部と東部との全體に亘つて見出され、グレーボックス(灰色ゴム樹)も同じく廣く分布してゐる。しかし、エロウボックス(黄色ゴム樹)は分水嶺の西側を好み、ストリンギーバークは東部に最も普通であり、アルーゴム、ターペンタイン、マホガニー等は海岸地帯に限られ、マレー赤ゴムは河川地域にのみ繁茂してゐる。いとすぎ松は森林が散在してゐる西部平野の特徴である。

最も特徴ある地域は北部森林と呼ばれてゐる地域である。ここには肥沃な土地を作る古代熔岩(玄武岩)の最大地域があつて、これがこの地方の多量な降雨と相まつて、本州のいづれの地方におけるよりも遙に繁茂した森林を作り出してゐる。この地域には非常に廣範圍に亘つて主として軟樹よりなる亞熱帶植物が繁茂してゐる。それ等の樹木のうちで最も價値あるものは頗る壯麗な赤杉で、裝飾細工上非常に高價な材である。その他の樹木では檫木(香氣ある堅牢材)、ゆりの木である。アルー山脈の玄武岩丘に生えてゐる黄樟と黄木は指物細工に用ひられる。

J・H・メンドン氏作製の次の表は、これ等の樹木の經濟的特徴を示してゐる。

第六六表 各樹木の特徴と用途表

樹木名	特徴	用途
アイアンバーク	堅牢にして耐久性あつて重し	桁、梁、框、車軸
ストリンギーバーク	裂け易し	柵、建築材、枕木
マホガニー(ブラツクベツト)	堅牢にして耐久性あり	舗道材、建築材、枕木
タロウウツド	耐久性あり、脂肪多く、滑かなり	甲板用材、桁、梁、枕
グレーボックス	堅くして木目疎なり	建築材、槌類、枕木
アルーゴム	木目眞直にして細工し易し	建築材、板
ターペンタイン	腐蝕せず、白蟻の害を蒙ることなく、不燃焼	枕、枕木、舗道用
マレー赤ゴム	堅牢にして耐久性あり、白蟻の害を蒙らず	枕、土臺、舗道、枕木
サイプレスバイン	耐久性あり、香氣あり、白蟻の害を蒙らず	裏材、框
赤シイダー	軽く、細工し易く、美材	家具、指物
薔薇木	薔薇の香氣あり、細工材に好適	家具、箱
チネーリツプウッド	堅くして木目美し	指物、玉突臺
サツサfras	軽くして香氣あり	家具、箱
エロウ・ウツド	堅くして、木目細かく、ぶなに似たり	指物

本州の面積の十分の一(約二〇、〇〇〇、〇〇〇エーカー)が森林地帯と見積られてゐるが、この森林地域の半分以上が濕氣ある海岸地帯にある。

本州の材木は、桁梁用のアイアンバークと枕木は英國とニュージールランドに、舗道用及び枕木用のタロウウツ

ド、ターペンタイン、ブラックバットはニュージーランドとドイツに、裝飾用ローズウッドはドイツに輸出されてゐた。

本州のアイアンバークは恐らく世界最堅木で最も耐久性のあるものの一つであらう。

材木輸出に就ての土地局の報告である次表は、枕木及び橋梁材としては本州の堅木がヨーロッパ材よりも遙に優秀であることを示してゐる。

第六七表 各種木材の耐久年限表

材名	枕木としての耐久年限	建築材としての耐久年限	材名	枕木としての耐久年限	橋梁材としての耐久年間
アイアンバーク	二五年	三〇—四五年	ストリンギーバーク	一八年	
マレーゴム	二〇年		ブラックバット	一六年	二〇—三〇年
タロウツド	二〇年	二〇—二五年	ターペンタイン	一六年	

林業の將來性 濠洲はその地積の大なる割合に森林地帯が極めて少い國で、ニュージーランドとは正反對である。濠洲において森林地帯が國土に對して占める比率は極めて微少で僅か一分に過ぎないが、資源的には林産國と云ひ得るであらう。ただ濠洲の樹木は主として堅木であるため、一部の特殊堅材を輸出してゐるだけで寧ろ木材の輸入國である。殊に建築用材、バター箱用材等の軟材は大量輸入してゐる。

しかし最近勃興したバルブ工業を始め代燃車用木炭等の用材に對する需要が急激に増加したのと、海外からの

輸入困難とから、自給自足を餘儀なくされてゐる。

この國が大東亞共榮圏内の一環となつて勞働力と設備が充實した時には、この國の林業は發展して大東亞に貢獻するところが多大となることは確實である。

濠洲にもニュージーランドにも價格の高い多種類の木材があるのであるから、適當に保護され管理よろしきを得たならば濠洲の林業は有望な未來を持つことにならう。植民當初は鬱蒼と繁茂してゐる巨木を濫伐したものであるが、現在では國內用、輸出用兩方面の需要に迫られ、政府は州林を保存することに多大の努力をしてゐる。西オーストラリア州、ニュー・サウス・ウェールズ州、タスマニア州、クイーンズランド州には數百の整備した製材所がある。木材の年産額は二、二五〇、〇〇〇磅で、輸出高は平年に於ては一、〇〇〇、〇〇〇磅であつた。商業價值のある木材の多くは東部海岸地帯、西部海岸地帯の一部及び奥地數ヶ所に限られてゐるが、西オーストラリア州の材木の項で述べた通り、南緯三〇度から三五度の間には三〇、〇〇〇平方哩以上に亘る世界最良のジャラー樹の壯麗な森林地帯があり、また亭々たる白ゴム樹、赤ゴム樹、ヨークゴム樹、白檀が鬱蒼と繁茂してゐるのであるから、濠洲の林業は將來有望なりと云つても過言ではあるまい。

第八章 水産業

第一節 魚類其他

海産物 濠洲は本質的には牧畜業に好適の地であり、その製品が濠洲の富の主體を構成してゐるのであるが、其他の産業に於いても開發する餘地が十分にあることは勿論である。海國に育つて水産業に通じてゐる日本人がこれを開發したら非常に目覺しき發達を遂げ、その製産品が世界市場に急進出するに至る將來性のあることは毫も疑ふ餘地はない。

現在濠洲聯邦中の各州はそれぞれその海岸に於いて食用魚類の捕獲を増進せんと努力してゐるが、未だ頗る小規模のものばかりで見ると見るに足るべきものはない。

濠洲の東部海岸線は凹凸してをり、その海岸から餘り離れてゐないところに高地帯が海岸線と並行に走つてゐる。海岸には遮蔽灣が連続してゐるが、その多くはシドニー港の如き溺谷である。溺谷は多數の良港や遮蔽灣を形成してゐて、その附近では殆んど無盡藏の魚類が四季を通じて捕獲し得られるので、濠洲の東海岸は水産業に好適である。

北部海岸線に沿ふて「大堡礁」と呼ばれてゐる特殊の珊瑚礁が存在してゐることは既に述べた通りであるが、この大堡礁の間に淺くて温暖な水域があつて、そこは龜、海鼠、眞珠貝を始めその他貴重な魚類の繁殖に最も適してゐるのである。

かく水産物繁殖に好適な環境——即ち溺谷と廣大な地域に亘つてゐる淺い珊瑚海——は普通の地形變動の結果であつて、多分濠洲中部の形成と關聯してゐるのであらう。(一九〇七年、アデレードの濠洲聯邦協會發行、ヘドレー、テイラー共著、「珊瑚礁」による)

赤道から南北へ同緯度にある海域に棲息してゐる魚族には共通な相似性があると云はれてゐる。それで日本の南海即ち北緯三〇度から三五度までの海に鯛類が多いやうに、南緯三〇度から三五度附近、即ちシドニー近海にも鯛類が多い。その他の魚類も日本近海のものに類似してゐて、食用種として千二百種類ものが挙げられてゐる。その中で主なものには鯛、鯛、ひらめ、かれい、ほうぼう、鯛、鯖、鮪、ぶり、かます、さより、白魚、鯉、かつを、あぢ、鮫、えび等である。

ニュー・サウス・ウェールズ州の海岸は赤道から餘り距つてゐるので眞珠貝や海鼠、海龜採取等の熱帯水産業は全然行はれてゐない。且又、ニューフォンドランドや北海漁業の發達に貢献した大銀行の支部もないので水産業は頗る振はず、冷凍魚や罐詰類は少量に輸入せられ、同州で捕獲される量を遙に凌駕してゐる。しかし政府調査員の報告や殊にトロール漁業に従事したフランク・ファネル氏の報告によると、貴重な資源が豊富に存在してゐるのである。同氏は次のやうに云つてゐる。

「この海岸地方で捕獲したる魚類は質もよく量も多くて、商業上にも充分採算がとれることを確言するに躊躇しない。九十種以上の魚類を捕獲したが、その中には、まと鯛、眞鯛、比目魚、鰈、したがれい、かすべ等があり、……英國ではこの業に二〇〇、〇〇〇人以上の従業員と二五、〇〇〇隻の船を使用し、平均年産額數百磅に上つてゐる。」

濠洲には獸肉類が非常に有り餘る程豊富にあるので、濠洲人は獸肉類を主食とし魚類は餘り食べないから、漁業は全く振はず、従つて値段も非常に高い。最近の濠洲年鑑によると、濠洲での一人當り漁類消費高は僅に一二三

封度である。金額にして一シリリング六ペンスに過ぎず、英國での五シリリングにも遙に劣り、日本とは到底比較にならない。現今、濠洲で捕獲されてゐる魚類の年總價格は一、五九五、〇〇〇磅で、輸入がほぼ同額。一、五四一、〇〇〇磅であるのを見れば、濠洲の漁業がいかに微々たるものであるかは容易に想像される。従つて魚類肥料や魚油製造は全然行はれてゐない。ここにも人的資源の不足と高給を得て安逸に耽る濠洲労働者の我儘との結果が現はれてゐる。

目下最も商業的價值ありとされてゐるのは海ほらと稱する大きなほらで、各州で捕獲されるが南緯二五度から三七度の間に最も多い。この魚は鱈詰、燻製、鹽漬、干物等にされ、その卵は「鹽から」となる。この魚は夏季の終り即ち二月末頃から數團の大群が季節を異にして各自の産卵地へと北上するが、南部地方の灣では三月、北へ行くに従つて後れ、クラレンス地方では六月に産卵するといつた風に、各地方によつて産卵期が違つてゐる。ほらの子は十八ヶ月間河口に留り、それから海に出るのでこの期間が最良捕獲期である。四年経て成魚になり、雄魚は一五インチ、雌魚は二〇インチくらゐになる。

一九三八年の初めに聯邦政府とニュー・サウス・ウェールズ州政府は共同して、東海岸及び南海岸即ちクインズランド州の北部からタスマニアの南部までの海岸を調査し、多種の鮪が澤山棲息してゐることを發見した。鮪の鱈詰はアメリカで需要が多いので、その捕獲と輸出に政府は相當な努力を拂つてゐるが、この事業はまだ微々たるもので幼稚の域を脱しない。

濠洲で最も重要な魚類中の一は鯛屬で、そのうちの一種である眞鯛には非常に大きなものもあつて、濠洲全魚類

中最もよく知られ且つ最も珍重され、マレー鱈、ひらめ、かれいと共にレストランでは上等品とされてゐる。或季節には濠洲の海岸は各種の鮪群が豊富で、それが一年の後半六ヶ月間北上する。

ビルチャード（鰯或は鮪に類似した魚）が最も貴重であるが、鰯（サーディン）は多量で、鰯鱈詰の輸出業が各州で盛んに行はれてゐる。

針魚類の中では沖さよりが最も美味で、特殊の細目網で多量に捕獲される。

その他鮪、鰯等も海岸に集まる。また海老類も豊富で、特にタスマニア近海でとれる南洋海老はわが國の伊勢海老の大きいもので味もほぼ同じである。ニュー・サウス・ウェールズの近海でとれる緑色の伊勢海老は重量一四封度もある。また南緯三六度附近には車海老が澤山あつる。

政府は牡蠣の養殖を奨励してゐるのでその産額は近年増加したが、ニュー・サウス・ウェールズ州、クインズランド州、南オーストラリア州以外は擧げるに足りないほど微々たるものである。

濠洲人の食はない海産物 章魚、烏賊、貝類並に海藻類は濠洲人は全然食べないので、これ等を捕るものもななく調査も行き届いてゐないから詳細は不明であるが、多量にゐることは想像出来る。著者が魚釣に行つた際、章魚が數匹かつたことは毎度であつた。

ただ貝類のなかで帆立貝だけはタスマニアで可なり多量に採取されてゐる。

海藻類には昆布よりも大きいエッスニヤと云ふ海藻、その他各種のかぢめ類が主として南半の沿海に生じ、北半の海岸には珊瑚藻植物が多い。

淡水魚 淡水魚中最も重要なものはマレー鱈で、百封度の目方に達するものがゐる。鱈はニュー・サウス・ウェールズ州西部の河川には大抵ゐる。この魚が真鯛と共にレストランで上等なものとしてされてゐることは前に述べた通りである。

すずき はニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州、タスマニア州の河口に繁殖し、釣魚家を喜ばしてゐる。

ニュー・サウス・ウェールズ州、ヴィクトリア州、タスマニア州の諸川、殊にニュー・サウス・ウェールズ州の南部、ヴィクトリア州との境界近くに聳ゆる濠洲第一の高峰コシアスコ山附近の河川における鱈の馴化は成功を収めてゐる。鱈の一年子或は二年子の幼魚が放飼されてゐる河川の数は一四〇以上に上り、主なる中心地は南部ではスノウイー河のクーマ、ヤランゴビリー河のチュマツト、西部ではフィッシュユ河のタラナ等、北部ではナモイ河上流のウォルチャ等であるが、アーミデールやグレン・インズ附近の河川も釣魚家を喜ばしてゐる。

その他鱈もゐるが、濠洲人は全く食べないので、随分大きなのがゐる。私は鱈や鱈釣に行つた際に周囲一〇インチ以上のものを釣つて持ち帰り、ひやかされたことがある。

水産業とは関係のないことであるが、濠洲の生物は著しく原始的な點に於いて他の大陸の生物と異つてゐるから、海や河川に棲む特異なものを序にここに挙げて置く。

クインズランド州の北部にゐる大鱈は三〇呎に達するものが居り、北部地域の奥地にある浅い沼澤には六呎くらの小さいものがゐる。

鱈は非常に多く、シドニー市近海では海水浴場には沖に金網を張つて鱈の侵入を防いでゐる。こんな設備のない海での水泳は危険である。鱈が金網を破つて侵入して人を食つたり、波乗りをしてゐる人を襲つた悲劇を私は殆んど毎夏見聞した。

クインズランド州のバーネット、メリー兩河の泥中に棲む肺魚セラトダスは、魚類と兩棲類間の轉移を明かにしてゐるもので、古代からの僅少な生残魚の中に挙げられてゐる。

濠洲の魚は概してすれてゐない 前に述べた通り濠洲人は魚は餘り食はず、また娯樂も外に澤山あるので釣魚に行くものが少いからか、魚は概してすれてゐなくてよく釣れる。私は度々土曜日にシドニー灣内へ釣に出かけたが、午後二時頃から六時頃までの間に、陸釣りで小鯛を四、五十尾釣つたことも決して珍らしくない。その際章魚も二、三匹釣れた。

第二節 海鼠 海龜捕獲業及び捕鯨業

海鼠と海龜 前述の通り濠洲の漁業は餘り振はず、ただ現在産業として比較的有效に行はれてゐる水産物の主なる富源は眞珠貝を主とし、海龜と海鼠がこれに次いでゐるだけである。これ等の採取は北部と西北海岸の熱帯地方で行はれてゐる。

河川地域からカーペンタリア灣に至る西部平原地方が徐々に高まつてゐて、鮮新世及びその他の後年の第三紀構成を海拔數百呎に上げ、たまたまエイア湖とマグドネル山脈の排水系統を變へてゐる間に、東部に於けるそれ

に相當する地域が海中に没して出來たのが濠洲東部沿海である。

この地域では海水が温暖な範圍即ち南緯二八度以北では珊瑚虫が彼等の石灰質の植民地を建設するが、海面上に大障壁を築くのではなくて、各珊瑚礁が一哩乃至二哩の浅い海で距つてゐる一連の個々の珊瑚礁を形成し、この一連の珊瑚礁が「大岩礁」の大塊の上に居を占めてゐるのである。この「大岩礁」は一部は大陸から續いてゐる岩床と、一部は海中に没した他の珊瑚礁から出來てゐる。

これ等一連の珊瑚礁は多くの場合、ただ干潮時のみその姿を海面に現はすのである。海鼠、海龜捕獲業が行はれてゐるのはこれ等隔離して散在してゐる珊瑚礁の間である。

珊瑚礁の上のなまぬるい水中を徒渉すると、黒褐色の海鼠はそれを踏むことを避けるのが困難なほど無數にゐる。大きな胡瓜に似た黒褐色の動物は珊瑚礁の上をのろのろと匍つてゐる。種類は澤山あるが、食べられるものは數種だけである。防禦物を持たずしかも動作遲鈍のこの動物は、黒人によつて千をもつて數へるほど多數容易に捕獲される。

捕獲された海鼠は暫く煮られてから臟腑を抜き取られ、次に乾かされてから二十四時間燻火屋で燻される。燻されると海鼠は原形の三分の一に縮まり、固くて革のやうになる。

クインズランド州の北部海岸地方では海鼠は屢々スープに用ひられることがあるが、その他の地方では全然食用に供せられてゐない。

燻製海鼠は大部分支那に輸出される。濠洲産燻製海鼠は支那市場では非常な高評を博し、他國産のものよりは

高價で取引され、一噸一六〇濠洲磅もしたことが時々あつた。百隻内外の小船がこの業に従事し、平均輸出年額は二三、〇〇〇濠洲磅である。しかし一噸の燻製海鼠を得るには四隻の船と二十人の勞力と一ヶ月間の日數を必要とするので、高率賃銀でしかも不足勝ちな濠洲白人勞働はその他の産業に振り向けた方が遙かに採算がとれるので、この業に従事してゐるものは殆んど全部黒人で、未だ微々たる業に過ぎない。しかし低率な勞働賃銀で經營よろしきを得たならば將來の發展性は大にあるものと思はれる。

海鼠がとれると同じ地方に大きな海龜が澤山ゐる。原住民は巧にこれをつかへ。海中でも捕へるが、雌は陸の熱した砂を掘つて産卵し海に歸るところを引つくり返して捕へる。龜の肉と卵は原住民の主要食物で、甲は鼈甲とされる。

捕鯨業 捕鯨業は一八三五年頃までは輸出業として重要な位置を占め、初めはニュー・サウス・ウェールズ州とタスマニア州、續いて西オーストラリア州海岸で盛んに行はれたが、いつしかニュージーランドに移り、一八三五年頃までの十年間に急激に衰退し、現在では殆んど終熄状態にある。これは幼獸を濫獲したことと高賃銀の濠洲勞働者を使つたのでは收支相償はなくなつたからである。本業も日本人が經營して濠洲及びニュージーランドを本據として遠く南洋の大洋に遠征捕鯨に出かけたなら、充分盛大になる可能性がある。

第三節 眞珠貝採取業

眞珠貝採取業は最も主要な水産業 現今水産業として比較的盛んなのは眞珠貝採取業である。眞珠貝採取業と

云へば銀色燦然たる珠玉を思ふ人があるが、濠洲の眞珠採取業には眞珠玉はただ副産物に過ぎない。大きな珠玉がとれるのは数千の眞珠貝中で一つとないと云はれてゐるが貴重な資源となつてゐる。最大の珠玉のとれた記録は一九一一年十月、ブルームで重量一七八グレイン（一グレインは〇、〇六四グラム）、價格三、〇〇〇磅のものであつた。しかし濠洲の眞珠採取業は眞珠母貝をとるのが主眼である。

濠洲近海の眞珠母貝は直徑二〇センチ位で、貝の厚みが相當あり、内面は眞珠色の光澤を帯びてゐるので、ナイフの柄やボタンの原料として貴重視されてゐる。わが國では小形の眞珠貝を黒蝶貝と云ひ、この大形のものを白蝶貝と云つてゐる。濠洲領海内の白蝶貝の分布區域は可なり廣く、南はホイットサンデー・パッセージから北は赤道以北に及び、西はブルームを中心とする地域から東はニューギニアに及んでゐる。そして眞珠貝の採取はクインズランド州、北部地域及び西オーストラリア州の熱帯水域で行はれてゐる。

眞珠採取業は一時は盛んであつたが、取引銀行の資金涸渇と有色人労働者雇用の難問題と眞珠貝減少のために多くの船は宙に迷ふて、一九二六年以來、この業は停頓状態に陥つた。そこで政府は補助金を下附して斯業の再興を奨励してゐた。専門家の意見によると、眞珠貝は極めて多産であるから數年間採取せずに置けば剝奪された岸に以前のやうに豊富に繁茂するだらうとのことであるから、残る問題は資金と労働である。斯業が日本人の經營に移れば、この兩問題も容易に解決されるから將來有望な業となる確實性がある。

濠洲全體の眞珠貝の産額は、一九三七—三八年度に於いては數量は二、八五四噸、金額は三一〇、六五五磅の他に眞珠玉が四、一一一磅であつた。

クインズランド州と北部地方の眞珠貝採取業 クインズランド州の眞珠貝採取業は熱帯水域に限られてゐるの

で大堡礁を中心としてゐるのは勿論である。本部はトレス海峡中のヨーク岬の西三〇哩に横はる木曜島にある。

ここを本據として大堡礁の北部限界までの海岸沿線とトレス海峡北方のニューギニアまで採取船が出てゐる。またカーペンタリア灣内遙か南部のスキーマ島までも眞珠貝のあることが證明されてゐる。現今眞珠貝の大量が採取されてゐる平均水深は七、八尋（四五呎）であつて、採算がとれる最大限度の水深は二〇尋とされてゐるが、この水壓の下で長時間の作業に従事し得る潜水夫も多少ある。この業に従事してゐる船は百噸級で、本州海岸には三百隻ほどあつて従業員は二千名内外であり、戦前までは日本人潜水夫も多數行つてゐて、木曜島には日本人クラブもあつた。一隻の船の收穫月額は平均一、八〇〇磅内外と云はれてゐる。トレス海峡で主として採取されてゐるのは眞珠母貝で、主に日本人等アジア人の雇傭船員及び潜水夫がこれに従事してゐる。

本州で盛んに採取されてゐる頃の年産額は九二、五七六磅であつて、この内日本人潜水夫の採取した金額は二五、〇〇〇磅と見積られてゐる。

北部地域のポート・ダーウイン附近でも相當に採取され、日本人潜水夫も多數行つてゐた。

西オーストラリア州の眞珠貝採取業 本州ではブルームを中心としてをり、ブルームよりは劣るがコサツク及びオンスローでも採取されてゐて、最盛期には本州から價格四二〇、〇〇〇磅の貝が輸出され、従業した船は四百隻で従業員は三千人餘であつて、本州でも日本人を主としたアジア人が主な従業員であつた。ブルームから遙か南のシャーク灣は小さい種類の眞珠貝の棲息所であつて、その需要は少く、クインズランド州のものよりは低

廉であるが、この小さい貝には眞珠玉をもつてゐることが大きい貝よりも多くその玉質もよい。近年シャーク灣へ西北地方から大眞珠貝を移植することに成功し、目下大貝が盛んに生育してゐる。

第三篇 貿易 交通 運輸

第一章 貿易

貿易概説

由來濠洲は食料品及び原料品の大部分を英本國へ、殘餘の一小部分をその他の諸外國へ輸出し、工業製品の大部分を英國から、一小部分を諸外國から輸入する貿易政策を取つて來た。濠洲は人口が僅少であり國內市場が狹隘なので製造工業を興すことは極めて困難であるのに反して、廣大なる領土内には農牧に適するところが少ないので、この自然的好條件を利用して農牧業の發展を計り、また地下鑛産資源の開發に努力して來たのは頗る自然の過程であつた。

かくして濠洲は農、牧、鑛業の原始産業の生産物を輸出し、工業製品を輸入する原始産業國として發達して來たのである。

一九二八年から一九三八年に至る十年間の輸出品の比率を見るに、原始産業品は九五・七六%で、輸出總額の殆んど全部を占めてゐるのに、製造工業品は僅かに四・二四で、殆んど輸出されてゐないと云つてもよいくらゐである。

濠洲はかく工業製品の輸入國であるにも拘らず、工業製品の輸入に高率關稅を課し、通商條約や最惠國條款の精神を無視して輸入禁止に近い保護貿易政策を行ふてゐるのであつて、濠洲の輸出産業の殆んど全部が國家の保

護と奨励を受けてをり、關稅、輸出損失補償、輸出奨励金下附、鐵道運賃の割引、道路稅の免除、灌溉設備の補助等がその主たるものである。しかし政府がいかに國內産業の保護と奨励とに力を盡しても、現在の人口の過少と高率賃銀を食ふ我儘な労働者とは製造工業の發展は到底望まれないことであるから、濠洲が大東亞共榮圈内の一環となつて、アジア民族をして活動せしむるに至らなければ、工業製品の輸入國たることは到底免れ得ないのである。

第六八表 最近五ヶ年輸出入額表(單位千磅)

年 度	輸 出 額	輸 入 額	輸出超過	輸出額の輸入額に對する比率
一九三四—五年	九〇、六五四	七四、一一九	一六、五三五	一二・三
一九三五—六年	一〇九、三七二	八五、二五三	二四、一一九	一二・三
一九三六—七年	一二九、六六四	九二、六四一	三七、〇二三	一四〇・〇
一九三七—八年	一二五、八三八	一一三、九七五	一一、八六三	一一〇・〇
一九三八—九年	一一二、二〇二	一〇三、一五六	一〇、〇四六	一〇九・八

第一節 輸 出

濠洲の原始産業の生産物が輸出に於いていかに重要性を帯びてゐるかは、左表を一覽すれば明瞭である。

第六九表 産業別生産額及び輸出額品表(一九二八年—三九年の十ヶ年間平均單位千磅)

産 業 別	生 産 額	全生産額に對する比率	輸 出 額	全輸出額に對する比率	各産業別輸出額の生産額に對する比率
牧 畜 業	八六、四九三	二二・五一	五九、四六一	四九・六八	六八・七五
農 業	七八、六四四	二〇・四七	二九、五七七	二四・七一	三七・六一
鑛 業	二〇、二三七	五・二七	一三、四六三	一一・二五	六六・五三
酪 農 業	四六、四四一	一二・〇八	一〇、八一九	九・〇四	二三・三〇
林業、水産業	一〇、六〇八	二・七六	一、二九五	一・〇八	一二・一一
原始産業合計	二四二、四二三	六三・〇九	一一四、六一六	九五・七六	四七・二八
製造工業	一四一、八二六	三六・九一	五、〇七九	四・二四	三・五八
總 計	三八四、二四九	一〇〇・〇〇	一二九、六九五	一〇〇・〇〇	三一・三五

右表で見ると、原始産業生産額の順位は牧畜、農業、酪農業、鑛業、林業、水産業であるが、輸出額の順位は牧畜業、農業、鑛業、酪農業、林業、水産業であり、輸出額の生産額に對する比率の順位は牧畜業、鑛業、酪農業、林業、水産業である。

第七〇表 主要輸出品額表(一九三四—三九年の五年間平均單位磅)

品 名	輸 出 額	品 名	輸 出 額
羊毛	四八、七四三、五一一	卵	八六七、七一九
貿易			二九三

漢洲の資源と植民問題

品名	一九三七年	一九三八年	一九三九年
小麥及び小麥粉	一九、八七一、二八六		八四二、〇九九
金	一一、九一一、七三七		八〇七、三五六
バター及びチーズ	一〇、九八七、七〇三		七四一、四六七
肉類	一〇、三九一、四九二		七〇二、五四一
皮類	六、〇一四、三八八		四八三、一四六
果實	五、四〇六、九三一		三一〇、四二五
鉛	四、〇五七、四一二		二八六、〇八六
砂糖	三、四八〇、三五三		二五〇、九二二
各種精選鑽石	一、五六四、六六七		八、七六四、六二九
葡萄酒	九四三、八〇〇		一三八、二九八、五三七
亞鉛	八六八、八六五		
銀			二九四
ミルク及びクリーム			
木			
牛			
大			
石			
眞珠			
錫			
其他			
合計	一三八、二九八、五三七		

第七一表 主要輸出先國別及び輸出額表(單位磅)

輸出先國名	一九三七年	一九三八年	一九三九年
英國	七八、六五九、六一一	五五・五二	六六、七二四、八〇七
英屬領合計	一八、六四四、一二〇	一三・一六	一八、三八九、五九五
英帝國總計	九七、三〇三、七三一	六八・六八	八五、一一四、四〇二
フランス	一〇、三二二、三四六	七・二九	九、三七八、七八二
日本	五、九〇〇、〇九八	四・一六	四、八六五、四六九
比率			
英國			五四・四五
英屬領合計			一五・〇一
英帝國總計			六九・四六
フランス			七・六五
日本			三・九七

第七二表 東亞諸國への主要輸出品額表(單位磅)

品名	金額	品名	金額
ベルギー	五、六八五、五七九	小兒及び病人用食物	一八七、七〇〇
ドイツ	四、四一〇、〇九八	皮	一四七、九三一
アメリカ	三、三八六、五六七	木材	一二四、三〇二
イタリ	二、六四四、〇五八	炭	一〇五、四八二
羊毛	七、九九二、二九〇	鐵	一〇三、七〇四
小麥及び小麥粉	五、二五六、六一四	其他	一、二五五、〇二九
バター及びチーズ	六四四、四七五	合計	一八、一六三、六〇七
鉛	五六六、三一四	正貨及び金	六四三、三五五
ミルク及びクリーム	五二四、二五一	合計	一八、八〇六、九六二
肉類	三五三、四五一		
牛	二一六、八二〇		
毛皮、獸蹄、角及び獸筋	一九九、八二六		
屠	一九三、六九五		
果實	一九一、一九三		

第七三表 東亞諸國への輸出額表(金を除く單位磅)

貿易

國名	一九三四—三五年	一九三五—三六年	一九三六—三七年
日本	一二、〇九五、五一四	一七、六六一、二三二	九、七〇五、七三八
馬來	一、三一五、八二二	一、二六三、五二六	一、七二七、九五六
支那	二、四七二、二六二	一、二一二、八二一	八四二、九六三
ビルマ、印度、セイロン	九六一、八三七	一、三〇一、二〇六	一、四六八、四三二
蘭印	一、一八二、三二九	一、二七四、一九五	一、三九五、一八三
香港	七一五、九四四	六二四、六六三	八〇三、〇一〇
滿洲國、關東州	一、六一三、七七五	八三九、八一五	一四二、四二七
比律賓	三二四、〇五三	五五三、三一	六六六、七三三
泰國	五八、六六〇	一〇〇、九五九	一一八、二九一
其他	五〇、三六一	五〇、八三三	六八、二九九
計	二〇、七九〇、六〇二	二四、八八二、五六一	一六、九三九、〇三二
國名	一九三七—三八年	一九三八—三九年	平均
日本	五、九〇〇、〇九八	四、八六五、四六九	一〇、〇四五、六一〇
馬來	二、〇六三、七四〇	一、九一一、〇〇九	一、六五六、四一〇
支那	六一六、五二〇	二、九一八、四七六	一、六一二、六〇八
ビルマ、印度、セイロン	一、四六七、三四〇	二、二四七、五九八	一、四八九、二八二
蘭印	一、四六四、三七九	一、三三三、一九七	一、三三七、八五七

國名	一九三三—三八年	一九三三—三八年	平均
香港	一、〇四八、八三三	四七五、〇九九	七三三、五二〇
滿洲國、關東州	一九〇、七四七	六三、四五〇	五七〇、〇四三
比律賓	六一九、五〇四	四九八、八九三	五三二、四九九
泰國	一一七、三八二	一一九、四九四	一〇二、九五七
其他	一〇三、二六七	八一、七七八	七〇、九〇八
計	一三、五九一、八一〇	一四、五五四、四六一	一八、一五一、六九四

第七三表 日本への主要輸出品類表(一九三七—三八年、單位千磅)

品名	一九三三—三八年	一九三三—三八年	合計
羊毛	四、〇二八	三二五	五、九〇〇
小麥	六九九	二一四	六三四
皮類	三二五	二一四	六三四
層	三二五	二一四	六三四
鐵	三二五	二一四	六三四
其他	三二五	二一四	六三四
計	四、〇二八	三二五	五、九〇〇

(註) 其他の内の主要品は亞鉛、鉛、鐵礦、牛肉、牛脂、高濃具、カゼイン等である。

第二節 輸入

輸入品の殆んど全部は濠洲白人の文化生活必需品、換言すれば資本と労働を多く費した工業製品である。

第七四表 主要商品輸入及び比率表(一九三四—五年度より一九三八—九年度に至る五年間平均單位磅)

品名	輸入額	比率
機械類、金屬及び同製品	二八、〇六七、九九〇	三〇
衣類、織物、糸、織維製品	一八、三七二、一七三	二〇
貿易		二九七

濠洲の資源と植民問題

油、脂肪、蠟	七、五五七、三九七
紙、文房具	五、七五七、六六五
藥品類及び肥料	四、六六五、〇八七
植物性食料品	三、五八一、八八六
植物性製品	二、五七八、八一三
金、銀、青銅	二、一一二、七〇一
木材、椰子及び同製品	二、〇八一、八六二
セメント、陶磁器、硝子類	一、七五一、五三五
煙草	一、七〇九、九一八
動物性製品	一、六四五、三五〇
ゴム、皮革及び製品	一、五二四、六六五
動物性食料品	一、四六七、二〇九
光學、醫療科學器具	一、三四七、三二二
寶石、時計、玩具類	一、二九四、四六二
酒類	六八二、六八五
礦物、鑽石	六七三、八〇一
ペイント・ワニス	五三六、六八二
生動物	一八四、八七六
其他	六、〇三四、六八六

二 二 三 四 五 六 八

計

九三、六二八、七六五

一〇〇

第七五表 主要輸入先別及び輸入額表(單位磅)

國名	一九三七年	一九三八年	一九三九年
英 本 國	四六、二二六、九八五	四二・三二	四〇、四二〇、二八九
英屬領合計	一七、四四五、〇七七	一五・九七	一七、四一二、三九二
英帝國合計	六三、六九二、〇六二	五八・二九	五七、八三二、六八一
北 米	一七、七五八、六八四	一六・二六	一四、六四七、三〇五
東 印 度	七、五三〇、五〇九	六・九〇	七、一一九、七八五
日 本	五、三四九、〇八七	四・九〇	四、〇九三、一九一
ド イ ツ	四、一七〇、六二四	三・八二	四、一三一、二二二
ス エー デ ン	一、五五一、三三三	一・四二	九四六、七一八
ペ ル ギ ー	一、一四〇、九七四	一・〇五	九八二、一〇七
フ ラ ン ス	九六四、五五四	〇・八八	一、〇二八、一三三

東亞諸國からの輸入品中の原始産業品の主なるものは蘭印からの石油類、ゴム、麻、蠟、珈琲、印度からの亞麻仁、皮類、麻布、セイロンからの茶であつて、その他は日本から輸入する工業製品である。

濠洲の資源と植民問題

第七六表 東亞諸國からの輸入額表(單位磅)

國名	一九三三—三五年	一九三五—三六年	一九三六—三七年
日本	四、三九〇、三二七	四、九二八、〇二五	六、一七六、三八五
印度、緬甸、セイロン	四、六二四、七四〇	四、九六九、五七一	四、〇〇四、四六五
馬來	三、三三六、六八四	三、六九二、八六九	三、九八六、二六六
支那	五六一、八四四	四八八、二五四	八五二、二八二
比律賓	三六四、一二七	六五七、一七八	六八三、七四二
香港	七九、八八五	九二、六一九	一一〇、二三一
滿洲國、關東州	二二、六七七	二六、七三三	四〇、一四三
泰國	三、九〇六	八、一五六	二〇、八五三
其他國	一、八七九	六、四〇三	二、六〇九
合計	七四、四二三	八三、九九三	四二、〇三九
平均	一九三七—三八年	一九三八—三九年	平均
日本	一九三七—三八年	一九三八—三九年	平均
印度、ビルマ、セイロン	七、五三〇、五〇九	七、一一九、七八五	六、〇二七、〇〇六
馬來	五、三四九、〇八七	四、〇九三、一九一	四、六〇八、二一一
支那	三、九八八、五八一	三、七三六、二八八	三、七四八、一三八
比律賓	一、〇二二、八九九	九〇二、四一九	七六五、五四〇
香港	六〇一、八七〇	四六一、五五九	五五三、六九五
滿洲國、關東州	一三、四六〇、四九三	一四、九五三、七八一	一五、九一九、〇一五
泰國	一九三七—三八年	一九三八—三九年	平均
其他國	七、五三〇、五〇九	七、一一九、七八五	六、〇二七、〇〇六
合計	七四、四二三	八三、九九三	四二、〇三九

比律賓	香港	滿洲國、關東州	泰國	其他國	合計
一二三、四六六	三七、〇二二	一六、一〇六	六、八七〇	一四三、〇四七	一八、八一九、四五七
一二〇、七七四	三五、五六七	一四、八八七	三、〇一〇	一九〇、一〇九	一六、六七七、五八九
一〇五、三九五	三二、四二四	一二、七八二	四、一五四	一〇六、七二二	一五、九六六、〇六七

第七七表 日本よりの主要輸入品額表(一九三七—三八年、單位磅)

絹、人絹布	絹、人絹布	其他織物	衣類	魚類	機械及び金屬製品
一、五一〇、〇一九	八八八、四九七	五七七、四九五	四九〇、三六四	二〇八、一二二	二〇〇、八四三
一六二、五三二	一四七、七七四	一四二、四六四	八五、一四五	八〇、四二二	五一、八五二
玩具其他雜貨	磁器	紙及び文房具	綿糸人絹糸	硫磺	硝子類
一六二、五三二	一四七、七七四	一四二、四六四	八五、一四五	八〇、四二二	五一、八五二

第二章 海上交通 内陸水路交通 航空交通

第一節 海上交通

發達の概況 濠洲はイギリスの分家であるから、その文化は勿論のこと海上交通等に於いても全くイギリス的であつた。しかし同じイギリスの分家でもアメリカと比較して見ると、本家から遠く離れてゐるといふ差異がある上に人口が僅少なると労働賃銀が高率なるとで、濠洲自身が能力的に他國に働きかけるといふことは海運界に於いては嘗てなく、沿岸航路でさへも自國船でするものは今次大戦勃發前までは極めて少く、外國船殊に英國船依存であつた。

濠洲初期の歴史は帆船——しかも速度の遅い帆船——時代にあつた。一七八八年、第一艦隊が最初の移民をジャクソン灣に運んで以來の半世紀間は英濠間を四ヶ月で航海するのは當時の帆船としては早い方であつて、風向の悪い時には八ヶ月或はそれ以上の日数を要するのが普通であつた。

一八四〇年頃になつて初めてアメリカのモーリー海軍大尉は風と潮流を科學的に研究して、イギリスから濠洲に行くのには喜望峯から印度洋に向はず真直に南下した方が、航海日数を短縮出来るといふことを示した。この航路によつてゼームス・ベーンズは、一八五四年、リヴァプールとメルボルン間の往航六十三日、歸航六十九日を要した。

その後に帆船が汽船に變り、且つ一八六九年のスエズ運河開通は英濠間の航海日数を非常に短縮し、郵便物はロンドンを出てから三十日以内に南オーストラリア州の首都アデレードで配達されることが可能となつた。しかしこれは郵便物が最初ロンドンからイタリア或はフランスの港に送られてのことであつた。現在では西オーストラリア州のフリーマントルからアデレードまで汽車が通じてゐるので更に三日間短縮されてゐる。

一九一五年のパナマ運河の開通はニュージールランドと濠洲東海岸の諸港を、北アメリカの東海岸に數千哩近くした。

出入船舶と主要海港

第七八表 濠洲諸港への外洋汽船出入噸數表

年	次	入 港 噸 數	出 港 噸 數
一九三二—三年		五、九三三、〇〇〇	五、九〇八、〇〇〇
一九三三—四年		五、三三三、〇〇〇	五、四一一、〇〇〇
一九三四—五年		五、九九四、〇〇〇	五、八九五、〇〇〇
一九三五—六年		六、二三八、〇〇〇	六、三〇七、〇〇〇
一九三六—七年		六、二七四、〇〇〇	六、三三八、〇〇〇
一九三七—八年		七、一二八、〇〇〇	七、〇九三、〇〇〇

今次大戦までは濠洲の海運が英船の獨境上であつたことは、次の數字が雄辯に物語つてゐる。

第七九表 入港船舶籍別噸數表(一九三七—三八年)

國籍	入港船舶噸數	國籍	入港船舶噸數
英 本 國	四、〇二一、二七二	オ ラ ン ダ	一九九、九一三
ニ ュ ー ジ ラ ン ド	五〇五、九七六	ド イ ツ	一八〇、三一四
濠 洲	三六三、〇八六	ス エ ー デ ン	一一六、〇三六
カ ナ ダ	三〇、九一〇	フ ラ ン ス	一〇二、九五二
其 他	二三六、九〇七	イ タ リ ー	七〇、四三一
英 帝 國 船 合 計	五、一五八、一五一	デ ン マ ー ク	五五、七五三
ノ ー ル ウ ェ ー	四八二、四七〇	其 他	二二七、七八二
日 本	三一八、四九九	外 國 船 合 計	一、九七〇、二五三
米 國	二一六、〇八三	總 計	七、一二八、四〇四

第八〇表 各州出入港船舶數並に噸數表

州 名	入港船舶數	同 上 噸 數	出港船舶數	同 上 噸 數
ニ ュ ー ・ サ ウ ス ・ ウ ェ ー ル ズ	六六四	二、五四五、九八四	五七一	二、〇二八、五一三
西 オ ー ス ト ラ リ ア	四四五	一、九七六、五一四	五一一	二、一八五、九四〇
タ イ ン ズ ラ ン ド	二七八	九五〇、七八三	三〇六	一、一三二、四八四

ヴ イ ク ト リ ア	二三〇	八三一、一五六	二一八	八四六、四一〇
南 オ ー ス ト ラ リ ア	一八四	六四三、一一一	一九八	七六一、〇九三
タ ス マ ニ ア	三〇	一三〇、八八二	二一	八三、一一九
北 部 地 域	七四	四九、九六四	七九	五五、四九九
計	一、九〇五	七、一二八、四〇四	一、九〇四	七、〇九三、〇五八

主要な海港はシドニー市及びメルボルン市を控へたポート・ジャクソンとポート・フィリップで、前者はニュー・サウス・ウェールズ州の門戸として、後者はヴィクトリア州の門戸且つ鐵道の中心地として共に繁榮してゐる。そして次に位するブリスベン港と共に太平洋岸の貿易を司どつてをり、首都バースの外港としてのフリーマントルを初めポート・オーガスタとオールバニー港とをもつ西オーストラリア州は印度洋貿易の中心となつてゐる。これが同州が入港船舶噸數に於いて第二位、出港船舶噸數に於いて第一位を占めてゐる所以である。

その他の港としては左記のものを擧ぐべきであらう。

ニュー・サウス・ウェールズ州ニューカースル、ポートケンブラ。

クインズランド州——タウンズヴィル、マツカイ、ロツクハンブトン、ケーアンズ、パウエン。

ヴィクトリア州——ジローン。

南オーストラリア州——ポート・アデレード、ポート・ピリー。

タスマニア州——ホバート。

海上交通 内陸水路交通 空路交通

北部地域——ポルト・ダーウイン。

英濠の交通路 英帝國領土中、ニュージーランドと濠洲とは英本國から最も遠い位置にある。從來、英濠を結ぶ通路としては左の四つの航路があつた。

(一) 南阿ケーブタウン經由線

ロンドン——メルボルン

一一、一五〇哩

ロンドン——シドニー

一一、六二五哩

(二) スエズ運河經由線

ロンドン——メルボルン

一一、〇九〇哩

ロンドン——シドニー

一一、四九〇哩

(三) 大西洋横斷、カナダ大陸經由、太平洋縱斷線

リバプール——メルボルン

一一、六一〇哩

リバプール——シドニー

一一、一〇〇哩

(四) バナマ運河經由線

リバプール——メルボルン

一一、五四〇哩

リバプール——シドニー

一一、二七〇哩

右の外に大西洋縱斷南米南端迂迴航路もあるが、距離が少し長くなると南太平洋横斷は常に猛烈な西風に吹

きつけられ、冬季は風雪烈しき荒天打ち続き且つ晝間が短く、マゼラン海峡通過またはケーブ・ホーン迂迴のいづれも航海が至難で危険が伴ふから、定期航路としては使用されてゐない。

前記四航路のうち貨物輸送の最大動脈をなすものはケーブタウン經由線であつたが、客船はスエズ運河經由線によつてゐた。

バナマ運河經由線ではニュージーランドのウエリントンにシドニーよりも一、三八〇哩近いので、この航路による定期船はメルボルンを終點として往復路共にニュージーランドのウエリントンとオークランドとに寄港してゐた。

近年、英濠間の航海日數は六週間前後、米濠間は三週間前後であつた。

しかし今次大戦勃發以來、リバプールから大西洋を西南に抜け、バナマを經由する通路が比較的 안전한航路として重要性を増して來てゐるが、それがまた日本海軍のために危険となつたのであるから、英濠間直接の航路は死んど遮斷され、僅に米國を仲介として連絡を取つてゐるに過ぎない。

因に今次大戦開始前に於いては、日濠間の航海日數は長崎シドニー間四週間、神戸ブリスベン間の直航は十一日間に短縮されてゐた。

第二節 内陸水路交通

マレー・ダーリングタ河川系運輸 濠洲の内陸は既に屢々述べた通り非常に乾燥してゐるので、濠洲に於いては

海上交通 内陸水路交通 空路交通

運河開鑿の可能性は殆んどない。廣大な中部地域に於いては運輸ばかりでなく、植物に對しても水は非常に缺乏してゐるのである。しかし濠洲大陸の東南部には一大河川系統があつて普通に降雨のある時には運輸に貢献するところが頗る大である。この一大河川系統はマレー・ダーリング河川系統であつて、河川地域とニュー・サウス・ウェールズ州西部平野の産物に對する自然の出口となつてゐる。

G・J・ゴードン氏の筆になつて最初アデレードの新聞に連載され、後「濠洲のナイル河」といふ表題で一冊に纏められて、一九〇六年、アデレードのw・k・トーマス書肆から出版された書は、この河川系に關する興味ある讀物である。

同氏はマレー河の水路を次のやうに述べてゐる。

「コシアスコ山近くのスノウイー山脈で海へ出でんとして長く苦しい旅行を始めた後、マレー河はその進路を北に向つて取る。オールバリーニ達する前に、主流の膨脹した水は入日の方へ方向を轉じ、ヴィクトリア州とニュー・サウス・ウェールズ州の間を西の方へと大進路を取つて出發してゐる。オールバリーからウエントワースまでの八五〇哩の距離間の、マレー河の下降は一哩につき最高九インチまでに變はり、ウエントワースから殘餘の六一七哩の距離間は一哩につき三インチ以上となることはない。洪水時でも流れは緩やかである。これは水閘建設技師が念頭に置くべき重要事實である。」

同氏はまたマレー河の北部最大支流であるダーリング河に就いて次のやうに書いてゐる。

「ダーリング河はニュー・サウス・ウェールズ州のマンジンディーからウエントワースまで一、三五〇哩の距

離を有し、この河の一般的下降は一哩につき約三インチで、洪水時でも速度は一時間僅か三哩に過ぎない。水路はところどころで、三呎乃至四〇呎の堤防で限られてゐる。大洪水時には河は氾濫し、水は幾哩にも亘つて低地を浸す。洪水時には水路から二〇哩乃至三〇哩離れたところまで汽船が航行する。一八七〇年に一汽船がダーリング河からバルー河の水路に沿つてクインズランド州界の先まで一八〇哩の距離を航行したが、その時の水の擴がりは約六〇哩幅であつた。」

灌溉の章でちよつと述べて置いたR・T・マツカイのマレー盆地に關する書もまたこの河川系統に關する利益ある讀物である。

その一節に次のやうな文句がある。

「マレー盆地は四一四、二五三平方哩に亘る地域を占め、人口七千萬餘を有する日本本土の殆んど三倍の面積を有するに、この地域内に住む人口は僅に五〇〇、〇〇〇人である。」

しかしこの地域内には一〇インチ等兩線内に位する地帯があるのに、日本は平均六〇インチ以上の年降雨量に恵まれてゐることを考慮に入れて置かねばならない。

マレー・ダーリング河に關する濠洲史上の二挿話は興味あるものである。

一八三〇年二月十一日、スタートの探險隊は捕鯨船でマランビジー河とマレー河を三十三日間航行して海に達した。かかる初期にありてはマレー河の航行は非常に困難なものであつたものと見えて、彼は次のやうに書いてゐる。

「私は直ぐ眼前に美しいアレグサンドリナ湖を見出し、その湖はわれわれをそこに導いた崇高な流れの水を貯へる貯水池だと思つた。……しかし、直ぐまた私は湖と大洋間の航行路を見出さんとするわれわれの努力が徒勞に歸するの運命に立ち至つたことを見出して絶望した。」

こんな次第で、彼の一行は有るか無きかの僅少な食糧で餓を凌ぎながら非常な困難を嘗めて、濠洲最大の河川系を究めた後に辛うじてシドニーへ歸つた。

も一つの挿話はこれとは反対で、少しく明朗性を帯び商業上に最初の成功を収めた航行である。

一八五一年から五三年にかけてキャプテン・キャデルは、「マレー河をグールワからダーリング河まで航行することに成功した最初の汽船」に政府が提供した償金四、〇〇〇磅を得んとの大膽な企ての準備をした。

彼はまづ麻布船で偵察に出かけた。

「船に水が入る毎にフライパンを火にかけて羊の切肉を燻つて獸脂を水の入る穴にぬりつけたが、それはいつも有効であつた。」

愈々一八五三年彼は汽船レイディー・オーガスを「海口から乗り入れ」、グイクトリア州のロドン河口のストーン・ヒルに達し、その船にマレー・ダーリング、マランビジー三河の流域から羊毛を運び歸ることに成功した。

マレー河とその主なる支流ダーリング河は二、五〇〇哩の距離を間歇的に航行出来るのに、パークの簡単な水門を除いては汽船がこの河を商業上利用する期間を延ばす手段は全然講じられてゐない。しかしこの河の水利工事にニュー・サウス・ウエールズ州は二五〇、〇〇〇磅を費し、その他の州も相當な費用を投じてゐる。

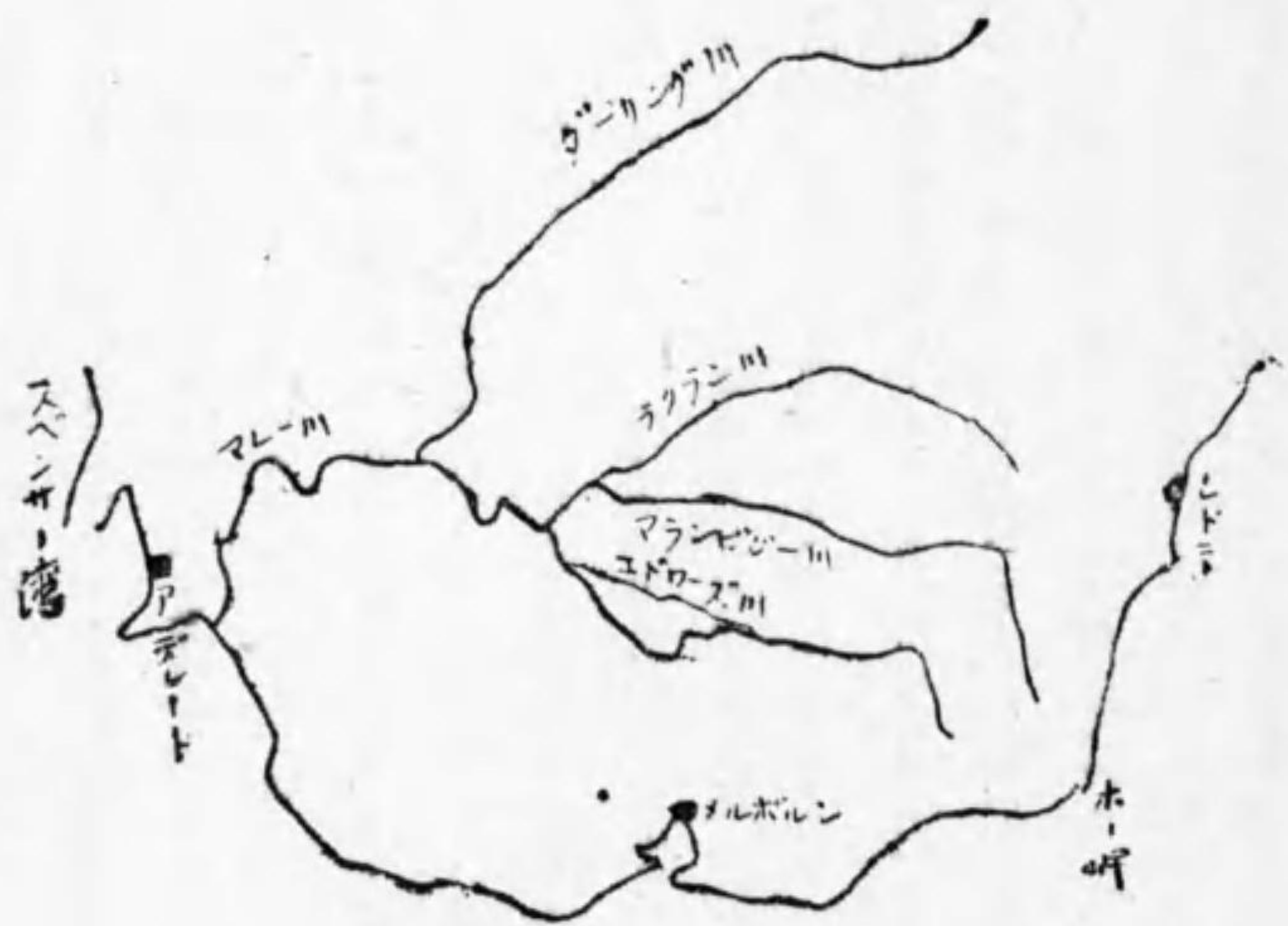
(ビーン著「ダーリング河の努級鑑」に委しく述べてある)

第三節 鐵道運輸と水路運輸

鐵道と水路による相關的運賃に就ては濠洲人は未だ充分に覺醒してゐないやうである。

この問題に關する著名な權威ローズ博士は歐洲大陸の運河に關する報告を總括して次のやうに述べてゐる。

「運輸の二方法を比較する時、水路に軍配が揚がる。この事實は英國に於けるよりも歐洲大陸に於いて一層痛切に感じられてゐる。(濠洲に於てもつけ加へてよからう)六〇〇噸の運河航行船は鐵道



第二二圖 東南濠洲の航行可能河川

の貨車六〇輛分を選び、平坦な鐵道で必要とする牽引力の僅に三十分の一を要し、人間勞力と資材の消費率は低く、従つて運河運賃は鐵道運賃の三分の二ですむ。ドイツでは水路による一噸の運賃は一フアイジング（約一錢）以下であると云はれる。それでフランスは水路運輸のために巨額の金を投じてゐる。」

澳洲に於ける水路運輸問題を討議した政府委員は、この重要問題に關する種々の報告を提出してゐる。

マレー河及びその支流の河川運輸は殆んど全く南オーストラリア州によつて管理されてゐるので、この問題は同州に取つては頗る重要なもの一つであるから、州間會議の席上ではニュー・サウス・ウェールズ州とヴィクトリア州によつて灌漑に利用されてゐる水量が盛んに討議された。

ニュー・サウス・ウェールズ州では當局が鐵道運輸を是としてゐるのは當然である。

この問題に關してマツカイ氏は次のやうに述べてゐる。

「これ等の河川の流域に存在する町村や牧場の居住者に日用品を選び、羊毛、皮革、獸脂及び少量の農産物を持ち歸るのが、商業上の要點である。」

マレー河下流の商業とダーリング河の河川運輸とはモーガンを中心地とし、マレー河上流の取引（このうちには、マランビジー河、エドワーズ河、ワクール河の河川運輸を含む）はエチユカを中心とし、エチユカには船貨取り下ろしと積み込みに對する優秀な設備がある。

マレー河は水量が増加してゐる時にはオールバリーまでも航行可能であるが、南オーストラリア州とヴィクトリア州との州界から六六六哩あるエチユカから上流では運輸は極めて少い。

汽船はダーリング河ではウエントワースからワルゲットまで一、一八〇哩の距離を航行し、マランビジー河ではナランデラまで航行可能であるが、ヘイから先へ行くことは稀である。

モーガンに於ける計量によると、概してマレー河は一年のうち七月から一月までの約七ヶ月間は航行可能であるが、ダーリング河は極めて間歇的に航行が出来るだけであつて、船が數ヶ月間水路に立往生してゐるのを見るのは稀らしくない光景である。

近年、南オーストラリア州に入る河川による船貨が著しく減少したが、これは旱魃のため河が長期間航行不能になつたのと鐵道の延長とによるのである。

マレー河は南オーストラリア州ではマレー・ブリッジとモーガンとで鐵道に會し、ニュー・サウス・ウェールズ州とヴィクトリア州ではミユルデユラ、スオン・ヒル、クーンドルツク、エチユカ、コブラム、ヤラウオンガ、コロウワ及びオールバリーで鐵道がこの河に達してゐる。

ダーリング河はバーク、ブレワリナ、ウォルゲット及びコラレンダブリで鐵道と連絡してをり、ウエントワースとウイルクニアを結ぶ鐵道も計畫されてゐる。

マランビジー河に關しては、この河と平行に走つてゐる鐵道とこの河から少し離れたところを走つてゐる西南鐵道が、河川地域の商業上の總ての要求を充してゐる。

次に掲ぐるアデレード税關長の次の報告は、南オーストラリア州に於ける河川運輸が次第に著しく減少してゐることを示してゐる。

第八〇表 南オーストラリア州に於ける河川船舶出入と運送貨物表

年次	噸		價		格(單位磅)
	出	入	輸	入	
一八八三年	二八、五五六	二九、七三三	六六四、一六七	三五五、〇三五	
一八九二年	二三、五〇四	二三、三四五	四二五、七〇六	一三一、二九三	
一九〇一年	一一、二一五	一一、七三二	一三七、三〇四	四五、三二七	

河川利用取引は近年非常に減少してゐるが、これは主として南オーストラリア州に於ても河川地方の産物に対する不同の鐵道運賃によるものである。例へば鐵道でエチユカに送られる砂糖は地方的使用品ならば一噸五〇シリングであるが、ダーリング地方用ならば低廉な河川運賃と競争するため一噸一一シリングで運送されると云はれてゐる。

河川は利益ある運輸機關となり得る前にまづ「能力ある」ものとならなければならないが、これには工事費を要することは勿論である。河川開發調査委員はこれに必要な費用について次の豫算を與へてゐる。

第八一表 河川開發費用豫算表

區	間	距離(單位哩)	水閘數	費	用(單位磅)
南オーストラリア州	フランシユタウン州界間	二三〇	六	六〇〇、〇〇〇	

南オーストラリア州界・エチユカ間(マレー河)	六六〇	二〇	七三〇、〇〇〇
ウエントワース・ウオルグット間(ダーリング河水閘)	一、一八〇	二四	九二〇、〇〇〇
マレー交流點・ハイ間(マランビジー河水閘)	二三八	九	三二一、七五〇
計	二、三〇八	五九	二、五七一、七五〇

これにマレー河下流(アレグザンドリナ湖まで)を加へると全長二、五〇〇哩の距離が航行可能となるが、その費用は三、〇〇〇、〇〇〇以上に上るであらう。

この計畫實現に公金を投ずることが果して正當であるか否かの問題は灌漑問題と結びつけてのみ考へ得られるのであるが、メニンディーとウエントワースを除いては總ての人口の中心地が鐵道によつて供給されてゐる現狀では、この計畫は明かに不利益に見える。しかし一例を取つて云へば、灌漑によつて不毛地が繁榮地と變じて出來た「鹹湖都邑」における居住地を考慮に入れると、河川に水閘を設けることが必ずしも不利益とは云へない。

第四節 空路交通

一九一九年、濠洲人ロス・スミスの一行がロンドンから飛んで途中イタリー、パレスティン、メソポタミア、印度、マレー半島、ジャワを経て、二十八日を費してポート・ダーウインに達して新時代を創してから、濠洲の航空界は頓に活況を呈した。それでも一九三九年第二次歐洲大戰が勃發する前までは飛行機の數も餘り多くはな

海上交通 内陸水路交通 空路交通

かつた。しかし戦争開始後は戦略上、商業上兩方面の必要に迫られて急激に進歩した。

一九三九年六月末日現在の航空会社は一五社あつて、その定期航空網は週三回のシドニー、ダーウイン、シンガポール（昭南島）線と、アデレード、ダーウイン間、ブリスベン、ダーウイン間の内陸空路があつた。また各州首都間の定期航空は相當頻繁に行はれてをり、シドニー、メルボルン間及びシドニー、ブリスベン間は毎日二回、メルボルン、アデレード間は一日一回、アデレード、パース間は隔日となつてゐた。これ等の定期飛行による就航總哩數は、ニューギニアを経てダーウイン、シドニーへ飛んでゐた蘭印航空会社のもを通過すると全長二九、五〇五哩で、一週間の飛行哩數は一七二、九二八哩、一箇年にして八、九九二、二五六哩であつた。

汎米航空会社によつて行はれてゐたクリツバー空路はハワイ・カントン島、メデアを経て、ニュージーランドのオークランドに達してゐたので、トランス・タスマン航空会社機はオークランドとシドニーを結んで米國、ニュージーランド、濠洲間の空のリンクが形成されてゐた。

一九三七—三八年度の調査では、國營飛行場七四、民營飛行場一九四、不時着陸場一五七となつてゐたが、現在ではこれ等が皆軍用飛行場となつてゐる上に軍用飛行場は非常に澤山増設されてゐることであらう。

第三章 道路と鐵道

第一節 道路

濠洲では自動車が増んに乗り廻はされてゐるので自動車道路は驚くほど發達してゐる。奥地へまでも自動車道を完備することに官民共に極力努力してゐる。

濠洲の主要幹線道路はシドニー、ブリスベン間の太平洋公道 (Pacific Highway)、シドニー、メルボルン間の海岸道路プリンセス公道 (Princes Highway)、内陸道路ヒューム公道 (Hume Highway) である。舗装路は完備してゐて、道幅は二五乃至三〇呎、中央に約三インチ幅の白線や黄線が引かれて左側通行を勵行してゐる。

濠洲人の生活標準が高いのに汽車電車が充分發達してゐないので、それを補ふために田舎道まで立派な自動車道路を敷設して自動車交通に適するやうにしてゐる。汽車賃や電車賃が高いので自動車を利用するものが非常に多い。

シドニーやメルボルンの近郊へ出ると道幅の廣い舗装道路が蜿蜒と擴がつてゐて、時速五、六十哩で自動車を走らせるのも樂である。しかし大都會の舊市街は道幅が廣狭さまざまで殆んど統一がなく、シドニー市やメルボルン市の繁華街で交通が頻繁なところで道幅の狭い街では、すべて電車、自動車の通行が一方のみと規定されてゐる。

人跡稀な奥地ではまだ羊や牛馬の通路を道にしたのがあるだけで整備された道のないところも澤山あるが、近年自動車交通が発達するに及んで急激に自動車交通に必要な道路改善が普及するに至り、随分奥地へまで主要道路は立派に舗装されてゐる。

濠洲はニュージールランドと共に自動車道路の最も発達した國の一つであり、濠洲はアメリカ及びニュージールランドに次いで自動車の一人當り臺數が多い國である。坦々たる自動車路は都會地附近到るところに交通網を作り運輸、旅行兩方面で鐵道の不足を補つてゐる。標識や事故防止設備には参考とすべき點が多く、バスやハイヤーはキデラツク、バカード等の高級車が使用されてゐるのが普通であつて、著者は最高級車の一つに數へられてゐるロールスロイ車のハイヤーに乗つた経験がある。しかし自動車賃は非常に高く、ちよつと乗つてもチップだけに一磅(十圓)位は奮發しなければならない。これは勞働賃銀の高いことや、高級車を惜し氣もなく使用してゐる點から仕方のないことであらう。

自動車の千人當り臺數は左の通りである。

ニュー・サウス・ウエールズ	一一六・七
グイクトリア	一三九・七
クインズランド	一一七・三
南オーストラリア	一五二・七
西オーストラリア	一五〇・六

タスマニア	一一一・三
直轄北部地域	二四三・九
直轄首都地域	一九四・七
平均	一二九・九

第二節 鐵道

濠洲の鐵道は廣狭さまざまの軌幅で速力の遅いこと、サーヴィスの悪いこと車輛の舊式なことと有名である。奥地の汽車は實にのろのろと進み、その地方の居住者同様實に悠長なものである。

鐵道運輸

第八二表 國營鐵道哩數(一九三八年六月末日現在單位哩)

州名	哩數	州名	哩數
クインズランド	六、五六六	南オーストラリア	二、五五七
ニュー・サウス・ウエールズ	六、一一四	聯邦政府	二、二〇一
グイクトリア	四、七二一	タスマニア	六六五
西オーストラリア	四、三七六	計	二七、一八六

右表で見る如く、濠洲に於ける鐵道は各州經營のものと聯邦政府經營のものがあり、そのうち州營のものが九

水路と鐵道

割弱を占めて二四、九八五哩、聯邦政府經營のものは南オーストラリア州、西オーストラリア州の一部地方と、聯邦政府直轄地域に敷設されたもので、その延哩数は二、二〇一哩である。

私營鐵道は林業會社、土地會社、鑛山會社、砂糖栽培會社等の事業用に敷設されたもので公共性なく、その哩數も僅少である。

第八三表 國營鐵道運轉車輛數表

州 別	機關車	客 車	其 他
ニュー・サウス・ウェールズ	一、三一〇	二、七九〇	二二、七〇四
ヴィクトリア	五七四	二、四五八	二一、〇二九
クインズランド	七四八	一、三九八	一八、七〇四
南オーストラリア	三二九	六〇六	八、〇一三
西オーストラリア	四二〇	四七七	一一、〇九七
タスマニア	九四	二二三	二、〇七三
直轄地域	一一三	八九	一、三八三
計	三、五八八	八、〇五	八六、〇〇三

第八四表 國鐵運轉狀況表（一九三八—三九年度貨物運送單位噸）

州 別	乘 客	石炭 燐炭 頁岩 運送量	其他 礦物 運送量
ニュー・サウス・ウェールズ	一八六、七二〇、〇〇〇	七、六三三、〇〇〇	一、四六四、〇〇〇
ヴィクトリア	一四二、一二四、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	—
クインズランド	二四、五四九、〇〇〇	七三五、〇〇〇	五一八、〇〇〇
南オーストラリア	一七、五二八、〇〇〇	一二九、〇〇〇	六六九、〇〇〇
西オーストラリア	一一、四一五、〇〇〇	二九八、〇〇〇	二四四、〇〇〇
タスマニア	二、二九七、〇〇〇	四七七、〇〇〇	—
直轄地域	一一八、〇〇〇	二二、〇〇〇	一、〇〇〇
計	三八四、七五一、〇〇〇	九、四九四、〇〇〇	二、八九六、〇〇〇

州 別	家畜 運送量	其他 物品 運送量	貨物 運送料 合計
ニュー・サウス・ウェールズ	七三九、〇〇〇	五、五八二、〇〇〇	一八、四一八、〇〇〇
ヴィクトリア	七二七、〇〇〇	五、〇五〇、〇〇〇	五、九七七、〇〇〇
クインズランド	五二八、〇〇〇	三、四〇〇、〇〇〇	五、一八一、〇〇〇
南オーストラリア	一九四、〇〇〇	一、六七〇、〇〇〇	二、六六二、〇〇〇
西オーストラリア	一一六、〇〇〇	二、二〇一、〇〇〇	二、八五九、〇〇〇
タスマニア	三〇、〇〇〇	三三六、〇〇〇	八四三、〇〇〇
直轄地域	六五、〇〇〇	九七、〇〇〇	一八五、〇〇〇
計	一、三九九、〇〇〇	一八、三三六、〇〇〇	三三、一二五、〇〇〇

横断鐵道と縦貫鐵道 濠洲横断鐵道(Trans-Australian Railway)は全長一、一〇四哩で、敷設費は約七、〇

〇〇、〇〇〇磅であつた。この沿線中八〇〇哩の間は住民は全然なく、みじめな原住民が数人とところどころをさまよふてゐるばかり、加ふるに水が殆んどないので産業的價値は全然ない。

カルグーアリーで乗り換へれば西オーストラリア州の首都パースにも行け、またポート・オーガスタからは南岸及び東岸を廻つて遙かにクインズランド州中央部のロングリーチまで行くことが出来る。各州間の鐵道に統一がないので幾回も乗り換へなければならぬが、この線は確かに濠洲大陸の大動脈として重要であることに疑ひはない。

ポート・オーガスタから北に向つて大陸中心部のアリス・スプリングスに到る線、即ち中央濠洲鐵道 (Central Australian Railway) は七七一哩あつて大陸縦貫鐵道の南部をなし、これは更に北の方へと引き續いて聯邦政府が鋭意建設中のものであるが、この縦貫鐵道の一端の北方ポート・ダーウインから南下するもの、即ち北部濠洲鐵道 (North Australian Railway) もデーリー・ウォーターズまで三一七哩開通してゐる。これが連絡したら南北に通ずる大動脈も出来るわけで、この線が更にクインズランド州北部東海岸から西に向つて奥地に通じてゐる鐵道と連結したら交通は餘程便利になるであらう。これ等の線は國防上には頗る重要なものであるが、未開發地を通るので現在では經濟的價値は殆んどない。しかし鐵道が敷設されたら從來放置されてあつた未開地に思ひけない寶庫が見出されて、産業上に多大の利益をもたらすやうになるであらう。

第三節 濠洲鐵道の最大缺點

軌道統一を缺く 移民が各地に據り次第に發達して州を形成し、次いで聯邦を形成するに至つた關係上、各地は長年に亘つて共同の精神を缺き相互に嫉視し合つてゐたため、その鐵道は不統一で州を異にすれば更に一層の不統一を示し、その軌道の如きも廣軌あり、狹軌あり、超廣軌ありで、經營者も異り隨所で乗り換へする不便を忍ばねばならぬ。日本の鐵道に較べると殆んど信じられないほど馬鹿々々しい。

一八五〇年にニュー・サウス・ウェールズ州のシドニーからゴールバーンまで開通した鐵道が濠洲最初の鐵道で、ヴィクトリア州での最初の鐵道敷設は一八五四年である。

一八五二年にニュー・サウス・ウェールズ州は五呎三吋の軌道を敷設することに決定したので、ヴィクトリア州と南オーストラリアの二州もそれに倣つて工事に着手した。ところが工事が進捗してゐる最中の一八五五年、ニュー・サウス・ウェールズ州は突然豫定を變更して四呎八吋半の軌道を敷設することにして工事に着手した。その他の州も經費の點からと、當時各州間は勿論、州内だけでも餘り頻繁な交通はなく従つて鐵道を利用することも少かつたのとで、以上挙げた三州のものよりも更に狭い三呎六吋の軌道を敷設した。こんなわけで今日でも州界で汽車を乗り換へなければならぬといふ實に不便極まる事態が存在することになつたのである。

一例を舉げて見るとクインズランド州首都ブリスベンから西オーストラリア州首都パースへ行く場合、即ち北東から南西への幹線によつて濠洲大陸を横斷する場合、軌幅は五度變り、八回乗換をしなければならないので、三、四七九・八二哩を旅行するのに六日間かかる。實際の平均時速は二七哩であるから、走破所要時間は一二八―九時間で、乗換停車等に一六時間を要するのである。

私はシドニーからメルボルンへ屢々汽車で行つたが、その汽車旅行は今も思出の一つである。シドニー發メルボルン行特急は夜の九時に出發した。ヴィクトリア州の特急車に較べてニュー・サウス・ウェールズ州の客車は舊式で振動が激しいので、寢衣に着かへて寢臺に横はつても中々寢つかれない。それでも夜明近くになるとうとうと睡氣を催して来る。その途端に列車はオールバリー驛に着き、車掌に叩き起されて乗り換へなければならぬのである。

一濠洲軍人が私に話したところによると、戦時にメルボルンからブリスベンへ二萬の軍隊と軍需品を送るには汽車では六十日間を要することである。

軌幅統一の急務を痛感 濠洲聯邦政府は國防上及び國家經濟上、濠洲全土の軌幅を統一するの必要を痛感してこの問題を討議するために度々委員會を開催し、つひに一九二二年特別委員を任命した。その委員會は濠洲全土の鐵道を漸次四呎八吋半の標準軌道に変更することを政府に建議したが、これを實行するには長年月と一〇〇、〇〇〇、〇〇〇磅（約十億圓）の巨費を要し、ブリスベンからバースまでの幹線だけを統一するのにも二一、六〇〇、〇〇〇磅を要するので實現は中々容易なことではない。しかし盛んに起る民衆の叫びに答へて、政府は幾分實行に移したが進捗程度は極めて遅々たるものであつた。

近年、シドニー、ブリスベン線でニュー・サウス・ウェールズ州境からブリスベンまで標準軌道が敷設され、濠洲横斷鐵道で西オーストラリア州の金産地カルグーアリーと南オーストラリア州のスベンサー灣頭にあるポート・オーガスタとを連結するため、各州首都間の交通は非常に改善された。しかしよし全濠洲の軌幅が統一され

ても、極北港のポート・ダーウィンからブリスベンその他東北部の諸港に達するには海路によつてニューギニアと濠洲本土間のトレス海峡を通過し、太平洋を航行しなければならぬ。

第四節 鐵道と産業との關係

各國共に人口の産業的分布は鐵道と密接な關係にあるが、濠洲に於いてはこれが特に甚しい。

濠洲の幹線は西オーストラリア州西南海岸からクインズランド州の殆んど極北部にまで達してゐるものであるが、現在一〇〇哩ほど途切れた環狀線をなしてゐるものは南オーストラリア州のエア湖の西北ウドナダッタから中部クインズランド州のウエルフォードに至る約三、四〇〇哩のものである。フェルフォードのちよつと北にあるロンググリーチはエア湖に注ぐパーク河の上流に位する。それでウドナダッタからロンググリーチまで汽車で行きそこからクインズランド州中部とエア湖盆地を結ぶ家畜道路を通ふてウドナダッタへ歸れば、完全な環狀旅行が出来る。恐らくこのルートが濠洲に於ける産業上の最重要部を含んでゐるものであらう。著者は南オーストラリア州のトレンス湖附近のベルタナからロンググリーチまで旅行したが、これはこのルートの大部分である。

第五節 南オーストラリア州鐵道沿線の産業

ウドナダッタはアデレードの北六八八哩にあつて現在では南部鐵道の終點であるが、ここからバイン・クリクとポート・ダーウィンへの内陸縱貫鐵道が企劃中であつた。これが完成すると旅客や郵便物はシベリア鐵道經由

で十四日間でロンドンからポート・ダーウインに達し、そこから三日間でアデレードに達するので、ロンドン、アデレード間は十七日間に短縮されると云はれてゐる。

この沿線の大部分は一大平野で、あちらこちらに砂丘と水流があるだけであるから鐵道工事にはさして大困難は伴はず、實現さすのは容易である。(D・J・ゴードン著「中央州」による)しかし鐵道が敷設される地方全部が降雨僅少地方か或は熱帯地域であるから、濠洲政府が「白濠主義」をかかげてゐる間はこれを實行に移しても餘り利益にはならないので、濠洲政府は悠長に構へてゐるのである。現在では北部地域には白人居住者は僅少で、白人と殆んど同數くらゐの支那人ををり、これに原住民を加へれば有色人の數は白人の數を遙に凌駕するのである。ブレイフォード氏によれば「熱帯産物を栽培して世界市場で利益を上げるには低廉な労働を使用しなければならぬが、白人労働は決して低廉ではないから、たとへ白人が氣候に堪え得るとしても彼等によつて生産される熱帯産物で利益を上げることは頗る困難である。」

濠洲が大東亞圏内の一環とならざる限り、北濠洲はいつまでも人間の居住地とはならずして野生の動植物の繁榮地のままでゐなければならぬ。

ウドナダツタは狭軌道(三呎六インチ)で南部のテロウイー居住地と結ばれてゐる。第一線區はハーゴット・スプリングスまでで、この地方は牧場で占められてゐるが、この大地域は或程度小雨量でも牧場經營が可能である。内地では小規模に鑛業が經營されてゐる。アールタンガ金山は一時非常に有望視されてゐたが、經營して見た結果は豫期に反した。

ハーゴットは主として濠洲大陸縦貫電線の維持物資と大陸中央部の比較的良好な山岳地域に於ける牧羊場の産物とを取扱ふ驛で、またクインズランド州への主要家畜道路の起點である。

ハーゴットと南部都邑間には一週に僅か數回の列車を運轉してゐるだけで、客車は夜行である。著者は或夏この地域を訪れたが、その時は確かに非常に香ばしい様相を呈してはゐなかつた。牧羊場の多くは旱魃と兎害のために見捨てられ、主な企業はアジャック(ヘルタナ)とスライディング・ロックのやうな小銅山の周圍に集中されてゐた。

土地を暫く休ませて置くと「青灌木」(含鹽灌木と同種)が再生して良飼料を提供する。しかしこの地方は降雨量が一〇インチ以下でしかも河川等がないので、非常に水が缺乏してゐるから永續性の牧場經營は不可能で、もつと人口稠密な居住地を出現さすことは何等かの人為を加へざる限り到底望まれない。私は銅山の坑やアルカリ性地下鑽井水道や、或は古びた水穹からポンプで汲み上げられた水を飲んだことを今もなほ明瞭に記憶してゐる。普通には大雷雨中に新鮮な雨水を水槽に貯へて置いてそれを使用するのであるが、この作業は中々困難で思ふやうには行かない。

バラチルナ附近では東部にフリンダーズ山脈があるため降雨量は少し多くなる(フリンマンでは二三インチ)。しかしトレンス湖の低い沼澤岸には僅か八インチの降雨があるに過ぎない。従つてこの湖は水量が少く、船でこの湖を渡つたことは未だ嘗てないと聞いた。

ウイロチユラでは砂塵が濛々と舞ひ上り、車外は一寸先も殆んど見えないほどで、窓を閉め切つた列車内まで

細い砂が一杯たまる。これは小麦耕作のために大古から固まつたままの自然の地表を毀したので、土地が乾燥した際に土が風に吹き飛ばされて起る現象である。しかし特別に良好な季節にはこんな北部地方までも小麦が耕作されて相當な利益を収めてゐる。

クオーンへ來ると乾燥地帯からのがれ出るので、ここで旅客は皆列車から降りて一夜を明かす。もつと南下して可なり東へ寄つたところにビーターズバーグがあるが、これは重要な乗換驛で、「世界最大鑛山」と呼ばれてゐるブローケン・ヒルからの銀、鉛、亜鉛を積んだ列車が、ここで横切つてポート・ピリーへ行く。

そこから少し南のテロウイーでは軌道が五呎三インチの廣軌になるので、汽車を乗り換へなければならぬ。(この廣軌道はアドレードとメルボルを経由して、乗換なしにニュー・サウス・ウエールズ州とヴィクトリア州の州界のオールバリーまで通じてゐる。)

次驛クーリングの附近にビュラ銅山がある。この銅山は一八六〇年には世界で最も有名な銅山の一つであつたが、一八七七年以來鑛石は餘り採取されてゐなかつた。しかし第二次歐洲大戰勃發以來再び活動を始めた。

ローズワージー驛からマレー河岸のモーガンまで支線が分岐して小麦地帯と牧羊地帯を通過してゐる。ローズワージー附近にはタナダ大葡萄園地方と南オーストラリア州最初の銅山カピユンダがある。

ローズワージーから五〇哩南へ走ると南オーストラリア州の首都アドレードに達する。同市は極めてよく設計されて建設された美しい市で、ロフティー山(二、四〇〇呎)麓の平野に位し、海岸からは約五哩距つてゐる。

同市は街路が廣くて整然としてゐるのと公園が多いのが特徴で、「死亡率世界最低」の健康市である。

州間鐵道はトンネル九つと高さ一〇〇以上の高架橋(陸橋)とによつてロフティー山を横切る。ロフティー山はアドレードの富豪の美しい住宅と庭園地となつてゐる。山の西側のレイネラとモーフェットツイルとの周圍には濠州で最も重要な葡萄園がある。ロフティー山から約四〇哩東のマレー橋で汽車はマレー河を横切る。この地方では古い河沼は埋め立てられて、埋立地には多量の野菜や玉蜀黍が非常に深い黒土に栽培されてゐる。

マレー河に沿つて一二哩行くとタイム・ベンドに達する。ここからビンナルまでの支線(九〇哩)とその他の數線は小麦が成功裡に耕作されてゐる巨大な農耕地域(雨量一〇—一四インチ)である。タイム・ベンドとサーヴィストン(ヴィクトリア州界)との間で、汽車は所謂「九十哩荒野」を横切る。この地方は主としてユーカーリ樹で覆はれた稍不毛の廣大な平野であるが、過燐酸肥料と冬季の雨量とで漸次小麦地帯となりつつある。(クランビン一七インチ、ビンナル一六インチ半)。

濠州の乾燥部の著しい特徴である表面石灰石についてアドレード大學のハッチン教授は興味ある説明を與へてゐる。同教授によると、これ等の石灰石は比較的小深度であるが、下にあるもつと古い岩の露出部に續いてこの地方數平方哩を蔽ふてゐる。これ等の石灰石は「九十哩荒野」やマリー地方の或部分のやうな絶對に不毛な瘠ろ瘦せた土地を與へてゐる。この地方では太陽熱による蒸發が過度で地表層の總ての水分を蒸發さすので、地下水がそれに代つて表面へ昇る。この上昇地下水は花崗岩その他石灰石等から溶解された石灰質やその他のアルカリ性のものを少量含んでゐる。この地下水も表面に達するや否や直ちに蒸發してしまふので、地面に石灰が堆積

この石炭水はまた珪土を溶解するので或地方では堅い石英殻が同じ方法で構成される。
グレゴリー教授は次のやうに述べてゐる。

「それ故、ヴィクトリア州西北平野の地理的性格とそこに成長する植物の性質は、地下水の分布とそれ等の水が熱い地表面に昇る間に溶解する物質の性質による。」(グレゴリー著「ヴィクトリア州地理」九五頁)

南オーストラリア州とヴィクトリア州との州界にあるボーダータウンから重要な支線が南に走つてマウント・キャンピアーの孤立地方に達してゐる。ここは噴火口湖と肥沃な土地で有名な火山地方で二五乃至三二インチの雨量に恵まれ、夏季の湿度は州中最低であるので避暑客が澤山集まるところである。この地方は「酪農家の理想的家庭」であると云はれ、林檎、梨、櫻實等も多量に産せられるが、馬鈴薯と玉葱が主な産物である。

第六節 ヴィクトリア州鐵道沿線の産業

ヴィクトリア州の西北地方の多くはユーカリ叢林で蔽はれてゐて、膨れた根を特徴とする一五呎ばかりの高さのユーカリ樹が密生してゐる。これ等の樹木は次第に取り拂はれて小麦耕作地となりつつある。

このあたりから鐵道は次第に昇つて複雑した一連の高地を横ざる。グレゴリー教授によると、この高地は地理學的見地からは非常に異つた要素からなつてゐるので、これを大分水嶺と呼ぶのは正しくないとのことである。

バララットで最も著名な濠洲金山の南の部分に達する。この地方では以前表面下數呎の重い粘土中から大きな金塊が発見された。しかし現今では金は主として鑛脈から取られてゐる。この地方はまた非常に繁榮した農園で

占められてゐる。主なる町はダノリー、ボセイドン、ベンデイゴ、メーリーバラ等である。

バララットは頗る繁榮した都會で、市民は同市を美しくすることに鋭意努力してゐて美しい公園、遊園地、大きな人工湖水、ウエンドウリー湖等は同市を非常に美化してゐる。この市から鐵道はバツカス・マーシユ峻坂を下つて首都メルボルンに達する。

グレゴリー教授はその著「ヴィクトリア州地理」中に、ヴィクトリア州鐵道發達史を次のやうに述べてゐる。

「大陸中最小の本州は大きな隣接州のいづれにも劣らぬほどの鐵道哩數を有してゐるが、その分布は産業發展と密接な關係がある。一八五四―一八六〇年はメルボルン周囲の郊外線建設の期間であつて、このうちにはジーンと港への線も含まれてゐる。一八六二年にバララット、ベンデイゴ及びその他の大鑛業中心地が首都と結ばれた。一八七三年シドニーと結ぶヴィクトリア州線が完成されたが、アデレードへの線はこの線ほど重要でないで、ずつと後れて一八八七年に漸く完成された。一八八〇―一八九〇年にドウナルド、ブーアト、ケラング等の西北平野が結ばれバツカス・マーシユ峻坂越へのバララットへの直通線が開かれた。(それ以前の線はジーン經由であつた)一八九〇―一九〇〇年に西北のマリー(ユーカリ樹の一種)平野に主要な鐵道が敷設され、レーンボウ、ホーブタウン、ウーメラン(この線は後年メルデュラまで延長された)、シーレーク、アルティマへ五つの並行線が完成した。」

幹線はメルボルンから東北に走つてゐる。東部では高低の甚しい北部ジブスランドの山脈が汽車の通過を非常に困難にしてゐるので、東部には重要な支線は走つてゐない。

アウンズ河盆地には澤山の金坑があつて、「深い鑛脈」——玄武岩で蔽はれた沖積層——がチルターンとラサーグレンで多數の坑夫に仕事を與へてゐる。ヤツカンダンダーでは砂金が採取されてゐる。

第七節 ニュー・サウス・ウェールズ洲鐵道沿線の産業

ニュー・サウス・ウェールズ州へ入つてオールバリーからはヴィクトリア州鐵道の軌幅五呎三インチが四呎八インチ半に變るので、ここでヴィクトリア州列車からニュー・サウス・ウェールズ州列車に乗り換へなければならぬ。

オールバリーは大部分マレー河岸の北と西に横はつてゐる河川地域中最大の都會である。鑛業（コロウアに於ける）、葡萄及び小麦栽培、牧羊がこの地方の最も重要な産業である。

線路の東にはコシアスコ山（七、三四〇呎）を頂點とする高低甚しい峻坂があるので、鐵道は東部へは越せないためにここから北上してゐる。

オールバリーと同じ産業地であるワガは鐵道がマランビジー河を横切るところにある。その北のジュニーからヘイ行の支線がビリンジャツク貯水池で灌漑されてゐる地方を通過してゐる。

クータマンドラで東部山脈の麓に達し、ここから濠洲中で最も重要な金山の一つであるワイアロングへ支線が通じてゐる。マランビュラにはニュー・サウス・ウェールズ州唯一の重要な^{ループ}匝線がある。ここから北に向つてヤング、コウラとブレイニーとパサーストを通過してシドニーへ行く線と、西部に向つてヤス、ゴールバーンを経

てシドニーへ行く線とが分れてゐる。

ヤングとコウラは州の西山側に於ける鑛業、農業、及び牧畜地方である。ヤス町の近くに聯邦首都キャンベラがある。ゴールバーン附近で鐵道は分水嶺を横ぎる。

ニュー・サウス・ウェールズ州當局は大分水嶺と云ふ語を用ひずに北部高地、中部高地、南部高地と呼んでゐる。高臺地と云ふ語はこの地方の一部にのみ適用するのであつて、三高地が二つの比較的低くなつた廣い地域で區分されてゐるからである、これ等の低地は「懸崖間地」と命名されてゐる。

鐵道幹線の南部線はジョージ湖「懸崖間地」を横切ると直ぐゴールバーンに達する。この町は人口一〇、〇〇〇で主として農業地である。ここから重要な一支線が高臺地に沿ふて南に走りクーマまで行つてゐる。クーマはモナロウ高原の主要な町で海拔二、六五七呎、スノウイー山とコシアスコ山へ登る入口にある有名な町である。

幹線沿線の次に重要な町はモスヴェールで、ここは避暑地としてブルー山脈地方に匹敵する。この地方一帯の大地域は溶岩のため土壤は肥沃で優秀な小麦を生産する。

汽車はキャムデン附近で急に平野に降る。キャムデンは濠洲最初の牧畜居住地である。ここから汽車は三疊紀の特徴である起伏地方を走つてシドニーに着く。

シドニーは濠洲一の都會で、この市とメルボルン市とだけで濠洲全人口の三分の一以上を占めてゐることは前に述べた通りである。この兩市の生活情態と産業状況は非常によく似てゐるが、メルボルン市の臨むホブソン灣はシドニー市の臨むジャクソン灣には到底及ばない。シドニーに於ける鐵道終點驛も亦メルボルン市の二驛よ

りも遙に堂々たるもので且つ便利である。しかしシドニー市の街路が狭くて曲つてゐるのに反し、メルボルン市の主要街路は整然としてゐて大都市の街路としてふさはしい。

ニュー・サウス・ウエールズ州の鐵道は全部シドニー市に集まつてゐるが、その發達史は興味がある。シドニーからバラマタへの一五哩の最初の鐵道が一八五〇年に着工された時に鐵道従業員は全部金山へ走つたので、この鐵道は一八五五年にやつと完成した。一八六九年にゴールドバートンまで延長され、一八八〇—八五年の期間に河川地域、ニュー・イングランド及びウエリントンとダボウの中心地方へ鐵道は延長され、マレー河を横切つてヴィクトリア州へも入つた。一八八五年以後の幹線の延長は大部分牧畜地を通過した。

ここで世界最深の橋脚をもつホークスベリー大鐵橋に言及しなくてはならない。この橋は一八八九年に竣工してシドニーをニューカースルとクインズランド州へ結んだ。しかしニューカースルからタムワースへの北部鐵道が開通したのはそれよりも十年前であつた。一八九三年には南海線が現在の終點ノウラまで開通した。その後が開通した線はコンドボリン、クーンアンブル、インヴァレル等の西部及び北部地方に通ずるものである。本州で唯一の孤立した線は、極東部の甘蔗地域にあるグラフトン、キャシノ、リズモー、マーウイランバーに行つてゐるもので、この線はクインズランド州の首都ブリスベンから分れて出でゐる。

クインズランド州の鐵道旅行を続ける前に本州の大西部線を一瞥して見よう。この線はシドニー・バラマタ線の延長で、ブルー山脈麓のペンリスまでは少しも困難な工事なしに進捗したが、ここでブルー山脈は突然三、〇〇〇呎の高さに上り鐵道技師を當惑させた。ブルー山脈越えの鐵道は一八七六年に雁木形（之字形）に屈折した

線路や澤山のトンネルによつて開通されたが、近年線路の變更があつて非常に改善された。この西部線開通はシドニーを距る約七〇哩の地に重要な一聯の避暑地を發達させた。そのうちでカトウーンバとマウント・ヴィクトリアが最も有名である。有名なゼノラン洞窟はマウント・ヴィクトリアの西南約三五哩にある。この洞窟は恐らく總ての鐘乳洞中の最善のもの一つであらう。

カトウーンバから鐵道は直ちに重要な産業地域リスゴウ盆地へ急降下する。この産業地域の中心地バサースト市はマコーリー河の上流にあつて小麦耕作と牧羊が盛んである。この線路はブレイニーを経てオレンジに行つてゐる。オレンジ町の北に有名な金山ソフアラ、ヒル・エンド、ハーグレーヴス、オウファアがある。

オレンジ町から出でゐる支線はフォープスやパークスの鑛山地方を通過してコンドボリンに達する。この地方では小麦が耕作されてゐるが、降雨が稍不確實なので收穫はいつも成功を収めてゐるとは限らない。

オレンジから北に向つてゐる主線は、西部峻坂の縁に位するダボウ町を通過し一平野を横切つて遙か西南奥地のパークまで行つてゐる。この平野は非常に平坦なので少しの高處でも皆丘と呼ばれてゐる。この線ではパークの主線よりもナインガンから分れて出でゐるコウバー行の支線が餘程重要である。本州の銅と金の大部分がコウバー及びその附近のナイマジヤーマウント・ボビーの鑛山から出るからである。

ダボウからクーンアンブルへ通ずる一線は重要な牧畜地を通過し、また重要な一線がケーパーティ附近の廣大な石油質鑛山を通過してリスゴウ附近からマツジーに走つてゐる。

シドニー郊外を去つた後、北部鐵道はホークスベリー河を横切つて亘ぐ石炭層地域に入る。この地方は非常に

肥沃な地方であるが主要産業は勿論採炭業である。炭坑中心地ニューカースルは非常に繁榮してゐる。

北部線はニューカースルから西北に向つて肥沃なハンター河盆地を走る。この盆地は屢々大洪水に見舞はれるが玉蜀黍とむらさきうまごやしを多量に生産する。スコーン町の北に眞の意味での「燃焼山」マウント・ウインゲンがある。この山は火山ではなくて、地下の石炭層が多年燃え續けてゐるのである。

マラランデイで鐵道は分水嶺を横切つてクイリンデイとタムワースの肥沃な盆地に達する。この地方では穀類耕作と牧羊が盛んであるが鑛業も行はれてゐる。ナラブリとモリーへの一支線は北小麥地帯を横切り、インヴァレルへの延長は本州の主な錫及び寶石生産地へ達する。

タムワースから鐵道は次第に上り主として花崗岩から成る北部高臺地の頂上に沿ふて走る。アーミデルが主要な町で、この附近では牧畜と農業が主な産業である。アーミデルの東に極めて高低の甚しい地域があつて繪のやうに美しい瀑布や峡谷が多数にある。ここからクインズランド州界までの間には重要な町はない。

第八節 クインズランド州鐵道沿線の産業

ウォランガラ・ゼニングスで汽車はクインズランド州へ入るので、軌道は三呎六吋となるから汽車を乗りかへなければならぬ。これがウドナダッタからロンググリーチまでの三、〇〇〇哩の汽車旅行中第三回目の乗り換えである。即ち第一回はテロウイー、第二回はオールバリー、第三回はウォランガラ・ゼニングス。郵便列車はアデレードからメルボルンまで一七時間、メルボルンからシドニーまで一七時間、シドニーからブリスベン

まで二七時間かかる。

クインズランド州の首都ブリスベンは州界から餘り離れてゐないので、汽車は本州に入つてからウォリック、トゥーウンバ、イブスウィッチを通過して間もなく首都に達する。

トゥーウンバは高臺地ダーリング・ダウンズに於ける主な町である。ダーリング、ダウンズは主として玄武岩層で、降雨良好、濠州中最も繁榮せる農業地域の一つであり、イブスウィッチは重要な炭坑地域の出口である。

ブリスベンは美しいブリスベン河に臨み濠州第三の都會であるが、シドニーやメルボルン級ではなく寧ろアデレード級である。しかしクインズランド州では人口は他の何れの州よりも中央に集中してゐない。

トゥーウンバから分れて長さ六〇〇哩の大西部線はローマ、チャールズヴィル、カナンミュラ等の牧畜地をブリスベンに結んでゐる。カナンミュラはこの線の終點である。

クインズランド州は良港を備へた長い海岸線を有してゐるが、その海岸は稍々高低があるので諸都市を首府に結ぶのは海岸線よりも寧ろ各港から放射してゐる鐵道である。従つてロックハンプトンから四〇〇哩内陸に延びてゐる線は海岸町ロックハンプトンとグラッドストーンを結ぶ僅か七〇哩の鐵道よりも前に開通した。

北部海岸鐵道は海岸に沿ふて去り有名な「硝子張り家屋山脈」(Glass House Mountains)を通過する。この山脈は圓頂であるのでクツクがかく命名したのである。汽車は重要な金山中心地ジンビーを通過し肺魚セラトダスの棲むメーリー河に沿ふて下る。メーリーバラは甘蔗栽培地方の中心地で重要な鑛造所もある。この山脈の背後地方は「クインズランド・カウリ」のやうな貴重な材木に富んでゐる。

ジンビーとメーリーバラの中間で分岐してゐる一支線はキルヴァン鑛山を通過してその先の鑛山地方まで延びてゐる。またメーリーバラからはゲインダー鑛山へ一支線が通じてゐる。

次に大きな町は重要な砂糖地域の中心地バンダバーグで、更に北へ進むとホート・カーティスに臨むグラッドストーンに達する。グラッドストーンは濠洲の植民地開設初期、當時の英國首相ビットが私設会社に投資して土地開發を試みた地である。バンダバーグとグラッドストーンの背後地は盛大な牧牛地である。

次のロツクハンプトンは南回歸線上に位し、ブリスベンの北三八〇哩フイツツロイ河右岸にあつて本州中最も重要な都市の一つである。數ヶ所の埠頭には一、五〇〇噸級の船舶を横づけにすることが出来る。ここから鐵道は眞西に向つて中央線の終點ロングビーチまで四二八哩延長してゐる。ロツクハンプトンの西北二六哩に嘗て豊富に金を産出したマウント・モーガン金山がある。この金山の金は珪華（珪質の水あか）中にあるので、間歇泉によつて沈澱されたものだとの説がある。現今では金の産額は非常に減少してゐるが、下層には銅鑛石が豊富にある。ロツクハンプトンは濠洲重要牧牛地域の出口になつてゐる。ここには大規模の牛肉工場がある。

しかし中央線は概して牧羊地を走り、この沿線にあるパークヤルティンから一〇〇哩の半徑内はクインズランド州で最も多數の羊の飼育されてゐる地域である。

ロングビーチはウドナダツタから出發した長い環狀旅行の終點で、ここからウドナダツタへ立派な家畜道路が通じてゐる。

この中央線のゼリチヨウから支線がブラコールを経てウエルフォードまで延長してゐるが、この地域は大牧

羊場である。このウエルフォードを中心として南はカナンビユラ、北はクロンカリーまでの間の地方では本州の名産蛋白石が隨所で採掘されてゐる。

幹線を更に北上し炭坑地と小金山地を通過してマツカイに達する。マツカイからイートン、ミラナイ、ラングトン、ハトン等の鑛山地方へ支線が分岐してゐて、マツカイはこれ等鑛業地の産物の集散地として重きをなしてゐる。

次のパウエンからはウオンガラツタの鑛山地方へ短い支線が出てゐるだけであるが、パウエン地區は濠洲隨一の煙草栽培地であり、また奥地の金山の出口として重要な町である。

更に北上してその次の重要な町はタウンズヴィルである。

タウンズヴィルから西南のウイントンへ向ふ三六八哩の線はチャーターマス・タワーズの盛大な鑛山地方を通過する。チャーターマス・タワーズは人口四〇、〇〇〇以上を有し、クインズランド州では珍らしい大都會で高い花崗岩地方に位し、有名な鑛山の坑頭の滑車框があらゆる方向の家々の上に見られる。ここはまた一八七二年に最初の鑛業地探査人モスマンの一行が馬を停めた地である。一九〇五年のまでに約五、二六六、七五四オンスの立派な金が採取されたが、現今では産額は非常に減少してゐる。

この線の終點ウイントンと中央線の終點ロングビーチとは僅か一〇〇哩しか離れてゐなくおまけに平坦な西部平野地であるので、この兩驛を結ぶには樂な工事であつた。

この線はまたハーゲンデンで分れて遙か内地のクロンカリー銅山まで開通してゐる。クロンカリーの南には二

ケ所に小金山がある。

ケーアンスから私營鐵道がチラゴウとそれに隣接した鑛山地方に敷かれてゐるが、この線はバロン河が一聯の瀑布となつて六〇〇呎落下してゐるバロン峡谷を通過する。この大瀑布は實に壯大である。

クツクタウンからローラへ通じてゐる短い線は熱帯果實、王蜀黍等の栽培地を通過し、この沿線附近には金山もあるが、その重要性においてはケーアンス・チラゴウ線には及ばない。

第九節 西オーストラリア州及びタスマニア州鐵道沿線の産業

西オーストラリア州の鐵道は採金鑛業と林業を基礎として遠く離れた三地域に別個に開通した。

一八七九年にゼラルドトンからノーザンプトン金坑へ敷かれたものが最初の鐵道で、この線は現在ではゼラルディンまで延長してゐる。ゼラルドトンを起點として東部の内地に通じてゐる鐵道は、ミドルワ、ヤルグー、マウント・マグネット、キュー、ナンナイン、メカサラ等の金山地方を通過してビーク・ヒル金山に達し、マウント・マグネットから分岐してゐる線はサンドストーンまで延長してゐて、この線が東マーチゾン金坑區まで開通する日は遠くはあるまい。この線はまたミドルワから南下して首都パースと連結してゐる。

一八八一年にフリーマントル・パース間に敷設された鐵道は遙か東部の内地に延長して、ノーサム林業地、ザン・クロツス金坑地、有名なクールガーデイ、カルグーアリーの金坑地を経て、東に向つてはアデレードと連結して濠洲大陸横斷鐵道となつてをり、カルグーアリーから北に向つてはラヴァトン銅山まで延長してゐて、こ

の沿線は到るところに金山がある。マルコームから分れてリトオーウラまで開通してゐる線は東マーチゾン金坑區の金を運輸する重要な役割をつとめてゐる。またクールガーデイから南下してゐる鐵道はダングラス金坑區を通過して南海岸のエスペランスに達してゐる。

一八九一年に農業地域及び林業地域に於いてバンベリーからボヤナツプまで開通した鐵道は、南下して現在では南部海岸まで達してゐる。この地域は主として林業地であるが、西濠洲隨一とも云ふべきコリー炭坑がある。

パース・カルグーアリーの線のノーザムから分れて南下してゐる鐵道は南海岸の要港オールバニーまで通じてゐるが、この沿線は本州の産業に最も重要な役割を演じてゐる林業地域と農業地域である。

タスマニア州の孤立した位地と小地域は同州の鐵道組織を他州のものより重要性を餘程少くしてゐるから餘り述ぶるほどのこともない。主要線は三呎六吋で西北の鑛業地には二呎幅の狭軌道もある。

第四篇 植民問題

第一章 濠洲と植民

第一節 新生命の開拓地とビット内閣の二大問題

新生命の開拓地 政治を研究する者或は政策を検討せんとするものにとつて、濠洲及びニュージーランドほど興味あり且つ参考とすべき資料を提供する國は恐らく他に多くはないであらう。

大東亞戦前までは、わが國の内務省、農林省、商工省等からもこの兩國視察に屢々事務官を派遣した。

この兩國では古い規定を新しい環境に適應させた効果や、新政策を樹立し或は他國では未だ假設的段階を出ない理論を思ひ切つて實際に適用した結果等に就ての顯著な例が少からず見られるのである。

この兩國は無限の産業可能性ある土地を有してゐるので、その初期に於いて異つた政府の支配下にあつたら今日の世界に於いてもつと世の脚光を浴びてゐたかも知れない。實にこの兩國こそ、過去に拘束されることなき純眞な思想や健全な方策の理想を實現するに最も適した環境に神が保存して置いた土地であつた。自然の神が人間を移住させ、以前よりも誠實な新生命を開拓すために新しい土地を大洋の底から持ち上げたかのやうで、古い文句で云へば「舊世界の均衡を正しく調整するためにこの新世界を出現させた」と云つてよからう。

北半球の人口過剰な國民にこの新世界を與へて、再生の大計畫を實行させるこんな好機會は未だ嘗てなかつたのである。

この兩國は文化人の主なる居住地とは海陸數千哩を距て、廣大な土地と熱帯の暑熱の氣候から氷雪を敷く寒冷な氣候に至るまでのあらゆる種類の氣候とをもち、又、人類が必要とする總てのものを生産することの出来る土地を有し、しかもこの兩國には放逐すべき有力な原住民はゐなかつたのである。これこそ實に舊世界の數世紀に亘る虚偽に充てる迷信的失政の傳統をかなぐり捨てて、夢想された理想郷を實現さすべき新國家を建設すべき土地であつた。

ビット内閣の二大問題 しかも、クツクの濠洲發見が成功を収めたに拘らず、この大陸はなほ暫く英本國からは没却されてゐたのである。當時のビット内閣は内外多端で、南半球の新大陸などに關心を寄せる餘裕はなかつた。殊にアメリカ獨立戦争は英國が直面した最大問題であつた。

アメリカ植民地の反亂から生じた獨立戦争は一七八二年に終り、その結果、イギリス政府は二大問題に直面させられた。

その第一はアメリカ王權黨の處置問題であつた。即ち獨立戦争中、英國に對して終始忠誠を盡したアメリカ移民の始末であつた。勝利を博したアメリカ人はこれら王權黨の人々を實に苛酷に取扱つた。彼等の財産は沒收され貸金は回収することが出来ず、その多數の者は國外放逐の憂目に會はされた。彼等の大部分の五萬人以上の者はカナダ、ノウヱア・スコチャ及び西印度に逃れたが、戦後に英國軍隊と共に英本國に引き揚げた者も多かつた。そして彼等はロンドンで悲惨などん底生活に陥つた。これらの人々をいかに取扱ふべきかが英國政府の直面した一つの問題であつた。

第二は従來英國刑法によつて囚徒をアメリカに送つてゐたのを、アメリカの獨立後停止するに至つた結果起つた問題であつた。十八世紀には大多數の囚徒をアメリカ植民地に送るのが慣習であつて、一七一七年から獨立戦争までの間には少くとも五萬人の囚徒がアメリカに送られてゐた。しかし、今やアメリカは英國から獨立したものであるから、囚徒をアメリカへ送ることは出来なくなつた。しかるに、英國の法律は依然として流刑を一の刑罰としてをり、裁判官にその判決を下させてゐたので、これ等の囚徒を收容する刑務所は漸く狹隘を告げるに至つた。毎月流刑の判決を受くる者の數は増加する許りであつたのに、彼等を送る場所はなかつたのである。従つてこの問題の解決は焦眉の急を要するものであつた。政府は南アフリカに流刑地を物色して其處に數百人の囚徒を送つたが、その地は實に疫病と飢饉と原住民の殘忍な刃が待つてゐるばかりで、エドモンド、バークの議會に於ける政府攻撃の文句をかりて云へば「英國で斷頭臺の露と消えさす方が、アフリカの氣候と野蠻人に殺させるよりは遙かに慈悲」であつた。

この二問題を解決することがウイリアム・ビット内閣の責任であつた。

ビットに遠大な植民計畫なく、シドニー卿も先見の明を缺く 二大問題に直面してゐた當時の英國政府に取つて榮光ある試験の機會は決して缺乏してはゐなかつた。英國政府は少くとも忠誠なアメリカ王權黨の人々をこの新發見地ニュー・ホランド（濠洲の最初の名）へ移住さすべきであるとの議が擡頭した。

ニュー・ホランドに適當な囚徒移住地を見出すことが出来ると、最初に提案したのは植物學者としてクツクと行を共にしたジョセフ・バンクス卿であつた。しかし政府はその提案を取り上げなかつた。それから四年後、ク

ツクの下でエンデヴァー艦乗組の少尉候補生であつたゼームス・マトラは、王権黨の人々をニュー・ホランドに移住させて支那人と南洋原住民の労働力を用ひて土地を開墾すべしとの案を、時の國務相で拓殖司獄のことをも併せて見てゐたシドニー卿に提出した。

次いで一七八五年ジョージ・ヤング提督もニュー・ホランドへの王権黨員と囚徒との移住案を詳細に立ててこれを政府に提出した。かくてアフリカに於ける移民の失敗と共にニュー・ホランドを適當な移民地と見る議論はつひに政府を動かすに至つた。しかし首相ビットに遠大な植民計畫なく、國務相シドニー卿も先見の明を缺いてゐたので、濠洲は良心に従ひ忠誠と確乎不動の精神を發揚して崇高な性格の持主であることを證明した、しかも移民に經驗ある人々の移住地とはならずして、英國民中でも醜劣な人間の屑を投げ捨てる芥捨場となされたのである。ビットのやうな大政治家の頭にも、英國は南半球に新しき大國家建設の基礎を築くのだと云ふ觀念は全く浮ばれなかつたのである。若しビットが王権黨員の苦境を念頭に置いて彼等に優先權を與へ、ベーコンの「閣下が移住させる人々が人間の屑で、邪惡の罪人であることは實に羞づべく、且つ慨嘆すべきことである」との警告を無視しなかつたならば、ビットの榮光は永久に一層光輝を増したことであらう。ビットは眞劍に一つの植民地を創設することを考へたといふよりも、むしろ囚徒の處置といふ當面の難問題の解決に腐心したのであつた。しかしわれわれがその永續性によつて政治問題の重要性や、その究極の價值や、その人事に及ぼす廣大な結果などを判斷すると、ニュー・サウス・ウェールズ州の建設は確かにビット内閣によつて成就せられた總ての政策中で最も重要なものであつたと云ふことができる。一七八六年に是認せられた植民地から、英國の寶庫たる今日の濠

洲聯邦は生れたのである。

第二節 植民の當初

ジツクソン灣の移民 クックが濠洲の東海岸を英領としてから十六年目の一七八六年八月十八日、いよいよシドニー卿はニュー・ホランドへ囚徒を移住させる準備をせよとの正式命令を下した。新植民地に於ては初代總督の手腕に負ふところが頗る多大であるから、シドニー卿自らその人選に當つた。この大任を託されたのはアーサー・フィリップ海軍大佐であつた。

一七八七年五月十三日、フィリップの率ゐる「第一艦隊」は英國を出帆した。この一隊は「シリウス」「サイラス」の二艦と、三隻の糧船と囚徒を載せた六隻の運送船から成つてゐた。途中、リオデジャネイロと喜望峯とに寄港して食糧品、家畜類、種子等を積み込み、一七八八年一月十八日、一行はボタニー灣に到着した。海岸地方を數日間調査したが、灣は開放し過ぎてをり海岸地帯は沼澤で圍まれた上に地味は瘦せてゐるので、フィリップはこの地が植民地として不適當であることを認め、ボートで北上してジャクソン灣に行つた。そこで彼は、彼の言をかりて云へば「一千隻の船舶が最も安全に入港出来る世界一の港を見出して満足した」のである。

フィリップが選定した場所はあらゆる方面から見て彼が熱烈に賞揚しただけの價值は十分あつた。大きな灣の南側に位して多くの深い入江があり、その周邊には樹木が鬱蒼と繁茂して、見る目に美しく、二百哩に亘る臨海地域は商業地としての無限の範圍を提供した。フィリップはボタニー灣に引つ返すと、直ちに「全員新發見地に

向ふべし」との命令を下し、總員一、〇三〇名の移民全部は一月二十六日ジャクソン灣に移つた。彼はこの地を彼を選任した當時の國務相に因んでシドニーと命名した。そして詩人キャンベルが「シドニー灣の長い小島を見るの運命に陥る」と云つてゐるやうに、その後長年幾千の囚徒が此處に送られたのである。

やがて自由移民も續々渡來して濠洲植民發祥の地シドニーは急激な進歩發展を遂げ、今日では初代總督フィリップの「この地は數代を経ずして南半球の中心——南洋中最も光輝燦然たる寶石——となるだらう」との豫言は的中した。

ボタニー灣のフランス船 フィリップがジャクソン灣からボタニー灣に歸つた直後、二隻の外國船がボタニー灣に近づいて來るのが見られた。その時、即ち一月二十四日の朝、フィリップは全員をジャクソン灣に移す準備をしてゐたが、この外國船の到着を待つのは得策でないと思ひ大急ぎで準備を完了した。フィリップが監督として残して置いたシリアス艦長ハンター大尉がまさに出帆しようとする時、その二隻の外國船はボタニー灣に入港した。これはコムト・ド・ラブルースの率ゐるフランス探險隊であつた。

フランス人がボタニー灣に入港した理由はラブルースの手紙や日誌で極めて明瞭である。彼は太平洋で探險に従事してゐたが、サモア群島中の一島で二隻の長艇に乗つてゐた彼の部下の船員が原住民によつて殺戮され、その長艇は破壊された。ラブルースは二隻の新艇建造の材料を豫備してゐたので、何處か靜かな港に入つてそれを組み立てるつもりであつたが、彼は激昂してゐる船員がまた島民と鬭争してこの上生命を失ふ者が出るのを恐れて、南洋諸島中のどの島へも上陸することを避けた。そして思ひ出したのがクックの航海記にあるボタニー灣で

あつた。彼は其處へ行つて船の修理をするつもりであつた。ラブルースがボタニー灣を佛領とするつもりであつたとかその附近に佛領植民地を建設する意向であつたとかいふ説は、これで見ると純然たる臆測のやうだ。しかし兎に角、彼がボタニー灣に入るのがフィリップより數日遅れたために濠洲全土が英領となるに至つたのであるから、運命といふものは實に不可思議なものである。

ラブルースは三月十日までボタニー灣に滞在し、その間屢々英國士官の訪問を受けて極めて親密に交際し、再び太平洋に乗り出したが、不幸にもヴァニコロの珊瑚礁に乗り上げ海底の藻屑となつた。

私は一日、シドニーから程遠からぬこの濠洲植民發祥の地を訪れたが、彼の名に因んで命名されたボタニー灣頭のラブルースには簡素な彼の上陸記念碑があり、そのすぐ附近にはイギリス人によつて國土を奪はれ絶滅に瀕してゐる原住民の小部落が、濠洲政府保護の下に微かな存在を續けてゐた。對岸のカーネルは公園となつてゐてキャプテン・クックの銅像と記念碑が聳えてゐた。失意と得意の象徴の皮肉な對照を眼のあたり見て、私は感慨無量なものがあつた。

初代總督フィリップの功績 フィリップが使役した人間の扱ひにくい性格や植民の當初に他から仰がねばならなかつた材料の入手難などから來る種々の困難は到底筆舌には盡せない。しかし彼は萬難を排して着々と開拓を進めた。「彼等の多くは幼少の頃から非常に遊惰に育てられてをり、そのなすがままにして置いたなら恐らく餓死するほかないであらう」と彼は報告をしてをり、また「無秩序で御し難い者を當植民地に送れば、本國の刑務所は清掃せられ、彼等が送り出される教區は負擔を軽減することになるであらうが、送られる當植民地は自給自足

の植民地とはならずして、この状態が継続せられる限り多年に亘つて絶えず母國の負擔とならざるを得ないであらう」と訴へてゐる。彼は行狀よき囚徒には寛大な處置を講じて改心を奨励し、本國に對してはその行動が一般の模範となるやうな正直で勤勉な移住民を送るやう懇願した。

生活必需品は本國からの供給に依存してゐたので、輸送の途中に一隻の船でも遭難すれば勿論のこと到着が遅延しても全移民が饑餓に苦しんだのである。シドニーの食糧難を緩和するため囚徒二百名を一七八八年以來植民を開始してゐたノーフォーク島に移住させたこともあつた。彼の部下の一士官が「費用をかけて囚徒を當地に送るよりは寧ろロンドンの宿屋で鰻や鹿肉で彼等を養つた方が安上りであらう」と書き送つた程、移民の生活を支へるには費用と手数がかつたのである。

しかしフリッツはこの新植民地に確信を持つてゐた。港が立派なだけでは一千人の口は養はれる筈がない。しかもシドニー近郊の土地は非常に瘦せてゐるのだ。そこで彼は道路開通其他公共事業に全力をつくし、植民地開拓に貢献するところ多大であつた。

囚徒移民は植民の一大障碍 濠洲及びニュージールランドに於ける殆んど總ての問題もさうであるが、殊に移民問題と土地問題を研究するに當つては植民地開設の初期に遡ることが最も必要である。七植民地中少くとも五植民地に於いてはこれは必須のものである。

最初の移民は既に述べた通り自由移民ではなかつたので、植民地を振興させんとする最初の努力は、大部分の移民が醜劣極まる人間であつたといふ事實で甚しく阻害されたことを銘記しなければならない。この點は將來南

方に雄飛せんとするわれわれ日本人が他山の石として大に考慮を拂ふべき點である。

最初の濠洲移民は峻厳な拘束下に置かねばならない必要があつたため、身心共に健全で確實な基礎の上に新國家を建設する資質ある經驗者を植民させて濠洲を開拓させることが出来なかつた。

移民といふ語の眞の意味に於ける最初の移民を包括する自由移民さへも、前述の事實が存在する結果、諸制限によつて妨害されて、結局この廣大なる大陸の開拓は不自然の條件下になかも法律を無視してなされたものであつた。

實際、濠洲植民地開設當初には道義心ある人々を移民としてこの大陸に入れることは困難であつて、正しい種類の人間が移住し始めたのは囚徒要素が非常に強固な地歩を占むるに至つてからであつた。濠洲大陸及びタスマニア島の植民問題を考究するに當つては、この事實を特に銘記して置かなければならない。南オーストラリア州の場合を除いて、殘餘の五植民地は皆流刑囚徒移民制度の影響を蒙り、植民地發展を阻害することが實に甚しかつた。

第三節、流刑囚徒植民地

ニュー・サウス・ウェールズ州 既に述べた如く、一七八八年ジャクソン灣に英國の流刑徒植民地が開設されたのが、濠洲植民地の最初であつて、爾來四十餘年間、濠洲各地に散在する植民地は皆この植民地の管轄下に主として流刑囚徒植民地として徐々に發達して來たのであるから、初期の濠洲發達史はつまりニュー・サウス・ウ

エールズ州發達史だと云つてよい。

最初ジャクソン灣岸に上陸した移民は流刑囚徒移民とそれを監督する少數の軍人から成り、其の後に自由移民が次第に渡來したが、自由移民の人口が囚徒と釋放された者との數を凌駕するに至つたのは遙か後年のことであつた。

本州は各植民地が分離して各獨立州となつた今日に於いても、人口、氣候、産業、交通、資源、貿易、その他すべての點に於て、濠洲一の州であり、重鎮である。

タスマニア州 一六四二年オランダ人エーベル・タスマンがこの島を初めて發見した時には、彼は當時のジャバ總督の名に因んで、ヴァン・デール・メンス・ランドと命名した。

ナポレオンが歐洲の天地を震撼してゐる頃、フランスの探検家が濠洲の南海岸を調査してゐることを知つたシドニーの植民地總督は、一八〇三年、急遽ヴァン・デール・メンス・ランドの南部にあるストーム・ベイ（嵐灣）を占領し、ささやかな補助植民地を開いてニュー・サウス・ウエールズ州の管轄下に置いた。これが濠洲の最も美しい都會の一つとなつてゐるタスマニア州首都ホバートの前身である。

ニュー・サウス・ウエールズ當局は惡質の囚人をここに送り、續いて英本國もボート・アーサーとマコーリー港の二箇所に刑務所を設けた。こゝは囚人取扱ひの苛酷を極めた點で有名であつた。脱獄囚が山中や叢林に逃げ込み強盜や匪賊となつて同島に恐怖時代を現出したことも有名である。

同島は二十二年間、ニュー・サウス・ウエールズ總督の管轄下にあつたが、一八二五年に至り母州から分離し

て獨立の植民地となり、一八五三年、流刑制度廢止と共にヴァン・デール・メンス・ランドはタスマニアと改名され、この小さな島は一州として發達し、農業と果實栽培を主要産業とし、鑛業と林業を併せて行つて來た。

ヴィクトリア州 一八〇三年頃、ボート・フィリップにもシドニーに於けると同様な流刑囚徒植民地を開設せんと計畫が立てられたが、この計畫は失敗に終り、この地方は多年「未知の地方」となつてゐた。

しかるに山岳の多いヴァン・デール・メンス・ランドは、移民が増加するにつれて間もなく廣大な牧場を經營するには狭過ぎるやうになつたので、野心家は他を探し始めた。最も自然な順序として、對岸の濠洲本土を物色することとなつた。

一八三四年、エドワード・ヘンティイは對岸のボートランドに移住し、翌一八三五年、ジョン・バットマンはボート・フィリップに渡り河口に入つて土地の美しいのと肥沃なのを知つた。彼は若干の斧と硝子と硝子玉の首飾りを原住民に與へて彼等から六〇〇、〇〇〇エーカーの土地を得た。これがボート・フィリップ地方に植民地が開かれた始めて、ヴァン・デール・メンス・ランドがニュー・サウス・ウエールズ州から獨立してから丁度十年目である。

その後探検家ミツチエルがシドニーからヘンティイの農場まで旅行して南部海岸地帯の豐饒なことを稱揚した。これ等のことがヴァン・デール・メンス・ランドの人々に知れ渡ると、われもわれもと先を争つて家畜を引き連れて新植民地に移住して來た。

この新植民地は、初めはニュー・サウス・ウエールズ州の管轄下にあつて多數の囚徒がこの地に移された。

バララットやベンデイゴで金が発見されてから移民が殺到し人口が激増するに及んで、一八五一年、母州から分離して獨立し、ボート・フィリップ當時の英國女王の名を取つてヴィクトリア州と改名された。

一八三五年、ヤラ・ヤラ河岸に建てられた數軒の小屋から成る小さい部落のバットマン村が、つひに人口百萬を超える首都メルボルン市に發達し、ヴィクトリア州そのものも今日では濠洲第二の繁榮州とまで發達したのであるが、この州も最初は流刑囚徒植民地として開かれたものである。

クインズランド州 ジャクソン灣に最初の植民地が開かれてから間もなく、シドニーの北方五〇〇哩のところ
に良港ありとの探検家オックスリーの報告に基き、一八二四年、植民地當局はその港に刑務所の分監を設置し、そこに囚徒を送つて新植民地を開き、その港をモートン灣と命名した。そこは實に寂寥たる場所であり、おまけにそこでは懲戒方法も苛酷であつたので、その後十五年間はモートン灣の名を聞くだけでも囚徒は震へ上つたものであつた。しかし一八四〇年には、この周囲は牧羊、牧畜に好適の土地があることが明かになつて自由移民も續々と移住して來た。現今最も優秀な牧草地帯となつてゐるダーリング・ダウズと呼ばれる高原はモートン灣から二〇〇哩の奥地にあつて、無所有者地であつたのでスコッターが殺到して、一八四四年には既にこの高原に二〇〇、〇〇〇頭の羊と六〇、〇〇〇頭の牛が飼育されてゐる將來の有望性が確認された。北部の原住民は南部のものより狂暴であつたため、植民地の擴張に伴ひ移民と原住民との間に紛争が起り、原住民慘殺の悲劇もあつたが、原住民から團體的の強烈な攻撃を受くることは全然なかつた。

この地方は、一八五九年、正式にニュー・サウス・ウェールズ州の管轄を離れ、クインズランドの名で新植民

地として獨立した。

ブリスベン河岸に位する本州首都ブリスベンは次第に發達して濠洲第三の都會となつてゐる。母州から分離した當時は人口僅二萬五千人であつたが、その後激増して、今日の盛況を見るに至つた。

第四節 自由移民植民地

西オーストラリア州 一八二六年、フランスの侵入を防ぐために濠洲大陸の西南隅オールバニーにイギリス軍隊駐屯所が設けられたのが本植民地開設の始めであつた。この時シドニーから囚人の一小團體と兵士の分遣隊が來て一時この地を占有してゐたが、フランスの脅威が去つた時に軍隊も囚人團體もシドニーへ引き揚げたので、囚徒植民地として發足する運命を免れた。

翌一八二七年、海軍大佐スターリングの率ゐる探検隊は西南海岸に上陸して、オランダ人が嘗て *Milk swan* (日本語に譯すと「黒い白鳥」)であつて、實に矛盾した名で、この世には存在しないものとされてゐた)が水面を埋めてゐたとスオン・リヴァー(白鳥河)と命名した美しい河を調査し、それが貴重な價值あることを報告したので、當時のニュー・サウス・ウェールズ總督は同大佐をイギリス本國に歸らせて、スオン河流域に新植民地を開くことを力説させた。しかしニュー・サウス・ウェールズ州に擴張の餘地が無限にあることが明瞭であつたので、本國政府はスオン河流域占領には食指を動かしたが經費をかけて植民地を開くことは好まなかつた。ウェスタン・ボート、オールバニー、メルヴィルランド等に少數の囚徒を移住させて英國旗を樹てさせ「これは全部

英國領土である」と言つて外國勢力の侵入を防げばそれで十分だといふのが、當時の英國政府の見解であつた。獅子が飽食後、後刻夜食に食べるものに一本の足を置いて横臥してゐるといふのが英國の態度で、飽くまでアングロ・サクソン民族の貪慾性を發揮してゐる。

しかしスタリーングの報告によつてスオン河地方の將來性を認識したイギリス人もあつた。その中の一人トマス・ビールは移住の計畫を樹てて折衝の結果、政府の許可を得て、土地を下附されたので一、〇〇〇名の移民を連れて一九二九年フリーマントルに到着した。これが政府から補助も受けずまた囚徒要素もない植民地を濠洲に開設せんとの最初の試みであつた。

移民は團體組織とし、十一人の中五人は女であること、移民は自費で移住し移住後は自ら生活を立てること、投資額各三磅につき四〇エーカーの地を與へること等の條件であつた。

一攫千金を夢みる多くの移民はやがては大農場主となる空想を胸に描きながら渡濠した。中には苦しい金の工面までして身分不相應な高價な家具類まで持参した者もあつた。しかも圖面の上では立派に見ゆる廣大な區劃地も買取つて實物を見れば荒涼たる砂原に過ぎなかつた。こんな状態であつたので西オーストラリア初代總督スタリーング大佐は河口フリーマントル港が植民地として不適當であることを認め、移民の一行を連れて河口から數哩距つたガーデン島に移つた。移民がこの島で送つた數ヶ月間の生活は窮乏の極に達したものであつて、中には原住民と同様な原始的生活をすることもあつた。

やがて彼等は美しいバースを發見してここに移住した。そしてそこを首府と定め、フリーマントルを當座凌ぎ

の外港とした。その後、移民船は相次いで到着し、一八三〇年一月までに二五隻の船で八五〇人の移民がスオン河植民地に渡來し、その地の人口は一、三〇〇になつた。

しかし試験的に行はれたこの植民事業は最初は失敗の連続で、唱道者ビールも手を焼き投資した五〇、〇〇〇磅は殆んど全部失つた。

西オーストラリア州は日本の十倍もある廣大な地域であるが、ここに僅か一千人内外の人間を移住させるのであるから移住民は各自非常に離れて散在しなくてはならなかつた。しかも各所に原始林が鬱蒼と繁茂してゐる道路の開通を阻み、甚だしい水不足の上に原住民との争もあつた。これ等がその失敗の原因である。

かうした状況の下において成功を収めるには極めて頑強で勤勉な移民を必要とするのであるが、一攫千金を夢みて渡濠した移民中にそんな人を多く求めることは至難であつた。多くの移民は奥地開拓に失望して折角開拓しかけた土地を放棄し植民地の中心地バースに集つたが、金のある者の中にはスオン河植民地を斷念しどしどし東部の植民地に移住して運命開拓を試みた者が多かつた。そして意志が鞏固で金のない者だけが踏み留つて頑強に運命開拓に猛進した。

實にこの植民地の移民は最初十年間は發展の機會もつかめず、繁榮の端緒を見出し得ずして苦闘した。當初に於いて初代總督スタリーングの不撓不屈の精神的努力に負ふところは頗る大であつた。當時はまだ西オーストラリアの荒野の砂の中に素晴らしい金が隠されてゐやうとは誰も夢想だにしなかつた。

一八五五年、西オーストラリアのカルグアリーに金が發見されるに及んで、兎運の星の下に喘いでゐた同州に

初めて芽が出て急激な発展を見るに至つたのである。一八八六年から一九〇五年までの間に西オーストラリアは
 總計五八、〇〇〇、〇〇〇磅の價格の金を産出してゐるが、その大部分はカルグーアリー附近の有名なゴールド
 ン・マイン（金坑）から産出したのである。

西オーストラリアの移民は最初流刑囚徒の移民は絶対に許さないと堅い決心と理念を持つてをり、ニュー・
 サウス・ウェールズやヴァン・デームス・ランドと異り自由移民を以つて創設されたといふ一種の誇りを持
 つてゐるが、この植民地が次第に發展して労働力が不足して來ると、決然誇りを捨ててこゝも囚徒移民を許すよ
 うになり、約二十年間、英本國から流刑囚徒の移送を受けた。

南オーストラリア州 ボート・フリッツ地方にニュー・サウス・ウェールズ管轄下の新植民地が開かれたと
 同時代、即ち一八三五年から一八三七年に亘つてセント・ヴィンセント灣岸にウエークフィールド植民案の試験
 地としてアデレードを首都とする南オーストラリア植民地が創設された。

この州は他州と異り初めから合理的な植民案によつて開設されたものであるが、氣候、水利、資源等に於いて
 他の諸州ほど恵まれてゐなかつたので、理想通りには發展せず、濠洲各州中第二の廣大な地域を占めながらその
 發展は極めて遅々たるもので、今日に至るもまだ繁榮せる州とは云へず、理論と實際は必ずしも一致するもので
 ないことを證する一例である。因にこの州はドイツ人が最も多く移住したところで醫學は非常に進歩してゐると
 云はれてゐる。

ウエークフィールド植民案の由來やその案の内容を委しく述べるに餘り長くなるから、ここにはただその要點

だけを述べることにする。

一八二九年、イギリスの一新聞に「シドニー便り」(Letters from Sydney) といふ續きものが連載され、
 れが後單行本となつたが、この本が非常に評判になつてイギリス人の濠洲に對する關心をそそり立てた。しかし
 著者エドワード・ギボン・ウエークフィールドは一度もシドニーはおろか濠洲のいづれの植民地へも足を踏み入
 れたこともない男で、それはただ色々な文献をたよりに書き上げられたものであつたが、讀者はそんなことは少
 しも知らなかつた。彼は魅力ある筆致で濠洲を描き、そこに好機が待ち受けてゐることを述べて彼の植民案の確
 實性を強調した。

彼は植民地の土地を安く拂下げることは植民政策の致命的誤謬であるとし、それに反對の持論を發表した。彼
 は「土地の價格が安いと労働者でも容易に土地を買ふことが出來て直ちに地主となるから忽ち労働の拂底を來す
 結果となる。之に反して土地が適正な高値を維持してをれば富裕階級の者だけが地主となることが出來、一方政
 府は土地を拂下げた金で濠洲へ労働者を移住させることが可能である。かくして植民地に上品な家庭を多く築くに
 至る。殊に濠洲は地味肥沃で天然の資源にも富むから、英國の二〇、〇〇〇磅は、濠洲で忽ちにして一〇〇、〇
 〇〇磅に増すことが出来る。」といふ意味のことを述べ、英國の小地主が濠洲に渡り廣大な農場主となつて理想
 の家庭を築き、贅澤三昧の享樂的生活を送るやうになることを、さもまことしやかに書き立てた。

彼の説は英國の各層の人の共鳴するところとなり、間もなく會社が組織されて、まづ試験地として濠洲の南部
 海岸が選定された。政府は直ちに許可を與へたが、その成功については幾分疑つてゐたので財政上の援助は與へ

なかつた。

囚人は一人も交へず自由移民だけを載せた二隻の船は一八三六年英國を出帆しまづ濠洲南部のセント・ヴィンセント灣の南に横はるカンガル島に着いた。しかしこの島は植民には全然不適當であり、間もなく海を渡つて本土のロフテュー山脈の裾の平原に新植民地を創設し、これを英國の女王の名に因んでアデレードと命名した。

しかし移住民は、理想の美しい農場主となるまでには少くとも二十年間刻苦勵精の生活を送らなければならぬことを知つて幻滅を感じた。彼等は肥沃な草原を期待してゐたところに目も當てられぬ荒蕪地を發見した。彼等はこれに嫌氣を生じ、開墾しかけた土地を捨ててアデレードの町に集り、町の土地を賣買して一儲けせんとする土地賣買業者が一時巷に氾濫した。折角本國から婢僕と労働者を滿載した船が着いても彼等に與へるべき仕事になかつた。こんな風であつたので、この新植民地は四〇〇、〇〇〇磅の負債を残して一時破産してしまつた。この苦い經驗から、その後は土地は廉價で賣出され、やがてあらゆる階級の勤勉な移民がこの植民地に移住して來た。間もなく南オーストラリアは農業に適することが實證され、金、銀、銅、殊に豊富な銅鑛が發見されたので一八七五年には堅實な基礎の上に立つ民主的植民地となつた。

ニュージーランド 濠洲ではないが、謂はば濠洲の弟分であつて濠洲とは引き離すことの出来ないほど濃い血で繋がつてゐるから、序に簡単にここに附記して置くこととした。

ニュー・サウス・ウェールズ植民地が始めて開設された頃から一八四〇年までの間に多くのヨーロッパ人（主に捕鯨者）がニュージーランド北島に渡來し、そのうちの或者はそこに定住した。

一八一四年、當時のニュー・サウス・ウェールズ長官キングの親友である英國教會牧師サミュエル・マースデンは、ケンダル及びホルの二人の宣教師と共に永久的植民を目的とする若干の移住民と多くの家畜を積載してシドニーから來り布教に努めたが、その効果は實に遅々たるものであつた。これがこの國に於けるキリスト教布教とイギリス人植民の最初である。

一八二五年、北島にイギリス人の植民が正式に始められ、同島は名義上だけはニュー・サウス・ウェールズの管轄下にあつた。

しかし實際には一八一七年から一八三六年までの間に、英本國政府は八回この島の併合を迫られたのを拒否したとのことである。嘗てウェリントン公が「英國は既に十分な植民地を持つてゐる。この上有色人種の英國民を増加することを欲しない」と云つた文句は、この間の消息を如實に物語るものである。

かかる英國政府の冷淡な態度に對して斷然抗爭してその不干渉主義を改めさせるため、不撓不屈の努力をしてつひに政府を動かしてその態度を改めさせたのは南オーストラリア植民地を創設したエドワード・ギボン・ウェイクフィールドであつた。

植民協會の創始者たる彼は南オーストラリアでの經驗を基礎として、一八三九年、ニュージーランドに植民地を創設した。

この植民地に關する限り保守退嬰主義であつた英國政府も、ウェイクフィールド一派の執拗な運動と活潑な行動に刺戟されたのとフランスがこの島に囚人を送つて植民地を創設せんとする計畫をもつてゐることを探知した

のどで、一八四〇年遂に意を決してニュージーランド全土を英領に歸し、ニュー・サウス・ウェールズ州の一屬領とした。

翌一八四一年、この國はニュー・サウス・ウェールズ州の屬領から離れて獨立の植民地となつた。

一八四八年、オックスフォード大學クライスト・チャーチ・カレッジの卒業生の主唱によつて組織されたキャントベリー會社の募集による移民は、南島に移住してクライストチャーチ市を創設し、同年設立されたスコットランド會社の募集に應じた移民を、有名なスコットランドの詩人ロバート・バーンズの甥トマス・バーンズ牧師とキャプテン・カーギルが率ゐて南島に移住して、スコットランドの舊都城エディンバラの古名を取りダニーデイン市を建設した。従つてこの兩市の移民は共に教養高くニュージーランド移民中の最優秀組であつた。以上述べたことを表示すれば左の通りである。

州 名	實際植民開始の年	獨立の植民地となりたる年
ニュー・サウス・ウェールズ	一七八八	一七八六
タスマニア	一八〇三	一八二五
西オーストラリア	一八二九	一八二九
クインズランド	一八二九	一八五九
ヴィクトリア	一八三四	一八五一
南オーストラリア	一八三六	一八三四
ニュージーランド	一八一四	一八四一

第二章 移民問題と土地問題

第一節 移民問題

移民に對する賛否兩階級 植民の當初に於いては濠洲大陸全部をその支配下に置くといふ考へは英國政治家の胸中にはなく、彼等はそれが一つの大陸であることさへ知らなかつたのである。またよし知つてゐたとしても彼等はその價值については毫も概念なく、ただアメリカを失つて以來、本國でその處置に困つてゐた流刑囚徒を移住さす土地を欲してゐただけであつた。従つて前章に於いて述べた如く、濠洲は純然たる囚徒植民地として開かれたのであるが、その後自由移民の數が増加し、これに濠洲生れの者を加へると囚徒や釋放者の移民數を遙に凌駕する數となつたので、流刑囚徒移民を送ることに反對の叫びがあげられるに至つた。

しかし一方には移民に強硬に反對する勞働階級があり、一方にはそれを希望する資本家や大地主があつて兩者は互に相譲らず鎗を倒つた。

前者の反對理由は、「濠洲には新移民に提供すべき容易に開拓し得る土地はないから、新移民は獨力で土地を獲得して開拓するだけの十分な資力を持参しなければ、恐らく彼等は都會に集中して生活のために在來の居住者と競争するに至り勞働過剰と經濟的壓迫を増加することは必然であつて、由々しき社會問題を醸すに至るであら

う。若し多数の者が移住すれば、需要供給の關係上、折角在來の労働者が國民的理想として掲げてゐる生活標準を實現さす労働者の力を弱め、一層向上した社會狀勢と富の分配を創造するために高率賃銀によつて築き上げられたものを打壞すだらう。」と云ふのであつた。

後者は新移民を産業的競争者とは見ず富の生産者で同時にまた消費者であるとして適當な労働輸入を力説し、「この國土の到る處で、凡ての生産に於いて生産者は労働の不足のために非常な障礙を蒙り、産業を發達さすことを阻止されてゐる。移民は富の生産者であるのに、益々多くの労働力を生産的に用ひ得る國がさうすることをしないならば、その經濟的發展を故意に抑制してゐるものと云はねばならぬ。更にまた移民の消費力は頗る經濟的重要性を帯びてゐる。濠洲に於いては農産物は國內の需要を充してなほ充分の餘剰があるが、製造業は未だ幼稚の域にある。しかし生産能力と人口の増加に比例しての従業員の数との二つの點から見て、現在の速度で發達して行つても濠洲は早晩自給自足の製造國となり必ずその過剩製品を輸出せなければならなくなるだらうが、世界市場に於いて競争するには製造業者が低率賃銀労働を豊富に使用し得る國と同等の立場にゐなければならぬ。濠洲に於いても早晩賃銀低下の必要を生ずるであらう。この災害を避けるため、濠洲は自然増加か或は移民によつてその人口を増加し、國民をしてその増産した製産物を消費さすのが賢明である。」と唱道した。

労働者は海外からの移民を歓迎せず 斯く兩者が各自その主張を固持して相譲らないので、この問題に關する政治的行動は常に兩極端に走つた。一八九〇年代に起つた經濟恐慌時代に於いては政府補助移民は殆んど停止された。一九〇五年には契約移民法を制定したが、これは白人の濠洲移民を公然と制限した唯一の法規で、濠洲勞

働者の生活標準を破壊する競争に對して彼等を保護する目的を公然と表はしたものであつた。しかし農牧労働者と熟練工の必要が切實に生じた時に聯邦、州兩政府とも移民に關心を持つやうになり、その運動は一九一一年から第一次歐洲戰爭の勃發するまで英帝國領土内に於いて續けられた。濠洲労働者もやつと濠洲の産業を發達さすことの必要を痛感し、移民によつて廣大な空閑地を滿たすことの賢明なるを實感し始めた。しかし我儘な濠洲労働者は、農牧地が科學的並びに經濟的に可能な線に沿ふて國民の利用し得るやうな方法が講じられるまでは、かかる政策が賢明であることを確認しなかつた。

要するに労働者の移民反對理由は一言にして云ふと、「現在の住民に充分な職を與へ安逸な生活を保證することが出来るまでは、海外からの労働者の移民は許すべきではない」といふのであるが、労働市場の需要供給を徹底的に調査した委員の報告によると老幼男女を問はず、苟くも働く能力あるもので生活給料を得る職につく事の出来ないものは一人もないことを證明してゐる。成る程世の終りまで、濠洲に於いても世界の他の部分に於けると等しく失業者があるであらう。しかし濠洲に於ける失業者は他の部分に於ける失業者と異り不適當な仕事に従事せんことをあこがるるが故であつて、苟くも職に適任で飽くまでその職を固執する人には仕事があり餘るほどあるのである。

労働者が新移民者を喜ばないも一つの議論は現在の労働者の職を奪ふからとの懸念からであるが、移住して來る労働者は悉く製産者であると同時に又消費者であることを彼等は忘れてゐるのである。一千人の移民が濠洲に入國すれば直ちに他の一千人に職を與へることとなり、消費は製産と等しく増加するのであるから、濠洲労働者

の頑迷は沙汰の限りである。

濠洲はその人口の割合からすれば世界最大の輸入國であるが、これは輸入品が國內生産品より廉價であるからである。斯う云ふ情態であるから、濠洲は一日も早く人口を増加して産業を興し自給自足の域をも超えて、その過剰生産品を海外に送ることがこの國の國是とする民主主義の國策を遂行する捷徑である。濠洲が大東亞共榮圈内の一環となつて始めてこれが實現が可能なのである。

過去十年間に於ける人口の増加は僅に六十萬人許りであるが、しかも増加せる地方は移民政策を多少進歩的に改善してゐる州である。

第八五表 入國及び出國者表(旅行者をも含む)

年	入國者數	出國者數	入國者と出國者の差
一九三三	四七、七九二	四七、五七八	+
一九三三	五三、七〇四	五一、四二四	+
一九三三	五五、四一六	五五、七〇五	-
一九三三	五九、八九四	五八、三九七	+
一九三三	六九、八〇二	六四、五九九	+
一九三三	八(自一月至九月)	五三、三八六	+
	五四、二九四		九〇八

第二節 濠洲人の強慾主義と一部濠洲人の述懐

濠洲人の強慾主義 白人の永住に不可能な濠洲の熱帯地域が開發さるべき資源を藏しながら、移住に適するアジア民族に門戸を閉ぢて未開發のまま放置されてゐる現狀に眼をそそぐ時、不法極まる濠洲人の強慾主義に對して憤激措く能はざるものがある。

濠洲の熱帯地域の氣候は白人の永住には適しないのであつて、少くとも、病人老人、子供の生活を峻拒する。この地域に少數居住するものありとしても、女子供は常にシドニー、メルボルン其他各州の氣候のよい都會地を好み、大抵六ヶ月か一年でそれらの都會に歸り、一年以上熱帯地域に留まるものは極めて少ない。男子でも何年も踏み留つて開拓に従事してゐる者は大抵はスコットランド系のものである。實際刻苦缺乏に堪へるスコットランド系の者には私は常に感嘆した。スコットランド人は「世界到る處に青山あり、骨を埋むる豈墳墓の地のみならんや」といふ文句を文字通り實行してをり、猛獸が住み隣家へは百哩以上離れてゐる南アフリカの山奥でも、不便極まる濠洲の奥地でも孜々として開拓に従事してゐる。これが世界到るところに英國の植民を容易ならしめた主動力の一であらうと私は常に思つてゐる。これから大東亞共榮圈内で活動せんとするわれわれ日本人の大に學ぶべき點である。

こんな次第で、從來濠洲の熱帯地方の開發は大東亞民族殊に中華民國人の手によつてなされたものである。現

に大東亞戰爭勃發以前までは、邦人は木曜島、ダーウィン、ブルームを中心とする特有の技術を以てアラフラ海の眞珠貝採取に従事してゐたし、また嘗てはクインズランドの甘蔗栽培にはカナカ人と共に中華民國人、印度人、邦人も活躍した。中國人が濠洲北部地方の開発に與つてゐることは更に多く、大陸縦貫鐵道及び電線の北部建設は中國人労働者の手によつて完成されたのである。ダーウィンからバイン・クリークに至る鐵道の如きは中國人労働者の手をかりなくては蓋し完成は至難であつたらう。金坑及びその他鑛山は安價で勤勉な中國人労働に負ふところが多大であつた。嘗ては東亞民族の渡濠を歓迎しその優秀な技術や勤勉な労働力を利用した濠洲人が、經濟の基礎が確立すると今度は自己の利益擁護に汲々としてアジア民族の移住を許さないのである。

由來、米英人は横暴な資本主義をふりかざして黄金の力によつて利己心を逞しくした。天意に適つた開發と生産は行はず、單なる利己心で行動し、苟も自己の利益に合せざれば天恵をも未開發のままに放置する。自ら勤勞と節儉を快しとせず、しかも本來濠洲の主たるべきアジア民族の好んで行はんとする勤勞まで拒んで、濠洲を飽くまで英國人系の濠洲たらしめんとする「強慾主義」即ち「秣桶中の犬主義」を固執してゐるのである。いつかは彼等に膺懲の刃を加ふべきであつたが、今やその機が到來したのである。

一 濠洲人の述懐 皮肉にも現在では熱帯地域は勿論のこと、都會地でも中國人は必要な一要素となつてゐるのである。一部濠洲白人の本懐を聽かう。

「一週間に二、三回時計のやうに規則正しく、ジョン（中國人を濠洲人はかく呼ぶ）が季節の野菜を一杯つめたふり籠を擔いで裏木戸へやつて來る。その野菜は新鮮で良質で、種類も多くおまけに安い、蟲といふ敵が澤山

ゐるので白人には野菜を作るだけの辛棒が出來ない。白人が栽培したのでは算盤に合はないのに、ジョンは丹精こめて作つてあんな安い値段でわれわれに供給して呉れる。野菜畑の耕作主は殆んど常に支那人だ。どんな小さい町でもなくてはすまされないこの食物には、この男の勤勉に頼つてゐるのだ。しかもこの男は一番輕蔑されてゐるが、兎に角最も信頼出來る人間なのだ。私は一度だつて彼に胡魔化されたこともなければ、彼が無作法な振舞や不親切な態度を示したのを見たこともない。われわれの間から支那人が影を没することを絶叫してゐる人々は、彼がゐらなくなつた時に、どれほどわれわれが不自由をしなければならぬかが分らないのだ。氣の毒な支那人ジョン！彼は非常に勤勉で非常に節儉で、罪もなく法を犯しもしない。彼の階級の白人にはよい手本だ。われわれの間にある諸外國人中、支那人だけが勤勉で節儉なるがため、百磅の人頭税を拂はされるのは少々ひど過ぎる。」

また一新聞の朝刊に次のやうな記事が載つてゐた。

「ガートルト街で洗濯屋を經營してゐる支那人ホップ・リーは一月二十六日土曜日從業時間後に働いてゐたので、商店法及び工場法に反するといふかどで今朝フイツツロイ警察署に召喚された。○警官が五時三十分頃彼の店に行つて見ると彼はカラーにひのしをかけてゐた。可哀相に、ホップ・リーは工場時間以外に自分のシャツにひのしをかけてゐたのだと辯解したが、聽き入れられず五磅の罰金に處せられた。」

この記事でも明白な通り就業時間はかほどまでに嚴守されてゐる。これは移民を拒否して人々を少くし、仕事を多くして勞働の需要を供給よりも遙に多くし、我儘な労働者を飽くまで増長させる主旨に基く労働者保護政策

によるもので、濠洲人の「強慾主義」は誠に徹したものである。

第三節 土地問題

無権利居住者 初期の總督は、土地を耕作し囚人労働を使用する者には無料或は少額の免役税支拂で土地を下附した。

一八三一年に無料下附制度が廢止され土地は競賣に附されることになつたが、その時までには既にニュー・サウス・ウェールズ州の全面積の五十分の一に當る三、九六三、七〇五エーカーの土地が處分されてをり、ヴァン・ダイーメンス・ランドでは同島の制限地域の大部分が無料で支給されてゐた。

最初土地が競賣に附された時には一エーカー（約四段二四歩即ち四、八四〇平方ヤード）五シリング（平價で四十八錢）の最低價格であつた。

この頃に無料下附でも購買でもなく、ただ單に未開墾地を無斷で占有する牧畜業者の大集が出來てゐた。釋放者及び脱走囚徒を含む多數の人々が未開墾地を無斷で占有し、小屋を建て土地を耕し、また屢々家畜を盗んで來て飼養してゐた。これ等の人々は「無権利居住者」と呼ばれて正當な牧畜業者から蛇蝎の如く嫌はれてゐた。

一八三五年の治安委員の報告は次のやうに述べてゐる。

「これ等の人々の不法行爲は國土無斷占有制度によつて容易ならしめられ、この惡風は今やあまねく行はれてゐる。刑期終了囚人或は假出獄許可囚人は一般人の目の届かざる遠隔の地において無斷で土地を占有し、臨時の

用に小屋を建て『無権利居住者』となつてゐる。」

しかしこのスコッター (Squatter) なる語の意味は間もなく變り、許可を得て土地を所有する人にも適用されるやうになり、今日では濠洲の主なる牧畜家の稱となつてゐる。

スコッターは牧畜許可の下に土地を下附され、一ヶ年一〇磅の地代と畜類一頭につき小額の税を納入した。パーク總督時代にはスコッターは一ヶ年一〇磅を納入すれば、その欲するだけの數の牧場を所有することを許されてゐたが、一八四四年、ギブス總督は各牧場毎に別個の許可を受くべしとの法律を制定して牧畜家の嫌惡するところとなつた。

各州議會を悩ませし土地法 一八三八年には土地の最低價格は一エーカー五シリングから一二シリングに上げられ、一八四〇年には再び引き上げられた。當時なほ土地が一エーカー一二シリングの最低價格で競賣に附されてゐたニュー・サウス・ウェールズ州の移住地を除く外は、全部一エーカー一磅の劃一値段で賣るべしとの指令が英本國首相ジョン・ラッセル卿によつて發せられたが、ギブス總督が強くこれに反對したのでこの規定は間もなく廢止された。そして一八四二年には土地は確定値段でなく一エーカー一磅の競賣最低値段とされた。これは各植民地が自治を許され、各自欲するままに土地を處分するやうになるまで續いた。

爾來、土地問題は殆んどすべての植民地を通じての難問題となり、一八七〇年以來、ニュー・サウス・ウェールズとヴィクトリアの二州では五度、クインズランド州と南オーストラリア州では七度に互つて土地法が改正された程で、各州議會は絶えずこの問題に多大の注意を拂ひ、しかも各州ともこれを多少拙劣に取り扱ひ、結果は

往々所期に反するところがあつた。

キャヴァンの土地法 金が發見されて各植民地の人口が急激に増加するまで手もつけず放置されてゐた地域は實に廣大なもので、殆んど無限と云つてもよいから有り餘つてゐた。しかしいつしか金が豫期した程採取されない状況に立ち至ると、金採取の目的でイギリスを主としその他世界各國から濠洲新植民地に殺到し來つてゐた大衆は採金以外で生計を立てなくてはならなくなり、「土地開放」の叫びがまづヴィクトリア州とニュー・サウス・ウェールズ州とに擧つたが、この時には既に最も手に入れ易く最も肥沃な廣大な地域がスコッターによつて占有され、主として牧場として使用されてゐた。

前述の兩州では法令を發布して困難に堪え得る強壯な自作農を各所に定住させようとの企てが試みられた。これがニュー・サウス・ウェールズ州に於てはサー・ジョン・ロバートソンの所謂「調査前の自由選擇」であり、ヴィクトリア州ではサー・チャールズ・キャヴァンの土地法であつた。

要するに、この土地法の主要目的は土地所有者をその所有地に定住させ且つ各地に農耕地或は農耕地兼牧場の出現を奨励し、大地主の土地の獨占を阻止するにあつた。しかし大多數の移民の目的はこれに反して法律上の義務を果すや否や、その所有地を處分しその所有地に定住することを避けることにあつた。つまり政府と民衆との目的には非常な懸隔があつて實際の結果は必ずしも政府の期待に副ふものではなかつた。

多數の移民は各所に土地を自由選擇したが、これは自分が定住する目的で選擇したのではなく、隣接地に定住してゐるスコッターを困らしてそれに賣りつける手段としてに過ぎなかつた。その方法として土地選擇者は一區

劃の地を選び、スコッターの家畜が水を得られないやうに妨害し、出来るだけの高價でスコッターに賣りつけるのであつた。

こんな状態で、多くの場合事態は益々悪化の一途を辿つた。スコッターは土地選擇者から土地を買収し或はその親戚や雇人の名儀で土地を選擇して所謂「傀儡を使ふ」結果、廣大な土地所有を阻止するために發布された法律は却つてそれを助長することとなり、大地主の出現を促進する結果になつた。

實に奇妙な事實だが、濠洲の民衆が常に大地主に抱く嫌惡の情は大地主よりも餘程莫大な資本を擁する實業家に對するより以上に深いのである。

濠洲の殆んど全部の州とニュージールランドでは、近年強制或は勧誘によつて廣大な土地を「破裂」さす手段がいろいろと講ぜられて來た。重税を課することがその主要な手段であつて、労働黨内閣時代に聯邦議會は未耕地に五、〇〇〇磅或はそれ以上の特別税を課する法律を制定した。このために多くの廣大な土地が再處分されたことは確かであるが、同時にまた多額の脱税やごまかしも行はれたのである。

濠洲國民經濟の特質が原始産業にありしかも濠洲の原始産業の大宗が農牧業にあるのであるから、この國に於いて古來土地問題が國民關心の中心となつたのは當然である。

土地制度 濠洲に於ける土地制度の特徴は廣大な土地所有にある。これは過去に於ける自由移住の歴史に基くところが大であつて、植民地開設の初期即ち一七八八年から一八三一年に亘る英本國政府の土地讓渡、續いて一八三二年から一八六一年に及ぶ放牧地借用免許等に基因するところも極めて大である。濠洲は不毛地域が度大で

あり、しかも人口は尠少でしかも肥沃な土地は農牧業に好適であるため、土地に関する諸政策を可能ならしめたのである。

マツカーサーによつて創始された牧羊業はやがて資本家的牧羊業者による大土地所有の結果を生じ、多くの牧羊業者、土地會社等が廣大な土地を所有するに至り、聯邦形成以前に於いて既に大土地所有制が確立された。かくて濠洲の土地制度の特徴は廣大な土地所有となつたのである。かく大土地所有が支配的であることはこの國の牧畜業及び農業經營が大規模であることを物語るものである。

因に濠洲の土地制度に於いて繼承權と移讓權の二點は考究の價値がある。簡単に云ふと、長子相續の法律が濠洲の法律から削除されてから既に久しきに及んでゐる。遺言のない不動産處分については各州それぞれの法事が制定されてゐるが、一般的には不動産を個人の所有財産の場合に於けると同じ方法で死亡者の縁故者間に分割するのがその特徴である。また多くの植民地で問題となつてゐる限定相續のやうな法律は存在しない。

不動産移讓に關しては所謂「トレンス制度」が各州に於いて實施されてゐる。この制度では讓渡證書による土地所有權が登録による土地所有權に代つてゐて、あだかも船荷の移讓が讓渡證書によつて効力を生ずると同じである。同時にまた絶對に破棄又は無効とすべからざる土地所有權を人民に與へてゐるが、これは濠洲一般に行はれてゐる方法で、一般民衆に取つては莫大な恩典であると見られてゐる。

第八六表 規模別所有地數表(一九三三—三四年度)

規模	別(單位エーカー)		南オーストラリア	
	ニュー・イースト・サウス・ウェールズ(1)	ヴィクトリア	クインズランド(2)	(3)
一	五〇	一三、六四〇	一九、三四八	六、四〇九
五〇	一〇〇	六、〇五八	八、四七五	一、八八三
一〇〇	五〇〇	二二、四七四	二六、六三五	五、七八七
五〇〇	一、〇〇〇	一一、〇二〇	一一、二四五	四、五一三
一、〇〇〇	五、〇〇〇	一四、六一二	七、三五七	一、三三四
五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、七〇八	二九八	三四
一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	六五六	八一	九
二〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	三四七	一六	一
五〇、〇〇〇以上	一一八	一一八	一	二四、〇三五
計	七二、六三三	七四、四五五	三一、七八〇	
	西オーストラリア	タスマニア	聯邦	全濠洲(4)
一	五〇	五、〇二一	二、八三九	五二、一五四
五〇	一〇〇	七〇九	二、一三〇	二二、九五二
一〇〇	五〇〇	三、七五二	四、八四二	八一、五九〇
五〇〇	一、〇〇〇	二、二八〇	七一三	三四、九四九

移民問題と土地問題

一、〇〇〇—五、〇〇〇	八、七六七	六一六	一六	三八、四二六
五、〇〇〇—一〇、〇〇〇	五四三	九三	四	二、八七一
一〇、〇〇〇—二〇、〇〇〇	一〇五	五一	一	九六四
二〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇	二八	一七	一	四二七
五〇、〇〇〇以上	七	四	一	一三三
計	二二、二一二	一一、三〇五	四五	二三五、四六五

(附記)(1)永久賃借地六、〇三〇、〇八〇エーカーを含む

(2)世襲借地、賃借地、國有地すべてを含む。但し純農耕地のみにて、純放牧地を含まず。

(3)一九三〇—三一年度の数字。

(4)北部地域の数字不明なるため、同地域を含まず。

第三章 人口

第一節 人口總覽

人口は極めて稀薄 濠洲の總面積は地球の十七分の一を占めてゐるのに總人口は僅か七百萬足らずであるからいはばこの廣大な地域に東京の人口を散布したやうなものである。この國が將來どの位までの人口を容れることが出来るかは屢々論議されたが、或者は一億五千乃至二億くらると云ひ或者は三億くらゐは大丈夫だと云つてゐるが、とにかく土地の開発次第では四億くらゐの抱擁力があるのではあるまいか。

一九三八年六月末現在の總人口は、原住民を除いて六、八九三、〇八二人(内男子三、四八七、四〇五人、女子三、四〇五、六七七人)である。これを各州別に見ると左の通りである。

第八七表 州別人口表(一九三八年六月末日現在)

州名	男	女	計
ニュー・サウス・ウェールズ	一、三七一、七五九	一、三四七、一四二	二、七一八、九〇一
ヴィクトリア	九二二、五一五	九四四、五三二	一、八六七、〇四七
クイーンズランド	五二五、一一七	四七八、〇五五	一、〇〇三、一七二
南オーストラリア	二九六、一五六	二九六、一三六	五九二、二九二
西オーストラリア	二四二、六五一	二一七、五一〇	四六〇、一六一
タスマニア	一一九、〇一三	一一五、一六五	二三四、一七八
北部地域	三、九〇八	一、八六一	五、七六九
聯邦首都地域	六、二八六	五、二七六	一一、五六〇
計	三、四八七、四〇五	三、四〇五、六七七	六、八九三、〇八二

濠洲は植民地として始まつた國であるから、植民の當初に於いて男子の数が斷然女子の数を凌駕してゐたのは當然であるが、その後次第に男女の数が接近して來てゐる。しかし今なほ男子の数が女子の数よりは多い。